ドラえもんの学習シリーズ

ドラえもんの国語おもしろ攻略

かん字じてん

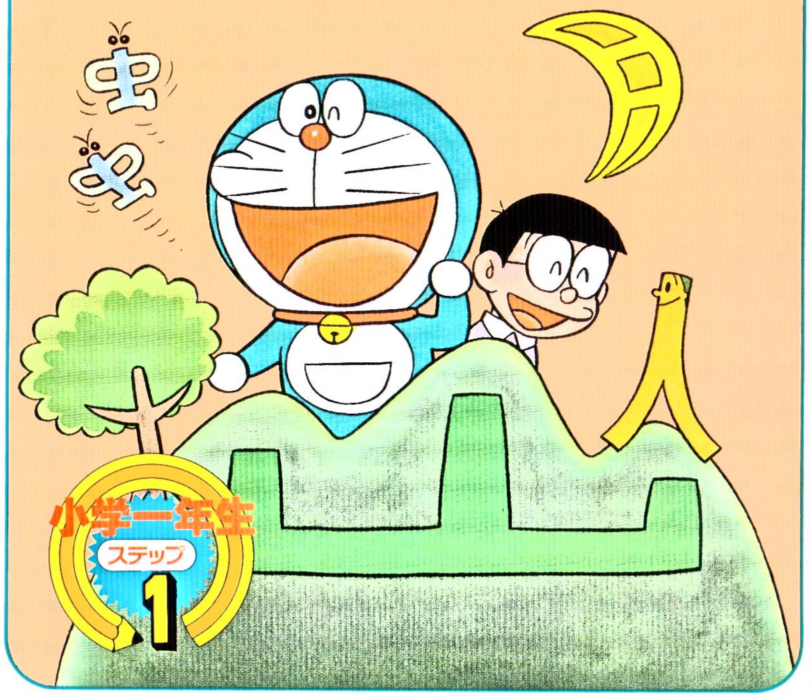
【キャラクター原作】藤子・F・不二雄
【著】栗岩英雄



ドラえもんの学習シリーズ

ドラえもんのかん字じてん

栗岩英雄：著



この本をつかうと、かん字がすきになる

みなさんのなかには、まだ、小学校に入るまえから、じぶんの名まえをかん字でよみかきできた人がいますね。また、かん字をべんきょうするまえから、「千円や壱万円」という、おさつのかん字がよめた人もいるでしょう。

どうしてなのでしょうか。

それは、まい日のくらしで、なんべんも目にふれ、ひつようなことでよんだり、かいたりするからです。

みなさんのすきな「まんが」をみるときだって、おなじです。おもしろいとおもうと、なんべんもくりかえしてよみ、ならわないかん字があっても、よめてしまいますね。

この本は、みなさんにかん字をたのしくおぼえてもらおうと、つくりました。

■右のページでは

- かん字のよこのえや、なりたちを見て、いみをかんがえます。
- じてんにつかってかん字のよみかた、かきじゅん、いみやことば、かん字のつかいかたをおぼえます。

■左のページでは

- ドラえもんのおもしろいまんがをなんども、たのしく見てください。
- そのページのかん字をつかったことばが、まんがの中に、いろいろ出てきますから、かん字やことばが、しぜんにおぼえられます。

この本は、かん字のべんきょうをしたいとおもってつかうだけでなく、いつでも、どこからでも、ページをひらいてなんかいもなんかいも、たのしくよんでください。

（この本の　つかいかた）

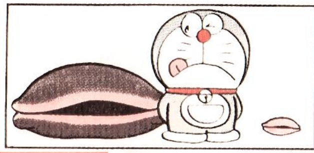
見出し

★左ページでは、ドラえもんのまんがを　よんで、見出しの　かん字の　つかいかたを　たのしく　おぼえましょう。

また、まんがの下には、しって　おくと　べんりな　ことが　まとめられて　います。

よみかた

かたかなは　おんよみ、ひらがなは　くんよみです。（　）の中の　字は、おくりがなです。



大

おん　ダイ　大小・大地・大名
　　　タイ　大火・大木・大りく
くん　おお　大水・大声・大空・大どおり・大あたり・大男
　　　おお（きい）　大きい・大きめ
　　　おお（いに）　大いに　あそぶ。

かきじゅん　一　ナ　大　3かく

いみと　ことば
1 おおきい。ひろい。　いみ
大空　ひろく　大きい　空。
大木　とても　大きな　木。
↕小　はんたいの　かん字

2 おおい。（大雨・大水）
大会　大ぜいの　人が　あつまる　会。
大金　たくさんの　お金。

3 すぐれて　いる。りっぱな。
大切　だいじ。そまつに　しない　こと。

つかいかた
◆大空に　ひこうきが　とぶ。
◆やきゅう大会が　はじまった。
◆おまつりで　大にぎわいです。
◆大事な本を　友だちに　かす。

なりたち



人が　手足を　ひろげて　立った　ようすを　あらわした　字だよ。

52

かきじゅんと　かく数

なん回で　かくか、また、かきかたの　じゅんばんも　しめします。

いみと　ことば

いみに　あう　ことばに　わけて、れいを　しめし、また、はんたいの　かん字も　↕の　しるしを　つけて、あげています。

つかいかた

よく　つかわれる　よみかたに　ついて、文の　れいを　しめして　あります。

なりたち

かん字の　なりたちを　絵で　あらわします。

もくじ

一年生でならうかん字 6

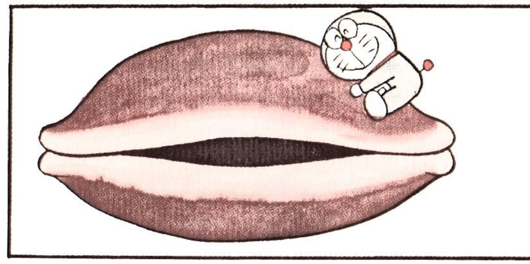
かん字もくじ

一 6　二 8　三 10
四 12　五 14　六 16　七 18
八 20　九 22　十 24　百 26　千 28　日 30
月 32　火 34　水 36　木 38　金 40　土 42
上 44　下 46　左 48　右 50　大 52　中 54
小 56　白 58　赤 60　青 62　目 64　耳 66
口 68　手 70　足 72　人 74　子 76　男 78

女 80　出 82　入 84　休 86　見 88　立 90　山 92
川 94　林 96　森 98　天 100　空 102　雨 104　花 106
草 108　竹 110　石 112　田 114　村 116　町 118　先 120
生 122　学 124　校 126　本 128　文 130　字 132　犬 134
虫 136　貝 138　円 140　王 142　玉 144　音 146　気 148
糸 150　車 152　正 154　夕 156
早 158　年 160　名 162　力 164

二年生でならうかん字 166

音訓さくいん 220



一

おん
イチ　一番・一年・一日
イツ　一本・一とう・一しょ

くん
ひと　一山・一口・一目
ひと(つ)　一つ

かきじゅん
一　一かく

いみと ことば

❶ひとつ。(一年・一ぴき)
一目　一ど だけ 見る。
一歩　ひと 足。ひと あゆみ。

❷いちばんめ。(一番・一年目)
一とう　きょうそうで 一番に なる こと。
一番星　日が くれて、いちばん 早く 目に つく 星。

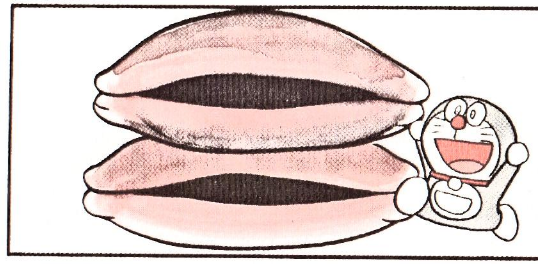
❸ひとまとまり。(一家・一門)
一山　つみあげた かたまりの 一つ。

つかいかた
- ◆みかんを 一こ いただく。
- ◆ごはんを 一口だけ たべる。
- ◆かけっこで 一とうに なる。
- ◆一れつに きちんと ならぶ。
- ◆一山 三百円の きゅうり。

なりたち
━ → 一
一本の よこの せんで、かずの 「1」を あらわして いるんだよ。



〔とくべつな　よみかた〕　一人(ひとり)・一日(ついたち)も　おぼえよう。



二

おん

二　二番・二年目・二さい

くん

ふた　二葉・二また

ふた(つ)　二つ・まっ二つ

かきじゅん　2かく

一　二

いみと ことば

1 ふたつ。(二本・二回・二ど)

二葉　草や 木の たねから めが でた ばかりの 二まいの はっぱ。

2 つぎ。にばんめ。(二年目)

二月　一月の つぎの 月。一年の 二ばんめの 月。

3 ふたたび。(二毛作)

二度　二かい。

4 ふたつに する。

二とうぶん　一つの ものを 二つに わける。

つかいかた

◆あさがおの 二葉が でた。

◆本を 二さつ よむ。

◆りんごを 二つに わける。

◆カーテンを 二重に する。

◆なしを 二とうぶんする。

なりたち

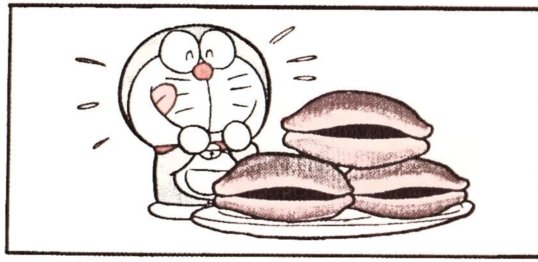


二本の せんを かいて かずの 「2」を あらわした 字だよ。





〔とくべつな　よみかた〕　二人(ふたり)・二日(ふつか)・二十(はたち)・二十日(はつか)が　ある。



三

おん

サン　三本・三番・三りん車

くん

み　三毛ねこ・三日月

み(つ)　三つ四つ・三つ子

みっ(つ)　三日ぼうず・三つ目

かきじゅん　3かく

一　二　三

いみと　ことば

1 みっつ。（三りん車・三びき）

三日ぼうず　なにを　やっても　三日も　やれば、やめて　しまうと　いう　ながつづき　しない　人の　こと。

三角形　三本の　ちょくせんで　かこまれた　かたち。

2 さんばんめ。（三学期・一年三組・三年目）

三月　一年の　三ばんめの　月。

つかいかた

◆白・茶・黒の　三色の　毛を　もって　いるのが　三毛ねこ。

◆空に　三日月が　でて　いる。

◆三月三日は　ひなまつり。

◆画用紙を　三角形に　きる。

◆右から　三人目が　先生だよ。

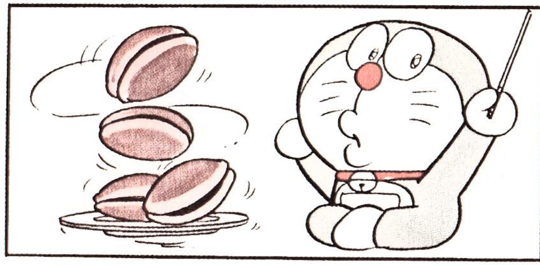
なりたち

三 → 三

三本の　せんを　ならべて　かずの「3」を　あらわした　字だよ。



（きを　つけよう）　まん中の　よこぼう〈2かくめ〉は　いちばん　みじかく　かく。



四

おん

シ　四月・四季・四方

くん

よ　四人・四すみ・四年生

よ(つ)　四つ角

よっ(つ)　四つ目・四日間

よん　四本・四回・四番

かきじゅん　5かく

丨　冂　四　四　四

いみと　ことば

❶よっつ。（四りん車・四こ）

四つ角　二つの　みちが　十の　かたちに　まじわって　いる　ところ。

四角形　四本の　ちょくせんで　かこまれた　かたち。

四方　①東、西、南、北、四つの　ほうがく。②まわり。

四季　春、夏、秋、冬、四つの　きせつの　こと。

❷よんばんめ。（四月・四人目）

つかいかた

◆きれいな　石を　四こ　ひろう。

◆四月に　一年生に　なった。

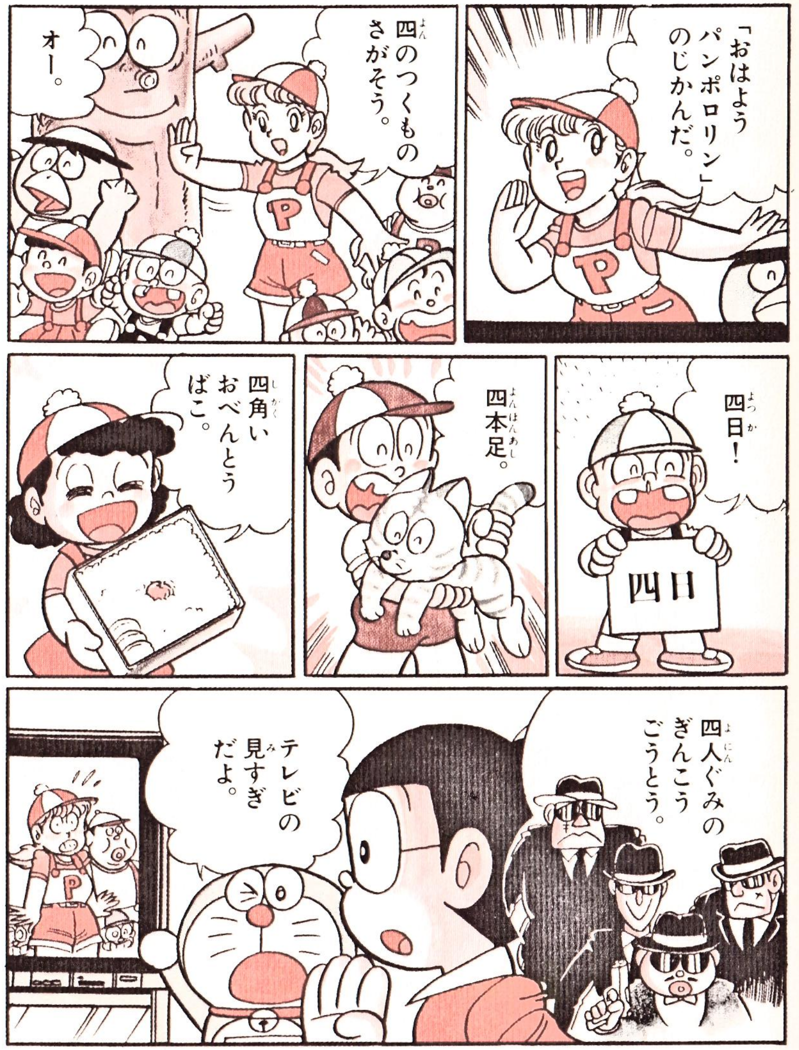
◆ひよこが　うまれて　四日目。

◆四回　つづけて　かつ。

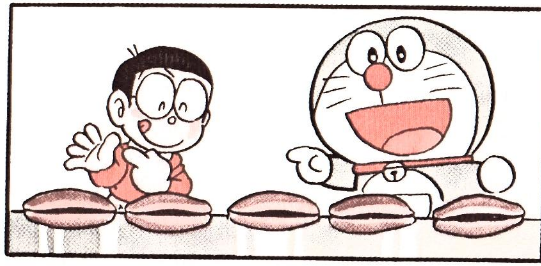
なりたち

口（四角い　かこみ）　八（わける　こと）　→　口・ル　→　四

二つに　わけ　さらに　一つ　ずつに　わかれる　かずの　こと。



（おぼえて　おこう）「四本」は、「しほん」とも　「よんほん」とも　よむ。どちらも　ただしい　よみかた。

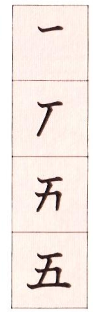


五

おん
ゴ　五本・五番・十五夜

くん
いつ　五日・五日間
いつ(つ)　五つ子・五つ目

かきじゅん　4かく



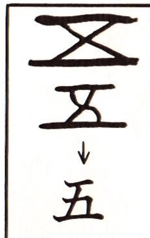
いみと ことば

1 いつつ。(五円・五もくならべ)
五色　あお・き・あか・しろ・くろの　五つの　いろ。
五線　音楽で　音の　たかさを　あらわす　きじゅんと　なる　五本の　へいこうせん。

2 ごばんめ。(五年生・五番)
五月　一年の　五ばんめの　月。

つかいかた
◆五月五日は　こどもの　日。
◆五人ばやしの　ふえや　たいこ。
◆おとうとは　もうすぐ　五さいになる。
◆五角形の　お星さまを　つくる。
◆五色まめが　おいしかった。
★五十音と　いうのは、「あいうえお・かきく……」の　五十の　音の　こと。

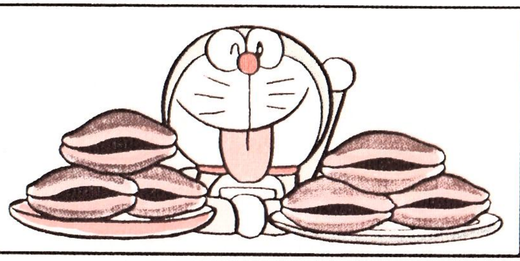
なりたち



二本の　せんが　まじわる　ことを　あらわした　字だよ。



〔きをつけよう〕「いつつ」を　「五つつ」と　かく　まちがいが　おおい。「五つ」が　ただしい。



六

おん
ロク　六年・六さい

くん
む　六つ子
むっ（つ）　六つ目
むい　六日・六日間

かきじゅん　4かく
丶　亠　亠ノ　六

いみと　ことば

1 むっつ。（六人・六回・六本）
すご六　さいころを　ふって、一から　六の　でた　かずだけ　すすみ、「上がり」に　早く　ついた　人が　かちに　なる　あそびの　こと。
六角形　六本の　ちょくせんで　かこまれた　かたち。かども　六つ　ある。

2 ろくばんめ。（六時・六月）
六月　一年の　六ばんめの　月。

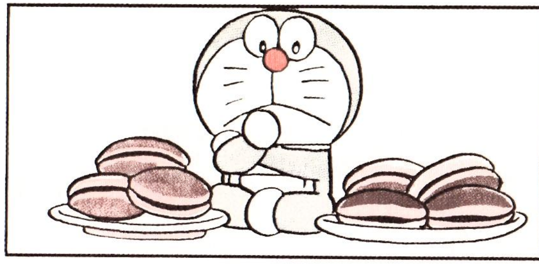
つかいかた
- ◆すご六で　あそぼう。
- ◆犬の　六つ子が　うまれた。
- ◆まえから　六ばんめに　ならぶ。
- ◆六かいも　かきなおしする。
- ◆あさの　六時に　おきる。

なりたち

↓
六
おおいを　した　あなに　はいって　いく　かたちを　あらわした　字。



〔きを　つけよう〕「六本」は　「ろくほん」ではなく、「ろっぽん」と　よむ。「六日」は　「むいか」と　よむ。



七

おん

シチ　七五三・七月

くん

なな　七番目・七ふしぎ

なな(つ)　七つ目・七つの子

なの　七日・七日間

かきじゅん

一　七

2かく

いみと ことば

1 ななつ。(七人・ほくと七星)

七色　七つの いろ。七しゅるい。

2 ななばんめ。

七月　一年の 七ばんめの 月。

七五三　男は 五さい、女は 三さいと 七さいの 十一月 十五日に、かみさまに おまいりして りっぱに そだつ ことを いのる ならわし。

つかいかた

◆一月七日には 七草がゆを たべる。

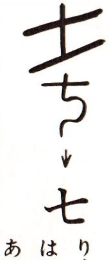
◆本を 七さつ かった。

◆七月七日は たなばたまつり。

◆みんなで、『七つの子』の うたを うたった。

◆七ころび八おきで がんばる。

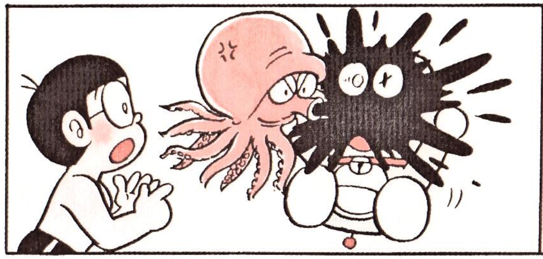
なりたち



十の かたちの とちゅうから きりすてた かたち はんぱな かずを あらわした 字。



〔とくべつな　よみかた〕「七夕」(たなばた)と　よむ。
七月七日は、七夕まつり(たなばたまつり)だ。



八

おん

ハチ　八年・八十八夜・八月

くん

や　八千代・八百屋（とくべつな　よみかた）

や（つ）　八つ当たり

やっ（つ）　八つ目

よう　八日・八日間

かきじゅん

ノ　八　2かく

いみと　ことば

1 やっつ。（八年・八けん）
八方　八つの　ほうがく。

2 はちばんめ。（八月）

3 かずの　おおい　こと。

八重ざくら　花びらが　なんまいも　かさなって　さく、さくらの　しゅるい。

八つ当たり　おこって　なにも　かんけいの　ない　人にまで　あたり　ちらす　こと。

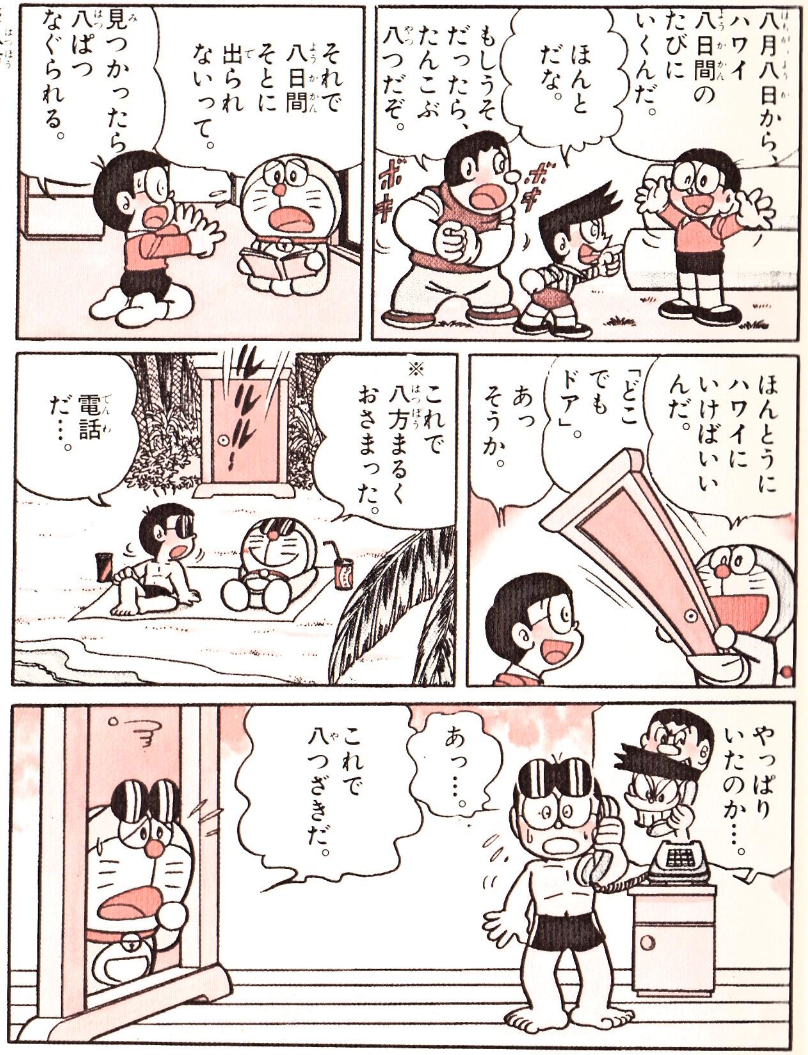
つかいかた

- ◆たこの　足は　八本です。
- ◆なつも　ちかづく　八十八夜。
- ◆おこづかいが　八百円　のこる。
- ◆八百屋さんで　なすを　かった。
- ◆なわとびが　八かい　とべた。

なりたち

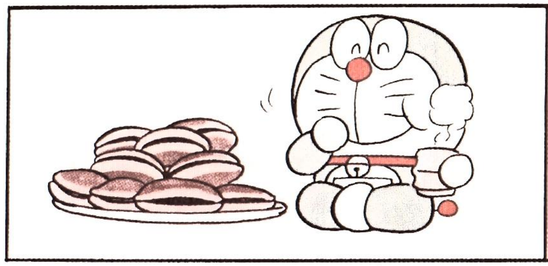


左と　右の　二つに　わける　ようすを　しめす。



※八方　まるく　おさまる…すべてが　うまく　いく。

〔きを　つけよう〕　ノと　乀を　くっつけると、「人」や「入る」に　なってしまう。「八」と　はなす。



九

おん
キュウ　九本・九ひき・九人
ク　九九・九月・九時

くん
ここの　九日・九日間
ここの(つ)　九つ目

かきじゅん
ノ　九
2かく

いみと ことば

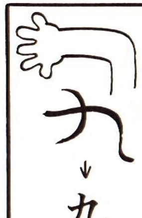
1 ここのつ。（九人・九さい）
九九　一から 九までの かずの かけざんと その こたえを、声に だして おぼえやすいように した べんりな かぞえかた。かけ算九九。

2 きゅうばんめ。
九月　一年の 九ばんめの 月。

3 かずの おおい こと。
九重　ものが いくつにも かさなって いる こと。

つかいかた
- ぼくの としは 九つです。
- 九月から 二がっきだ。
- 九州に 九回も いった。
- わたしは よる 九時に ねる。
- やきゅうの チームは 九人だ。

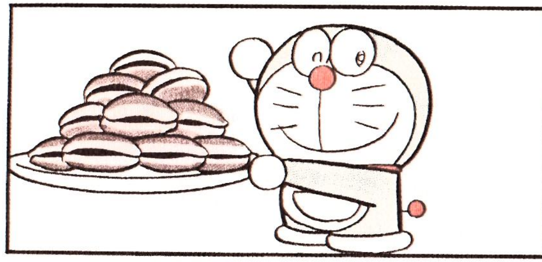
なりたち



ひじを まげた かたちを あらわす。ひとけたの かずの つきあたりを あらわした 字だよ。



（おぼえて おこう）「九人」は 「きゅうにん」でも「くにん」でも よい。



十

おん

ジュウ　十人・十月・十字ろ
ジッ　十本・十ぴき・十回

くん

とお　十日・十日間
と　十月・十人十色

かきじゅん　2かく

一　十

いみと　ことば

①とお。（十分・十円・十人）
十文字　たてよこ、十の字のかたちに　まじわっている　ようす。
十字ろ　十文字の　こうさてん。

②じゅうばんめ。
十月　一年の　十ばんめの　月。

③かんぜん。ぜんぶ。
十分　たりない　ところが　ない　ようす。

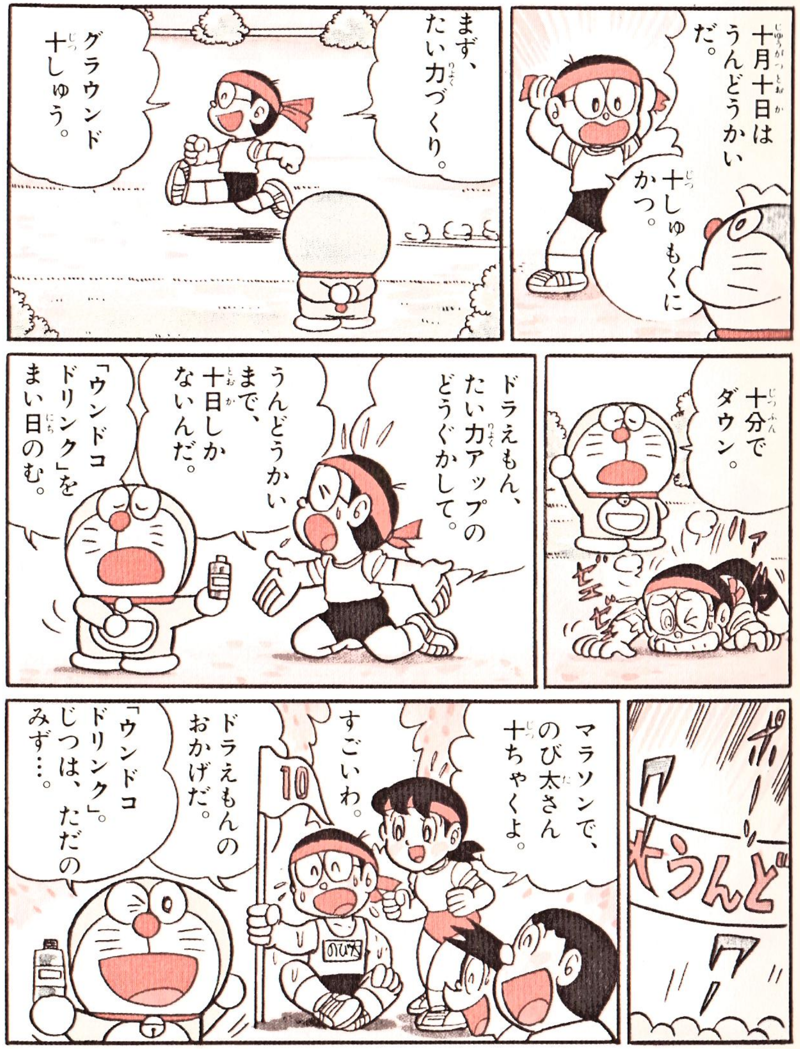
つかいかた

◆十月十日は　体育の　日です。
◆十円玉で　でんわを　かける。
◆いまの　時こくは　十時十分だ。
◆十台の　車が　とまって　いる。
◆十分に　れんしゅうを　して　しあいに　でる。

なりたち

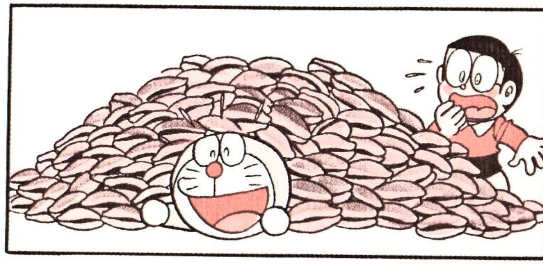
｜→十

たてせんは　ぜんぶを　一つに　まとめた　かたちで、あとで　まんなかが　よこに　のびた　字。





（きを　つけよう）「十」は、「とう」では　なく、「とお」。「十本」は、「じゅっぽん」では　なく　「じっぽん」。

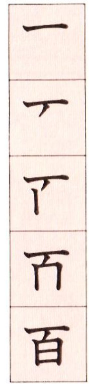


百

おん

ヒャク　百人・百年・二百円
百本・百こ・百羽

かきじゅん　6かく



いみと　ことば

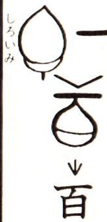
❶十の　十ばい。（百円・百人）
二百十日　九月の　はじめの　たいふうが　よく　くる　ころの　こと。

❷かずが　たいへん　おおいこと。（百科じてん・百発百中）
百貨店　いろいろな　たくさんの　しなものを　うっている　大きな　みせ。デパートの　こと。
百人力　百人の　力を　あわせたほど　力の　つよい　こと。
百発百中　ねらった　まとなどが　ぜんぶ　あたる　こと。

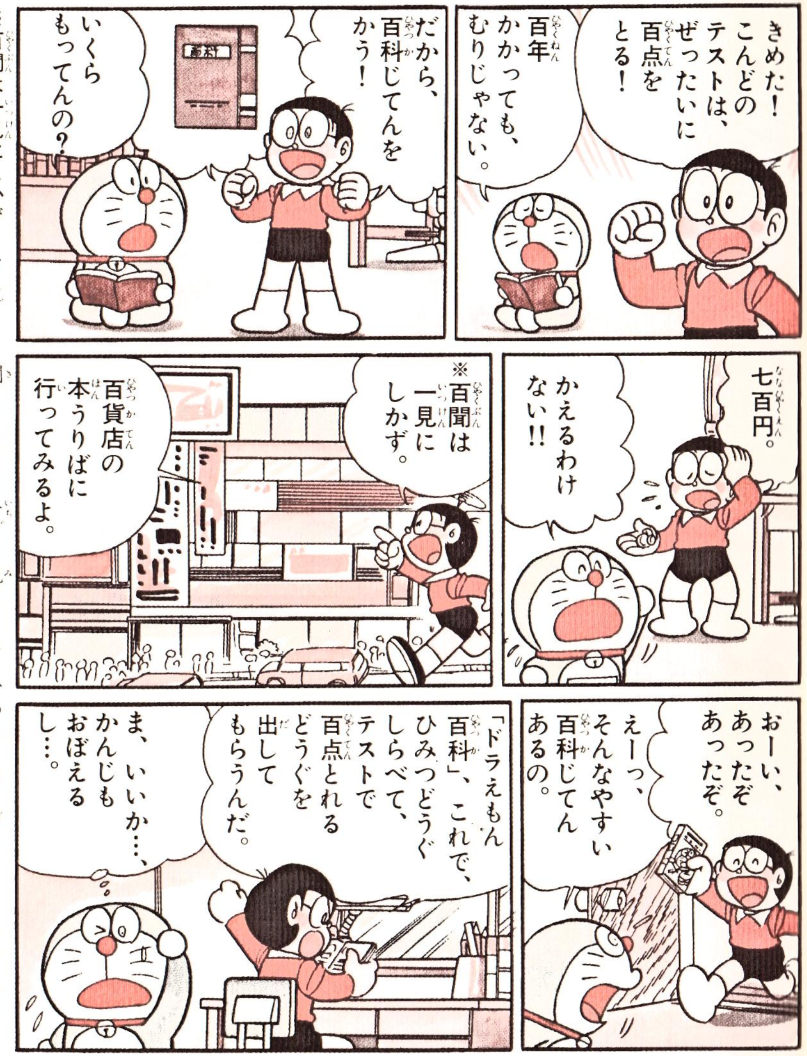
つかいかた

◆こくごの　テストは　百点だ。
◆こども百科じてんを　かう。
◆おみやに　三百年の　すぎの　木が　ある。
◆百円玉が　十こで　千円です。

なりたち

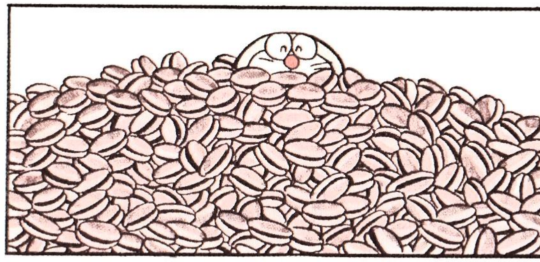


白は「ぴゃく」と音をあらわす。一は「ひゃく」が　一つ　あること。



※百聞は一見にしかず…なんども　聞くより　一ど　見て　たしかめた　ほうが　よく　わかる。

（きを　つけよう）「百」から　一とると「白」。「百」から　丆を　とると　「日」に　なってしまう。



千

おん　セン　千人・千羽づる・千円

くん　ち　千代紙・千草・千鳥

かきじゅん　ノ　二　千　3かく

いみと ことば

1 かずの「せん」。百の 十ばい。（千円・千年・千人）

2 かずの たいへん おおい こと。

千羽づる　おりがみで、つるの かたちを たくさん おって つなげた かざり。

千代紙　いろいろな もようを きれいに いろずり した かみ。

千人力　すばらしく 力が つよい こと。

千草　いろいろな 草。

つかいかた

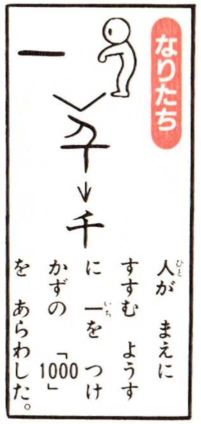
◆千円さつで 本を かう。

◆千年も たった すぎの 木。

◆千代紙を はって きれいな こばこを つくる。

◆千人力の おすもうさん。

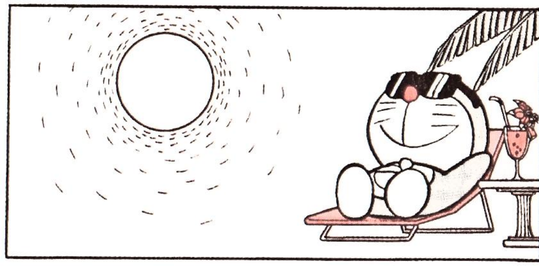
なりたち







（おぼえて おこう）　かたかなの「チ」は、「千」から できた 字。



日

おん

ニチ　日曜日・日時・えん日・十五日・日本・日記

ジツ　休日・当日・元日

くん

ひ　日の出・月日・たん生日

か　三日・五日・十日

かきじゅん　4かく

丨　冂　日　日

いみと ことば

1 ひ。たいよう。（日の入り）

朝日　あさの たいよう。

日光　たいようの ひかり。

2 ひる。ひるま。

日中　ひるま。

3 ひにち。（毎日・月日）

元日　一年の はじめの 日。

日記　まい日の できごとや、かんじた ことを かいた もの。

4 ようび。（日曜日）

つかいかた

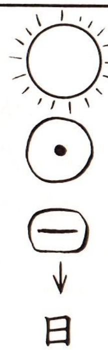
◆日の丸の はた。

◆くも 一つ ない 日本ばれ。

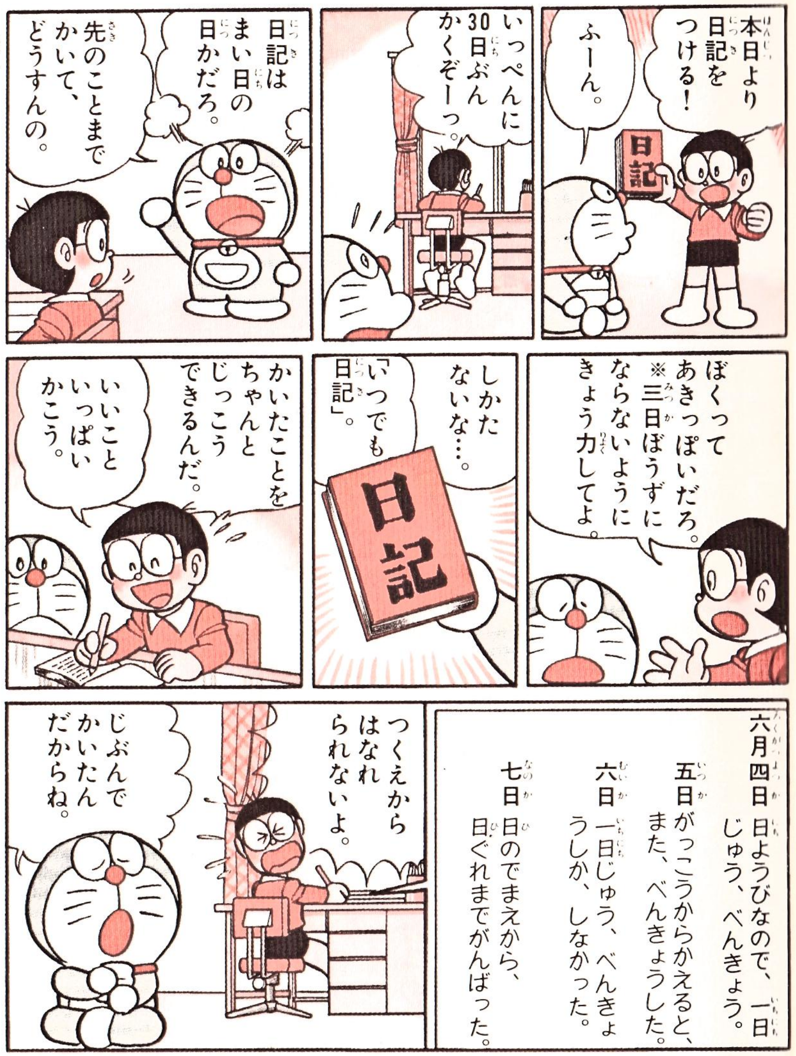
◆あしたは 休日です。

◆二日前に 山のぼりを した。

なりたち



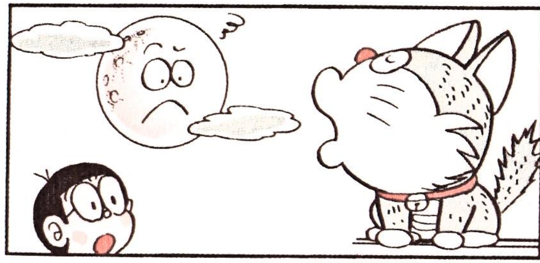
お日さま（たいよう）の かたちを あらわした 字だよ。



※三日ぼうず…すぐ あきて ながつづき しない こと、または その ような 人。



〔とくべつな よみかた〕 一日（ついたち）・二日（ふつか）・二十日（はつか）・今日（きょう）・明日（あす）。



月

おん
ゲツ　月曜・年月・まん月
ガツ　月日・八月・正月

くん
つき　月見・三日月・月日

かきじゅん　4かく

丿 ⺆ 月 月

いみと ことば

1 つき。（月夜・お月見・月光）
お月見　月を ながめて たのしむ こと。
まん月　まんまるい 月。
月光　月の ひかり。
月夜　月の あかるい よる。

2 ひとつき。（今月・先月）
正月　年の はじめの おいわい。一月の こと。
半月　一月の はんぶん。

3 ようび。（月曜日）

つかいかた

◆お月見の だんごを かざる。
◆月あかりの みちを あるく。
◆月日の たつのは はやいもの です。
◆正月には たこあげを します。
◆まん月の よるは あかるい。

なりたち



月
三日月の かたちを あらわした 字だよ。





（おぼえて　おこう）　お月さまの　かたちは　いろいろに　かわる。まん月・半月・三日月が　ある。



火

おん　カ　火山・火事・火曜・火力

くん　ひ　火花・火ばしら・火ばち・たき火・花火

かきじゅん　4かく

丶　丷　火　火

いみと ことば

❶ひ。ほのお。（たき火・花火）

火山　じめんの 下から とけた いわが ふきだして できた 山。

火あそび　火で いたずらを する こと。

❷ものが もえる こと。

火事　たてものや 山の 木などが もえる こと。

❸ようび。（火曜日）

つかいかた

◆**火あそび**は 火事の もと。

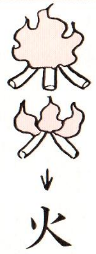
◆**火の** もとを たしかめてから ねます。

◆**たき火**に あたる。

◆うち上げ**花火**を 見る。

◆町の しょうぼうたいの 防**火**くんれんを 見に いく。

なりたち



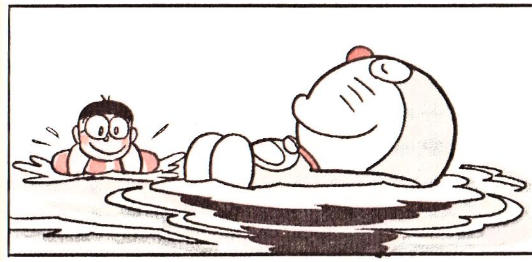
→ 火

火が もえる ようすを あらわした 字。



（きを　つけよう）火の かきじゅんは、左てん(・)右ちょん(・)、それから 左はらい(ノ)→右はらい(㇏)で ある。

水



おん

スイ

水曜・水中・水田・水ぞくかん・海水・下水

くん

みず

水色・水あび・水でっぽう・雨水・大水

かきじゅん

亅 才 水 水

4かく

いみと ことば

❶みず。（のみ水・水あそび）

大水　雨が　ふりつづき、川の　水が　あふれる　こと。

水泳　うみや　川、プール　などで　およぐ　こと。

地下水　雨　などが　しみこんで　ち中に　たまって　いる　水。

❷水の　ような　もの。

水ぐすり　水に　とかした　くすり。

❸ようび。（水曜日）

つかいかた

◆水車が　ゴットンと　まわる。

◆夏休みに　海水浴に　いく。

◆水とうの　水を　のむ。

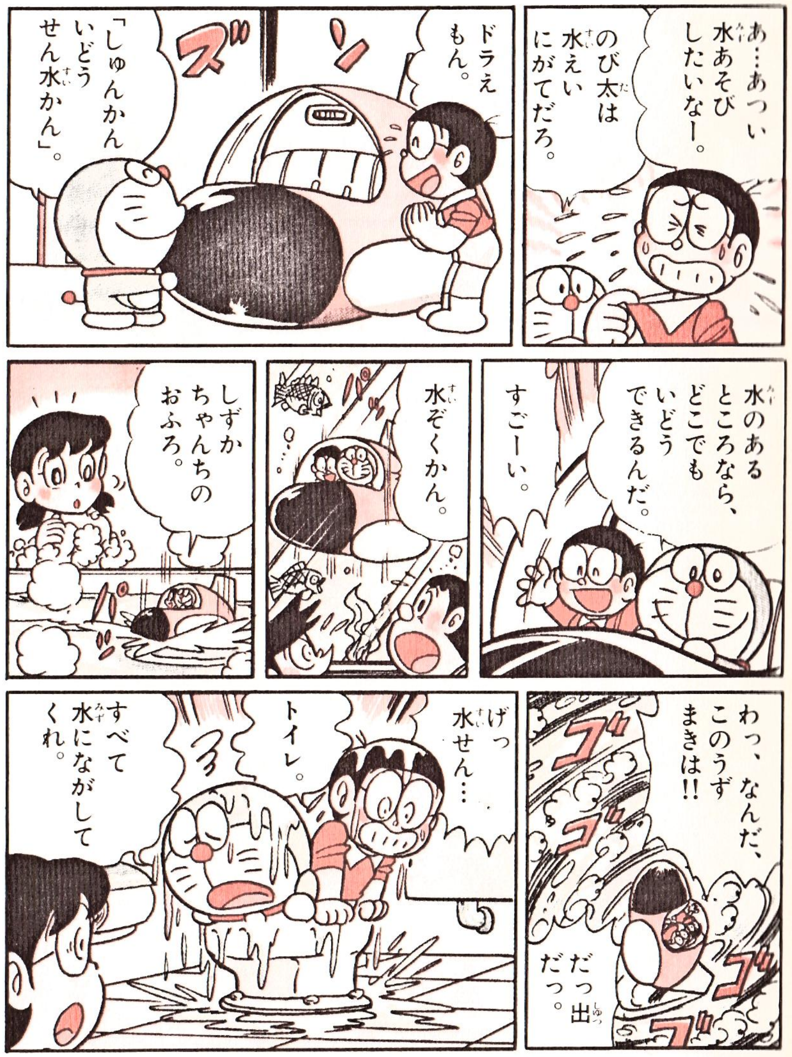
◆きれいな　ふん水を　見る。

◆水玉もようの　ふくを　きる。

なりたち



ながれる水のようすをあらわした字だよ。



（おぼえて　おこう）　水かけごっこ・水でっぽう・ふん水・色水あそびなど、水あそびは　たのしいね。



木

おん
ボク　木刀・大木・高木
モク　木曜・木材・じゅ木

くん
き　草木・つみ木・なみ木
こ　木立・木の実・木の葉・木かげ

かきじゅん　4かく
一　十　才　木

いみと　ことば
1 はえて　いる　木。（立ち木）
草木　草と　木。
なみ木　みちに　ならべて　うえて　ある　木。
木かげ　木の　下の　日かげ。
大木　みきが　たいへん　ふとく、おおきな　木。
2 ものを　つくる　ざいりょうの　木。（木造・木材）
材木　木を　きって、はしらや　いたに　した　もの。
3 ようび。（木曜日）

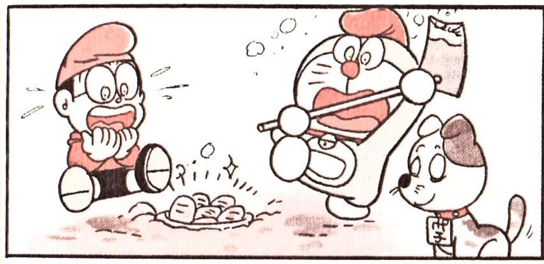
つかいかた
◆つみ木で　あそぶ。
◆木きんえんそうを　する。
◆木かげで　休む。

なりたち

しっかり　ねを　はった　木の　かたちを　あらわした　字。



〔きを　つけよう〕「木」を「こ」と　よむ　ことばが　ある。木立・木かげ・木の間・木のは・木のみ　など。



金

おん

キン　金曜・金色・金銀

コン　金色・黄金

くん

かね　金もち・金ぐら・黄金

かな　金もの・金づち・金あみ・金ぼう

かきじゅん　8かく



いみと　ことば

1 きんぞく。かね。（金づち）

金ぞく　金、銀、どう、てつな　どの　こと。

金あみ　はり金で　あんだ　あみ。

2 きんいろ。きん。（金色・金貨）

金貨　金で　つくった　お金。

3 おかね。（金もち・金庫）

ちょ金　お金を　ためること。ためた　お金。

4 ようび。（金曜日）

大金　たくさんの　お金。

つかいかた

◆こづかいを　ちょ金する。

◆かわいい　金魚を　かう。

◆金庫に　お金を　しまう。

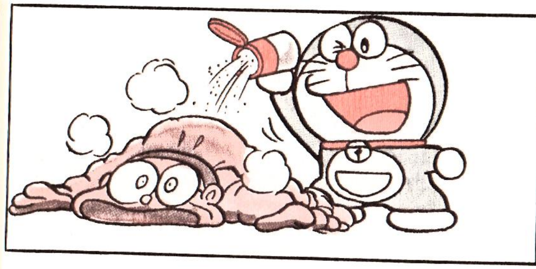
なりたち



亼（中に　ふくむ）と　土（つち）と　∷（金の　つぶ）を　あわせた　かたちの　字だよ。



〔きを　つけよう〕「金」を「かな」と　よむ　ことばが　ある。金もの・金あみ・金づち・金ぼう・金わ　など。



土

おん

ド　土手・土足・土曜・土ひょう・ねん土・国土

ト　土地

くん

つち　土色・土けむり・赤土

かきじゅん

一　十　土　3かく

いみと　ことば

1 つち。どろ。（土いじり・土ぼこり・土けむり・赤土）

ねん土　ねばりの　ある　土。

土足　はきものを　はいた　ままの　足。

2 じめん。（土地・土手）

土間　いえの　中で　じめんの　ままの　ところ。

3 ひとが　すんで　いる　ところ。（国土・本土・風土）

きょう土　じぶんが　生まれ、そだった　ところ。いなか。

4 ようび。（土曜日）

つかいかた

◆花だんの　土を　たがやした。

◆赤土の　ねん土を　こねる。

◆土手を　さんぽ　しましょう。

なりたち

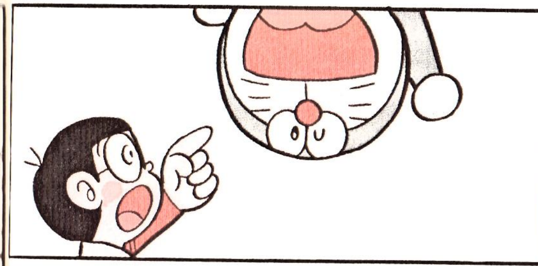


下の　一は　じめんを　あらわす。そこから、めが　出て　いる　ようすを　あらわした　字。





〔おぼえて　おこう〕土で　つくられた　もの。土かん・土ぞう・土べい・土き・土びん・土ひょう・土のう　など。



上

おん

ジョウ　上下・上級生・水上
ショウ　上人

くん

うえ　上下・年上・ま上
うわ　上ばき・上着・上手
かみ　上手・川上・風上
あ(げる)　ね上げ・切り上げ
あ(がる)　上がり口・雨上がり
のぼ(る)　上りざか・上り列車
のぼ(せる)　湯で上せる
のぼ(す)

かきじゅん

丨　ト　上　3かく

いみと ことば

①うえ。たかい ところ。
地上　じめんの 上。
ちょう上　てっぺん。山などの いちばん たかい ところ。
②そとがわ
上着　そとがわに きる ふく。
③よい。（上天気・上品）
上等　すぐれて いる こと。

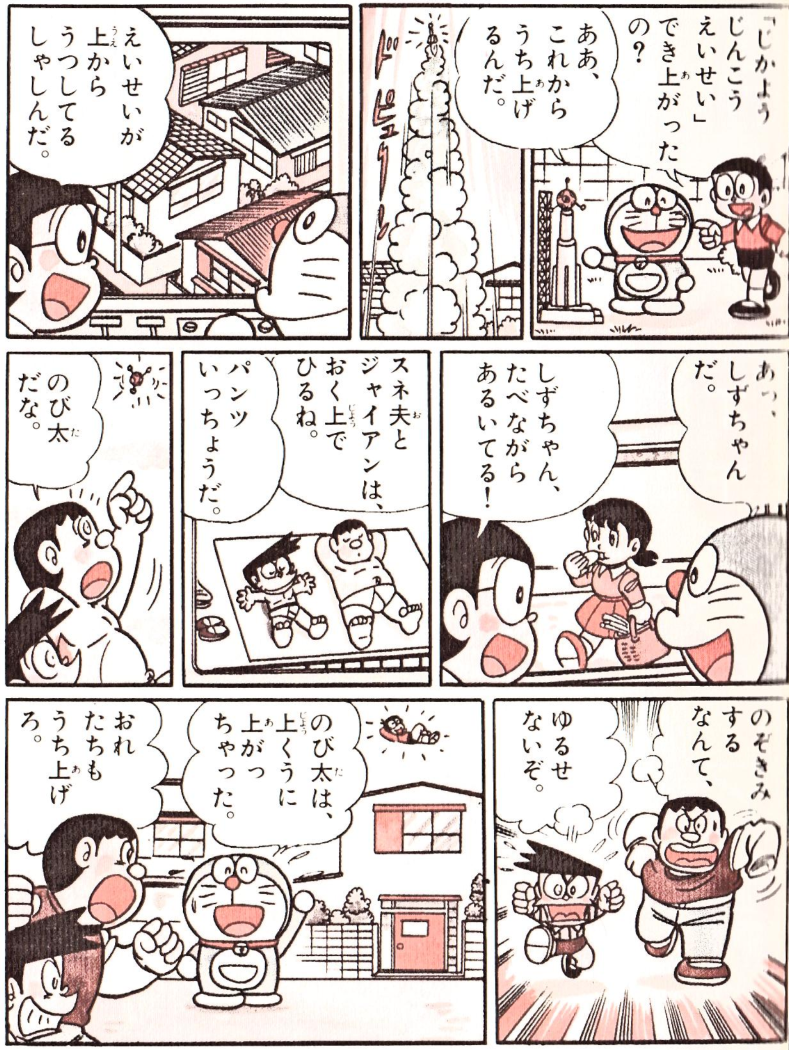
つかいかた

◆草の 上に ねころんだ。
◆高い 木に よじ上る。

なりたち

二 → 丄 → 上

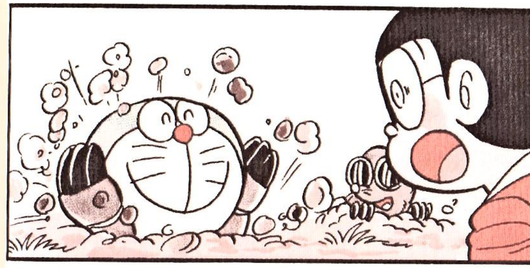
㇗は じめんの こと。
一は たかい ところ。
うえと いう ことを あらわす。





（とくべつな よみかた）「上手」は、「上手なげ」などと つかうが、とくべつに（じょうず）とも よむ。

下



おん

カ　下りゅう・地下・天下

ゲ　上下・下水・下校・下車

くん

した　下ばき・下じき・ま下

しも　下手・川下・風下

もと　足下・はたの下

さ(げる)　お下げがみ

さ(がる)　ね下がり

くだ(る)　下りざか・下り列車

くだ(す)　はら下し

くだ(さる)　お(ろす)　お(りる)

かきじゅん

一　丅　下　3かく

いみと ことば

1 した。ひくい ほう。(地下室・地下鉄)

地下　じめんの 下。

2 おとって いる。(下品)

下水　つかった あとの よごれた 水。

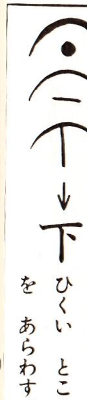
3 おりる。かえる。(下山・下車・下校)

つかいかた

◆小さな 船で 川を 下ります。

◆にもつを 車から 下ろす。

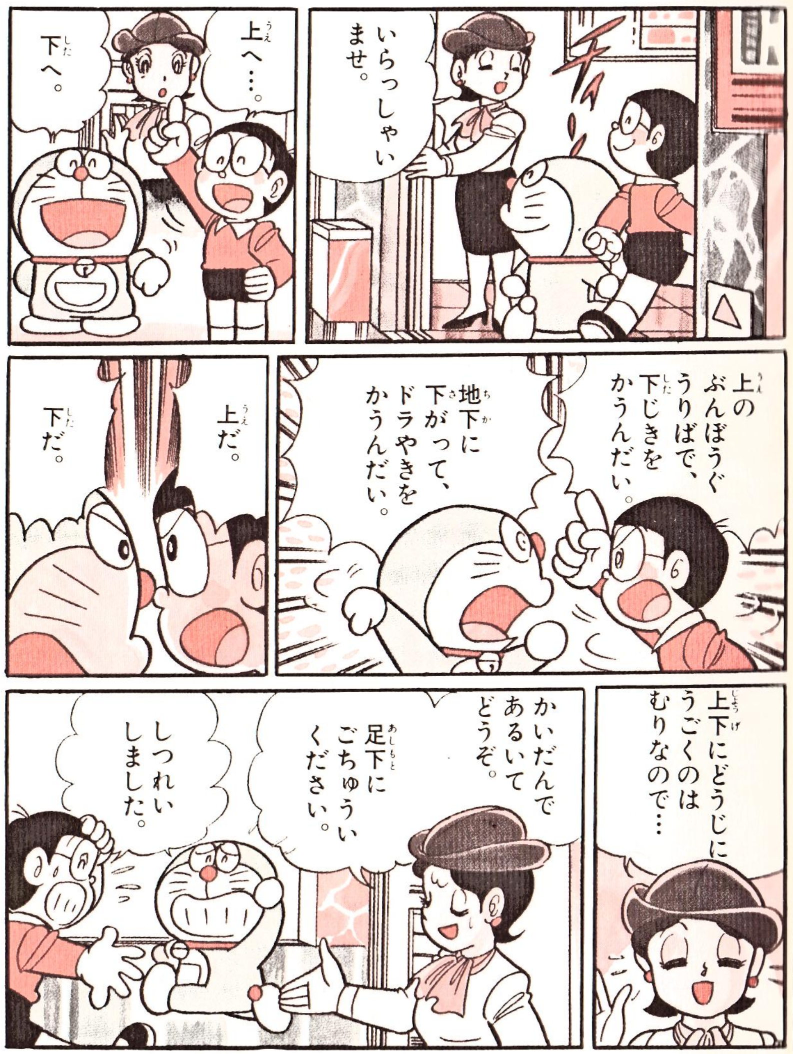
なりたち



(は じめんの こと。

●は ひくい ところ。

じめんの した ひくい ところ を あらわす。



〔とくべつな　よみかた〕「下手」は、ふつう　「下手なげ」などと　つかうが、とくべつに　（へた）とも　よむ。



左

おん サ
左右・左せつ・左岸

くん ひだり
左手・左足・左うで・左がわ・左むき・左きき

かきじゅん 5かく

一 ナ 𠂇 左 左

いみと ことば

❶ひだり。ひだりがわ。↕右
左手 ①左の 手。②左の ほう。
左きき 右手より 左手の ほうが じょうずに つかえる こと。
左右 左と 右。
左せつ 左の ほうに まがる こと。

つかいかた

◆左手の たてものが 学校です。
◆ふみきりは、左右を よく 見て わたりましょう。
◆四つかどを 左せつする。
◆ぼくは、左足で 思いっきり ボールを けった。
◆左岸に 船つきばが ある。

なりたち



せんを ひく ときに、じょうぎを おさえる ほうの 手のこと。





（きを つけよう）「左」の 「ナ」の ぶぶんは、一→ノ の じゅんに かく。「右」は ノ→ナと かく。



右

おん

ウ　右せつ・右岸・右よく

ユウ　左右

くん

みぎ　右手・右足・右うで・右がわ・右はし・右むき・右きき

かきじゅん　5かく

ノ　ナ　ナ　右　右

いみと　ことば

❶みぎ。みぎがわ。↕左

右手　①右の　手。②右の　ほう。

回れ右　右足を　うしろに　ひいて、くるりと　回って　うしろむきに　なる　こと。

右がわ　右の　ほうめん。

右せつ　右に　まがる　こと。

右岸　川下に　むかって　右の　きし。

左右　左と右。

つかいかた

◆右手に　山が　見える。

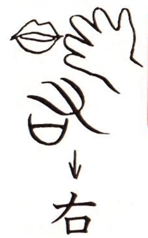
◆時計の　はりは　右回りする。

◆「右向け　右」の　ごうれい。

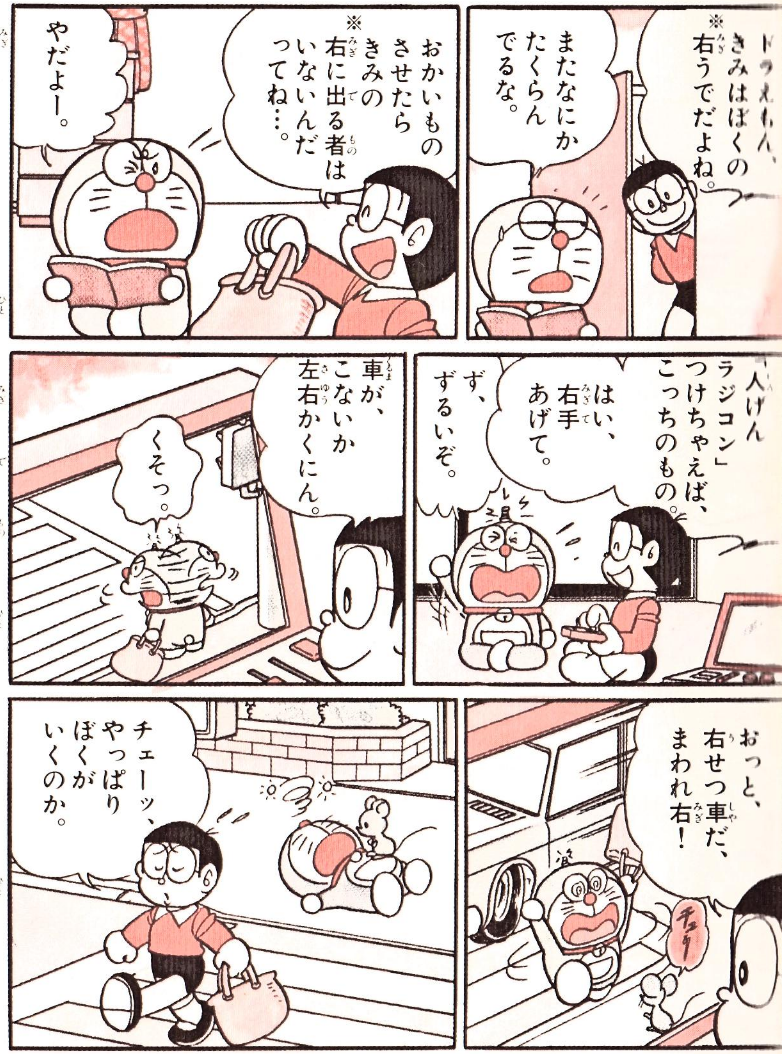
◆四つかどを　右せつ　します。

◆前後左右に　気を　つける。

なりたち



口を　かくす　ほうの　手。右を　あらわした　字だよ。



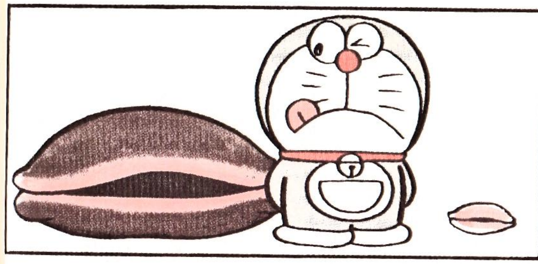
※右うで…たよりに　なる　人。

※右に　出る　者…その人　より　すぐれている　人。



〔きを　つけよう〕「右」の　「ナ」の　ぶぶんは、ノ→ナ　の　じゅんに　かく。「左」は　一→ナと　かく。

大



おん

ダイ　大小・大地・大名

タイ　大火・大木・大りく

くん

おお　大水・大声・大空・大どおり・大あたり・大男

おお(きい)　大きい・大きめ

おお(いに)　大いに　あそぶ。

かきじゅん

一　ナ　大　3かく

いみと　ことば

① おおきい。ひろい。↕小

大空　ひろく　大きい　空。

大木　とても　大きな　木。

② おおい。(大雨・大水)

大会　大ぜいの　人が　あつまる　会。

大金　たくさんの　お金。

③ すぐれて　いる。りっぱな。

大切　だいじ。そまつに　しない　こと。

つかいかた

◆**大空**に　ひこうきが　とぶ。

◆やきゅう**大会**が　はじまった。

◆おまつりで　**大**にぎわいです。

◆**大事**な本を　友だちに　かす。

なりたち

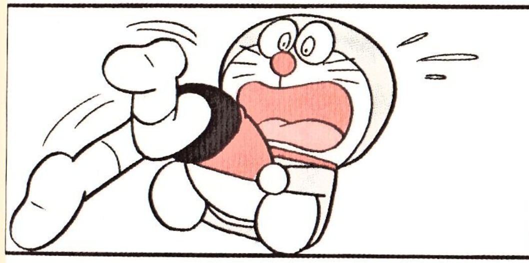


人が　手足を　ひろげて　立った　ようすを　あらわした　字だよ。





(とくべつな　よみかた)　「大人」は　(おとな)　と　よむ。**れい**　「入場料は大人500円　子ども200円です。」



中

おん

チュウ　中心・中おう・中学校・中学生・水中・空中

くん

なか　中身・まん中

かきじゅん　4かく

丨　ㄇ　口　中

いみ・ことば

❶まんなか。

中心　①まん中。②ものごとの　いちばん　だいじな　ところ。

夜中　よるの　十二じごろ。

❷とちゅう。あいだ。

中間　二つの　ものの　あいだ。

ものごとの　とちゅう。

中止　とちゅうで　やめる　こと。

中休み　とちゅうで　休む　こと。

❸うちがわ。（車中・船中）

水中　水の　中。

❹あたる。あてる。

命中　ねらいを　つけて　いた　ものに　あたる　こと。

つかいかた

◆町の　中心に　えきが　ある。

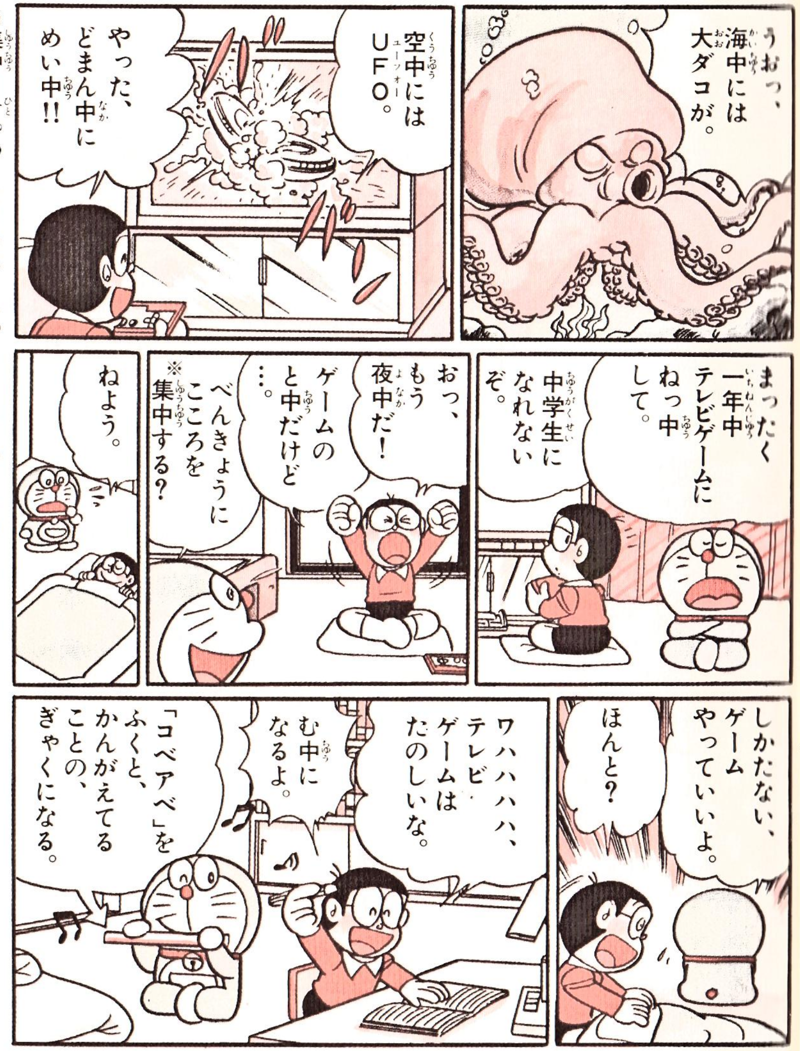
◆雨ふりで　運動会は　中止だ。

◆車中で　べんとうを　たべる。

なりたち



右や　左に　かたよらない　で　｜が　わの　まん中を　つき　ぬけて　いる　かたちの　字。



※集中…一つの　ところに　あつまる　こと。または　あつめる　こと。



〔おぼえて　おこう〕「中」は　「なかほど」を　あらわす　ことばでも　ある。中がた・中学校・中学年　など。



小

おん
ショウ　小学校・大小・小国

くん
ちい(さい)　小さ目・小さい子
こ　小石・小屋・小づつみ
お　小川

かきじゅん　3かく
亅　小　小

いみと　ことば

1 ちいさい。(小川・小鳥)↕大

小石　小さい　石。
小屋　小さくて　そまつな　家。
小刀　小さな　刀。ナイフ。
小鳥　すずめや　めじろの　ような　小さな　鳥。
小麦　麦の　一しゅ。パンや　おかしの　げんりょう。
小指　手足の　いちばん　小さい　指。

2 すこし。わずか。(小雪)

小雨　小つぶの　雨。すこししか　ふらない　雨。

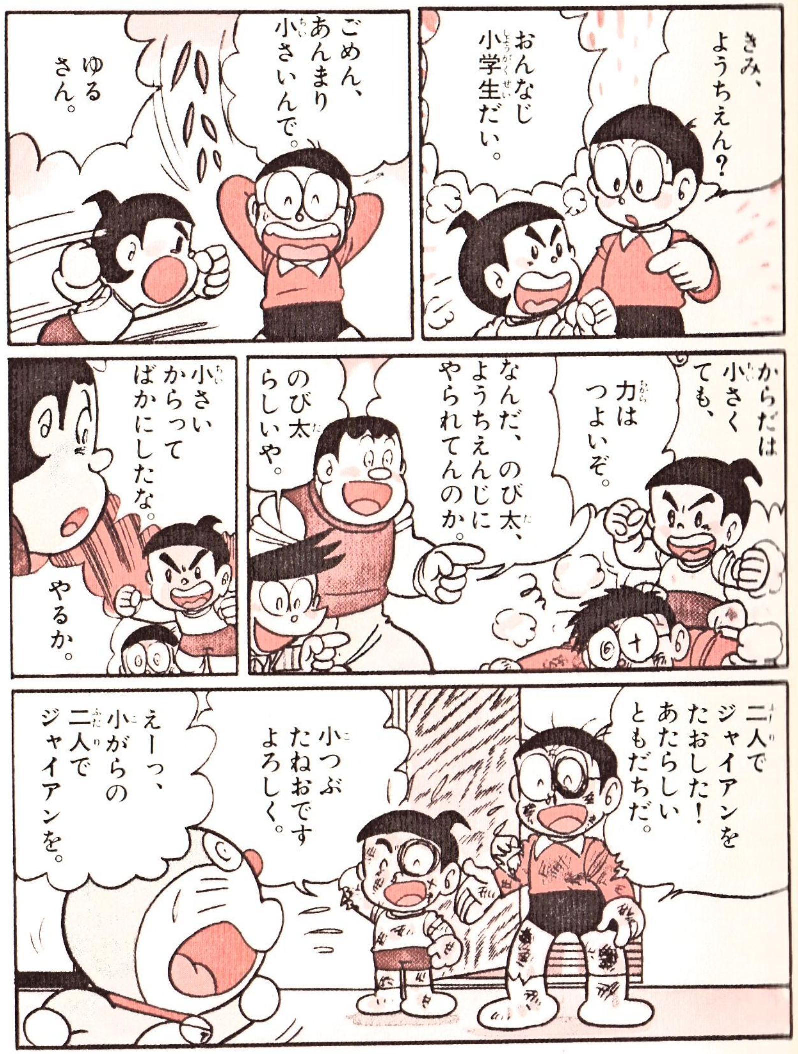
つかいかた

◆かわいい　小犬を　かう。
◆小川の　そばの　小屋に　すむ。
◆白雪ひめと　七人の　小人たち。

なりたち

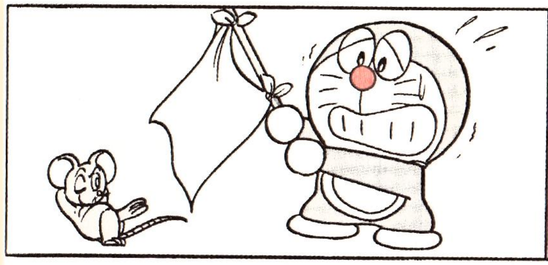


ちいさな　てんを　三つ　かいて、たいへんに　小さいことを　あらわした　字。



(とくべつな　よみかた)「小」さいと　「豆」を　あわせて、「小豆」(あづき)と　よむ。**れい**「小豆ごはん」など。

白



おん

ハク　白紙・白人・白米

ビャク　白夜・黒白

くん

しろ　白色・白星・白黒

しら　白木・白ける

しろ(い)　白い　紙

かきじゅん　5かく

ノ　亻　白　白　白

いみ・ことば

❶しろ。しろい　いろ。↔黒

白くま　ほっきょくに　すんで　いる　白い　くま。

白雲　白い　雲。

白雪　まっ白な　雪の　こと。

白線　白い　線。

❷なにもない。

白紙　白い　紙。なにも　かいて　ない　紙。

❸あきらか。はっきりして　いる。（白昼・明白）

❹いう。つげる。（白状・自白）

つかいかた

◆白い　花が　きれいに　さいた。

◆よこづなは　今日も　白星だ。

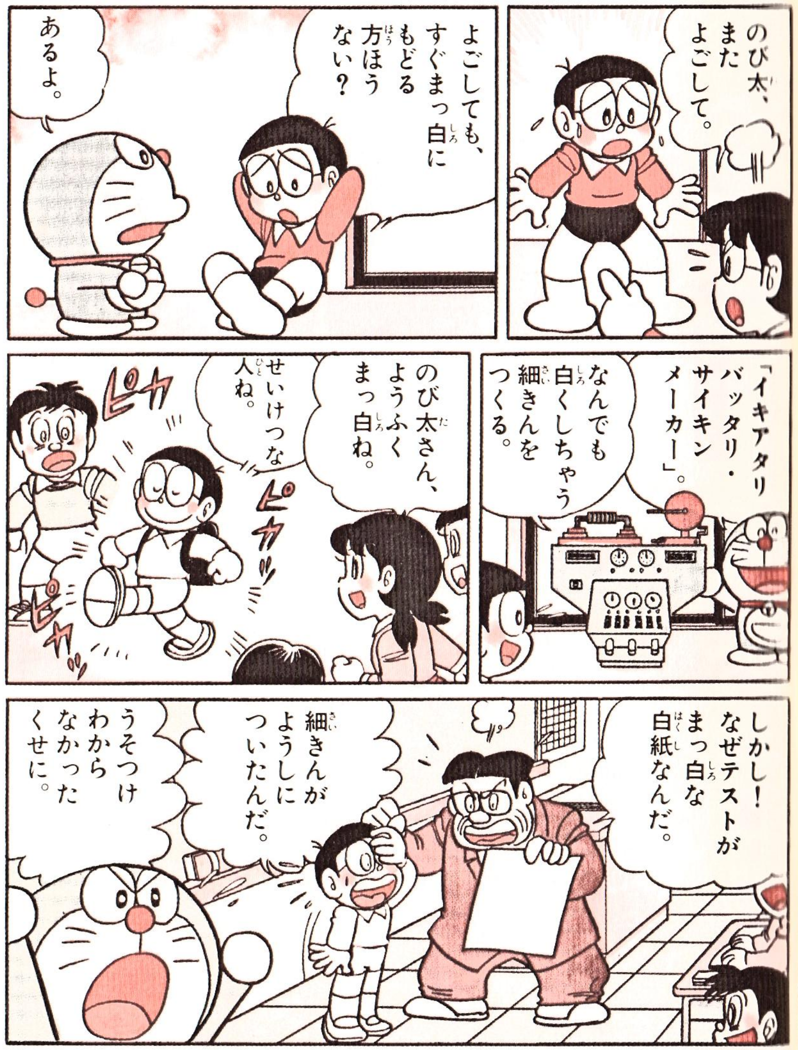
◆青白い　光が　見えました。

なりたち



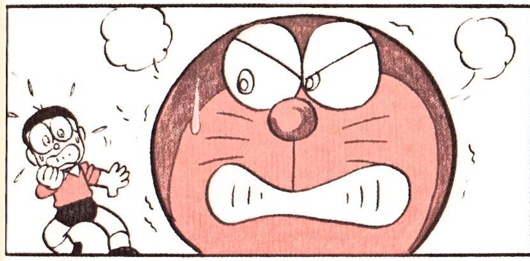
なかの　みが　白い　木のみの　かたちから　白を　あらわした。







（おぼえて　おこう）　白は　「よい・ただしい・かち」、黒は　「わるい・まちがい・まけ」の　いみを　あらわす。



赤

おん

セキ　赤色・赤十字・赤はん

シャク　赤銅色

くん

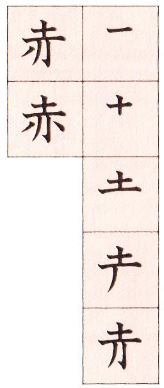
あか　赤色・赤信号・赤ちゃん

あか(い)　赤い　くつ

あか(らむ)　赤ら　顔

あか(らめる)　赤らめる

かきじゅん　7かく



いみと ことば

❶あか。あかい　いろ。↔白

赤信号　とおっては　いけない　と　しらせる　赤いろの　こうつうの　あいず。↔青信号

赤はん　小豆を　入れて　たいて、赤くなった　ごはん。

❷むきだし。はだか。

赤子　生まれて　まもない　子ども。赤んぼう。

つかいかた

◆赤えんぴつで　まるを　つける。

◆赤い　セーターを　きます。

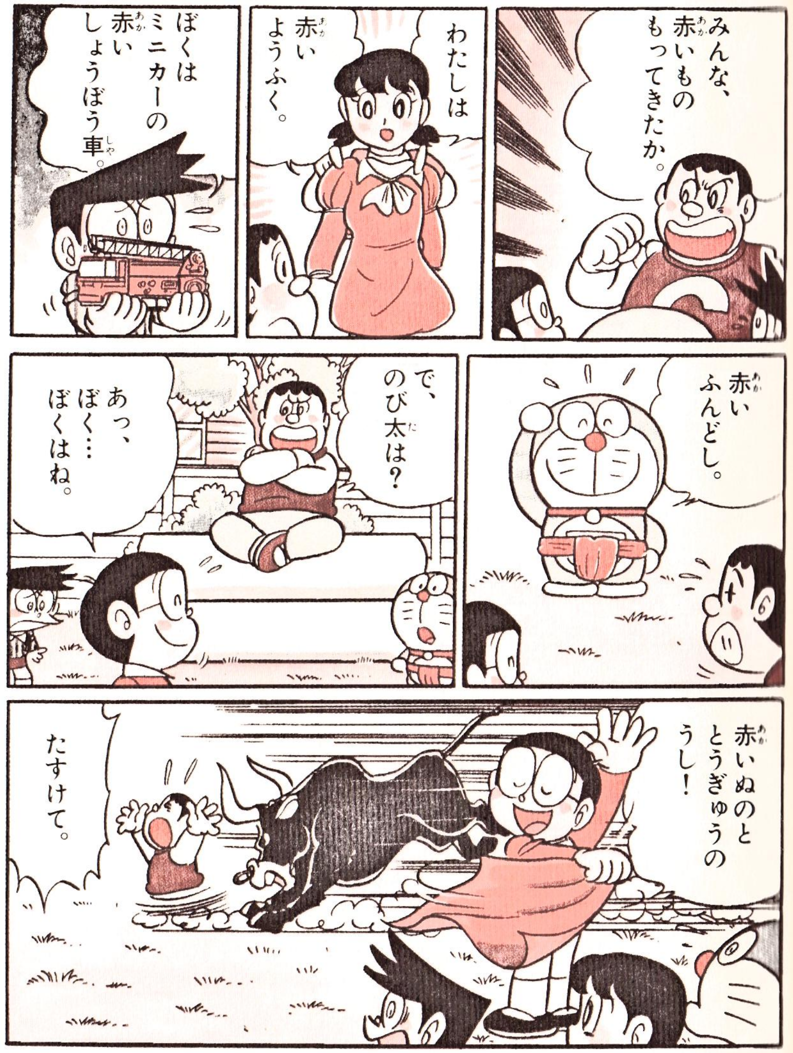
◆おいわいに　赤はんを　たく。

なりたち



大 火 → 大 灭 → 赤

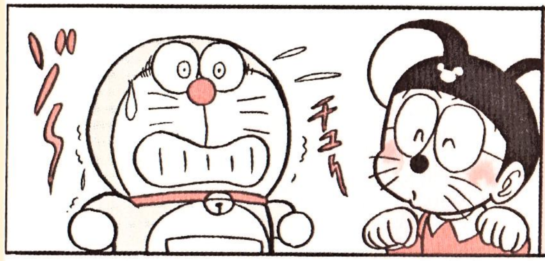
大(おおきい)と　火(ひ)を　あわせた　かたちの　字だよ。





〔とくべつな　よみかた〕「赤」を　「まっ赤」と　つかう　ときは、(まっか)と　よむ。

青



おん

セイ　青果市場・青天

ショウ　ろく青

くん

あお　青色・青空・青信号

あお（い）　青い　鳥・青み

かきじゅん　8かく

一　十　キ　主　丰　青　青　青

いみ・ことば

1 あお。あおい　いろ。（青色・青信号・青物市場・青田）

青空　青く　はれた　空。

青葉　よく　しげった　みどり　いろの　木の　葉。

青竹　青い　なまの　竹。

青虫　キャベツなどに　いる　みどりいろの　虫。

2 としが　わかい。（青二才）

青年　二十さいくらいの　わかい　人。

つかいかた

◆すきとおった　青い　海。

◆青葉の　林を　さんぽする。

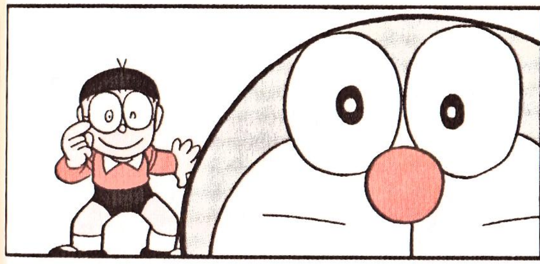
なりたち



青い　くさの　めの　いろと　いどの　なかに　たまった　水が　いろを　あわせた　字。



（とくべつな　よみかた）「青」を　「まっ青」と　つかうときは、（まっさお）と　よむ。



目

おん
モク　目ひょう・目次・目前
ボク　面目

くん
め　目玉・目ざまし・目上
ま　目の　あたり・目ぶか

かきじゅん　5かく



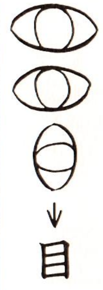
いみと　ことば

❶め。めだま。（目玉・白目・目ざまし・目もと）
❷みる。
一目　ちょっと　見る　こと。
注目　目を　つける。ちゅういして　見る。
❸くぎり。めじるし。（折り目）
目もり　ながさや　おもさを　はかる　どうぐに　つけた　しるし。
❹めあて。（目的・目ひょう）
❺わけた　もの。（科目）
❻じゅんばんを　あらわす　ことば。（一年目・三ばん目）

つかいかた

◆なつ休みの　目あてを　きめる。
◆水いろの　目玉の　とんぼ。

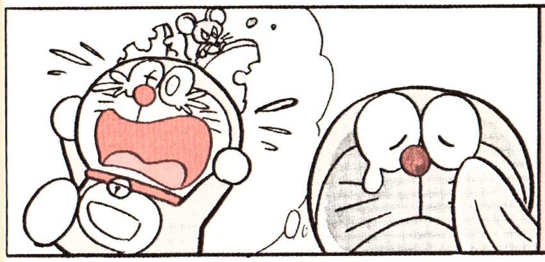
なりたち



人の　目の　かたちを　あらわした　字だよ。



（おぼえて　おこう）「目が　まわる」は　「たいへんいそがしい」こと。「目に　つく」は　「めだつ」こと。



耳

おん ジ　耳目・中耳えん・耳鼻科

くん みみ　耳かざり・耳もと・耳うち・耳あか・早耳

かきじゅん 6かく

一　T　F　F　E　耳

いみ・ことば

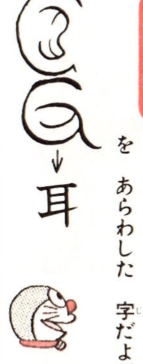
① みみ。（耳そうじ・中耳えん）
耳うち　耳へ　口を　よせて　小さい　こえで　はなす　こと。

② みみに　する。きく。
耳より　きく　ねうちの　ある　こと。
早耳　人の　いって　いる　ことを、すばやく　ききつける　こと。

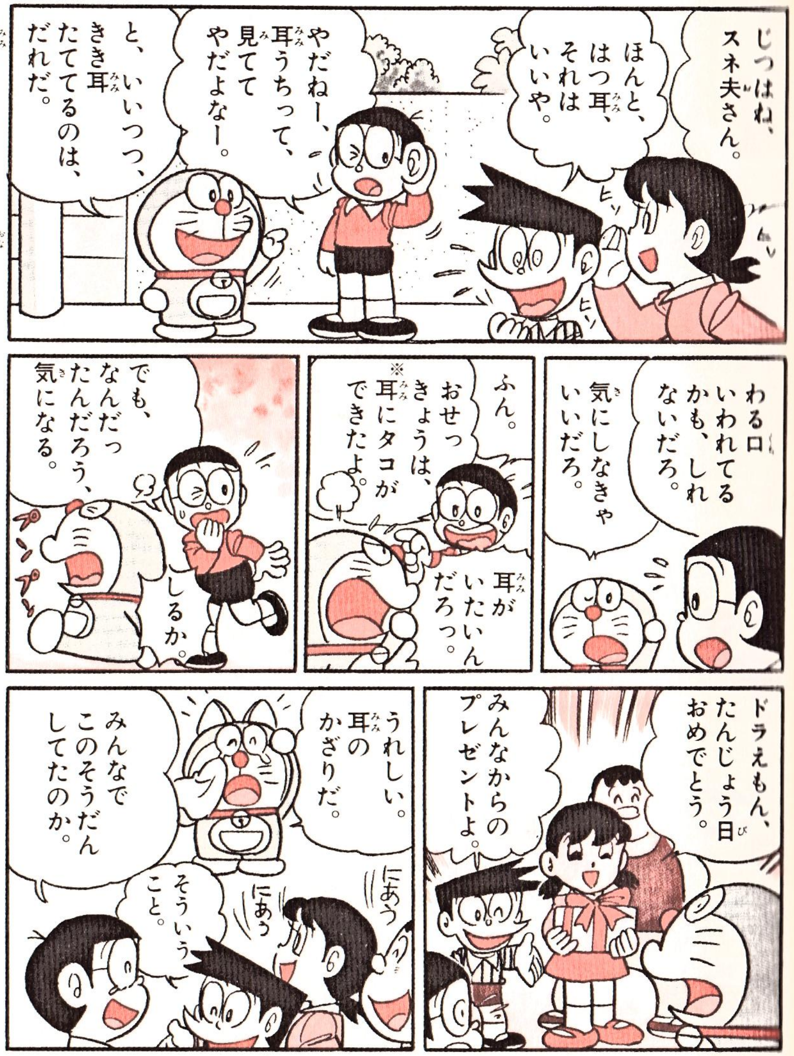
つかいかた

◆耳を　すまして　虫の　こえ　を　きく。
◆中耳えんで　耳が　いたい。
◆耳なりが　して　きもちわるい。
◆耳よりな　話を　もちこむ。

なりたち



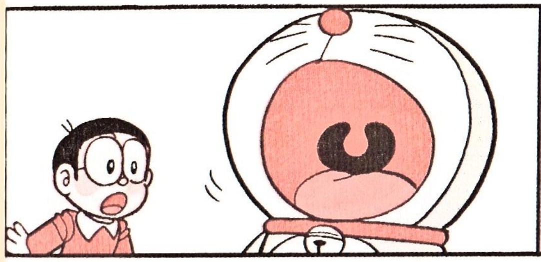
人の　耳たぶの　かたちを　あらわした　字だよ。



※耳にタコができる…同じことを　なんども　いわれ　ききあきる。



（おぼえて　おこう）「耳に　はいる」は　「きこえる」、「耳を　すます」は　「ちゅういして　きく」の　いみ。



口

おん
コウ　口中・火口・人口
ク　口ちょう

くん
くち　口ぶえ・口ひげ・口べに・口ぐせ・入り口・戸口

かきじゅん　3かく



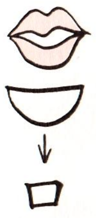
いみと　ことば

❶くち。（口ひげ・口ぶえ・口べに・口もと・口中）
❷いう。（口ぐせ・わる口）
口出し　わきから　ことばを　はさむ　こと。
口答え　目上の　人に　さからって　いいかえす　こと。
口ちょう　はなしの　しかた。
❸出入りする　ところ。（口火・入り口・出口・うら口）
戸口　たてもの、いえなどの　出入り口。
❹人の　かず。
人口　人の　かず。

つかいかた

◆きず口が　とても　いたい。
◆日本の　人口を　しらべる。

なりたち

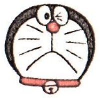


人の　口の　かたちを　あらわした　字だよ。

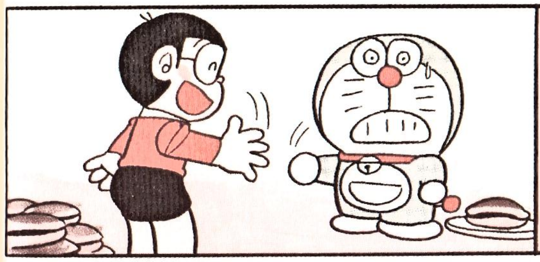




※口はわざわいのもん（と）……ことばに　きを　つけないと　おもわぬ　さいなんを　まねく。



（れんしゅう　しよう）　早口ことば　「なまむぎ　なまごめ　なまたまご」「右の　耳から　耳わを　三つ」



手

おん

シュ　手じゅつ・あく手・はく手・投手・せん手

くん

て　手足・手先・手ぶくろ・手紙・右手・りょう手

かきじゅん　4かく

一　二　三　手

いみと　ことば

1 て。（右手・手ながザル）

りょう手　みぎと　ひだりの　りょうほうの　手。

はく手　ほめる　ために　手を　たたく　こと。

2 じぶんの　手。（手づくり）

手料理　じぶんで　つくった　料理。

3 せわ。なおす。

手入れ　よく　せわを　して　きれいに　して　おく　こと。

4 やりかた。（手本・手つづき）

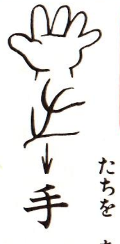
手じゅん　ものごとを　する　じゅんじょ。

つかいかた

◆先生と　あく手を　した。

◆きずの　手あてを　うける。

なりたち



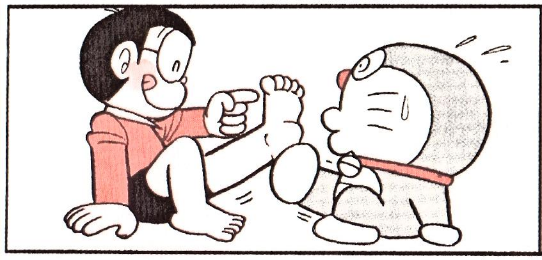
手を　まえから　見た　かたちを　あらわした　字。







（おぼえて　おこう）「手」を　「人」の　いみに　つかった　ことば。せん手・うんてん手・歌手・投手・話し手。



足

おん

ソク　一足・土足・まん足

くん

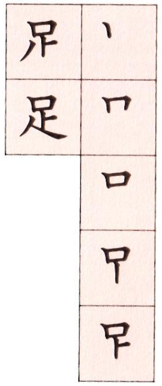
あし　足音・足首・足もと

た(りる)　もの足りない

た(る)　した足らず

た(す)　足し算・つけ足し

かきじゅん　7かく



いみと　ことば

❶あし。（手足・前足・後ろ足）
足もと　立って　いる　足の　まわり。

❷あるく。（足音・遠足）

❸たりる。
まん足　じゅうぶん。　みち足りて　いる。

❹くわえる。（足し算）

つかいかた

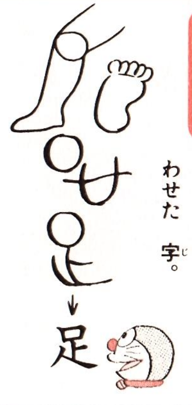
◆土足で　へやに　上がった。

◆あと　十円　足すと　千円だ。

◆くつを　一足　かいました。

◆早足で　いえへ　かえる。

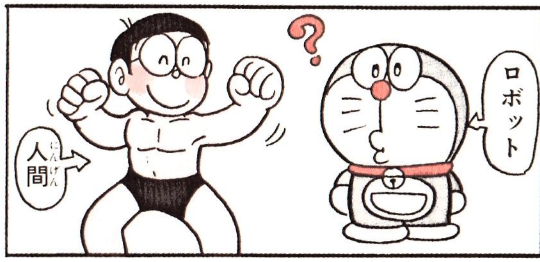
なりたち



人の　ひざと　足とを　あわせた　字。



（おぼえて　おこう）足の　ぶぶんの　ことば。もも・ひざ・すね・足くび・かかと・こう・ゆび・土ふまず。



人

おん ジン　人口・人名・日本人
ニン　人間・人形・人数・三人・十人組・百人力

くん ひと　人手・人声・人出・人どおり

かきじゅん 2かく
ノ　人

いみと ことば

① ひと。にんげん。（人間・日本人・外国人・人出・人手）
人数　人の かず。
名人　ものを つくったり、なにかを したり する ことが とても うまい 人。
おん人　おせわに なった 人。たすけて くれた 人。

② ひとがら。
人気　人の ひょうばん。

③ 人ずうを かぞえる ことば。
（一人・二人・三人……）

つかいかた

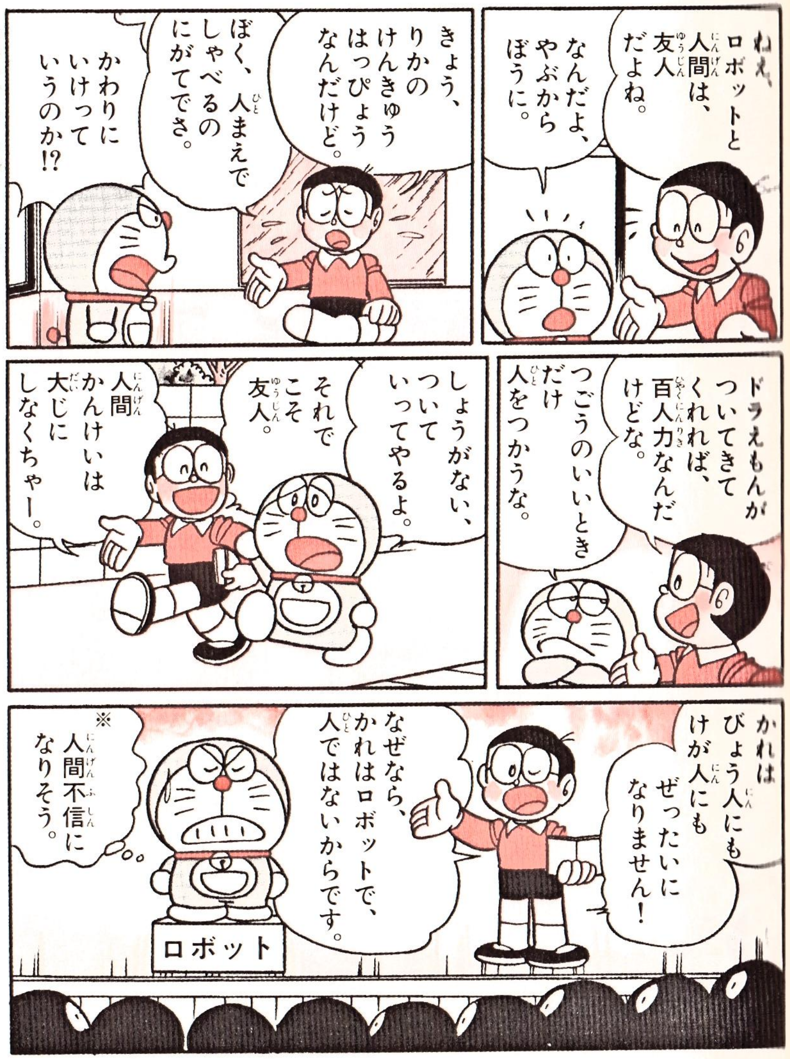
◆大ぜいの 人人が あつまる。
◆友人が たくさん いる。
◆正男くんは 学校の 人気もの。

なりたち



人が 立って いる すがたを よこから 見た かたちの 字。

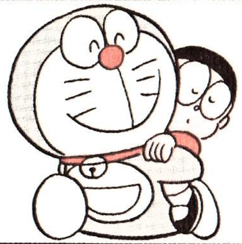




※人間不信…人間を 信じられない こと。



（とくべつな　よみかた）　一人（ひとり）・二人（ふたり）・大人（おとな）・若人（わこうど）。



子

おん

シ　子女・母子・父子・王子

ス　様子

くん

こ　子ども・子ねこ・女の子

かきじゅん

3かく

いみと ことば

①こども。むすこ。むすめ。↕親

子犬　子どもの 犬。

子もりうた　子どもを あやしたり ねかしつける ときに うたう うた。

親子　親と 子。

母子　おかあさんと 子ども。

王子　王さまの むすこ。

②ひと。（売り子・おどり子）

男子　男の子。

女子　女の子。

③つけたしの ことば。

ちょう子　ぐあい。じょうたい。

様子　ものごとの ありさま。

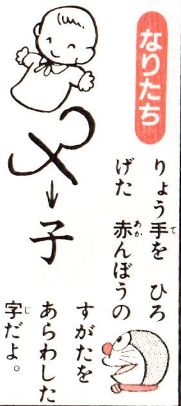
つかいかた

◆まきばで 子牛が 生まれた。

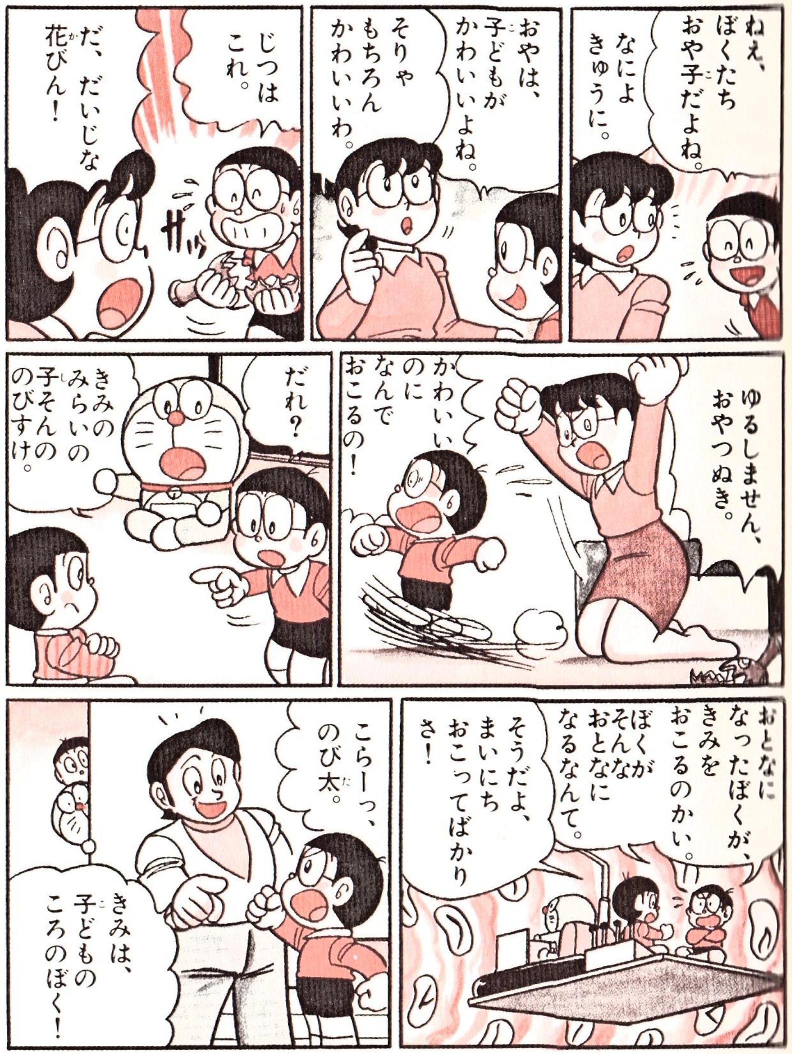
◆男子と 女子が なかよくする。

◆やまから 村の 様子を 見る。

なりたち



りょう手を ひろげた 赤んぼうの すがたを あらわした 字だよ。



（きを つけよう） 子どもや 人で ないのに 「子」を つかう。おか子・しょう子・ぼう子・ふり子。

男



おん
ダン 男子・男女
ナン 美男・長男・一男一女

くん
おとこ 男の子・山男・大男

かきじゅん 7かく

丨	冂	冂	田	田	男	男

いみと ことば

①おとこ。（男の子）↔女

大男 からだが とても 大きい 男の 人。
山男 山に すんで いる 男。山のぼりが すきな 男。
男子 男の 子。
男女 男と 女。

②むすこ。（次男・三男）

長男 いちばん はじめに 生まれた 男の 子ども。

つかいかた

◆一年生は **男女** あわせて 九十名 います。
◆**山男**が 山道を あんないする。
◆ぼくは、**長男**です。

なりたち

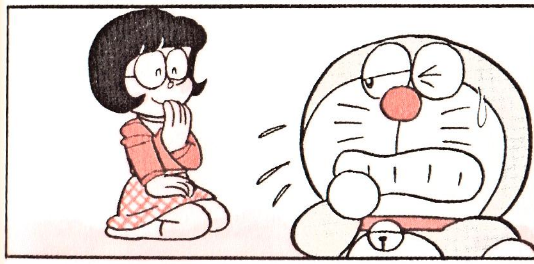


田と力をあわせた字。しごとに力を出すおとこのこと。





〔おぼえて おこう〕「男」の おもしろい おぼえかた。
「田で 力を だして はたらくのは 男」



女

おん

ジョ　女子・女王・少女

ニョ　天女・女人

ニョウ　女ぼう

くん

おんな　女の子・女らしい

め　女神

かきじゅん　3かく

いみと　ことば

1 おんな。（男女・女子）↕男

女王　女の　王さま。

女学生　学校で　べんきょうして　いる　女の　人。

2 むすめ。おんなの　子。

王女　王さまの　むすめ。

少女　女の　子。↕少年

長女　いちばん　はじめに　生まれた　女の　子ども。

つかいかた

◆『マッチうりの　**少女**』を　よむ。

◆**女子**ゴルファーの　かつやく。

◆じゆうの　**女神**の　ぞう。

◆はごろもを　つけた　**天女**。

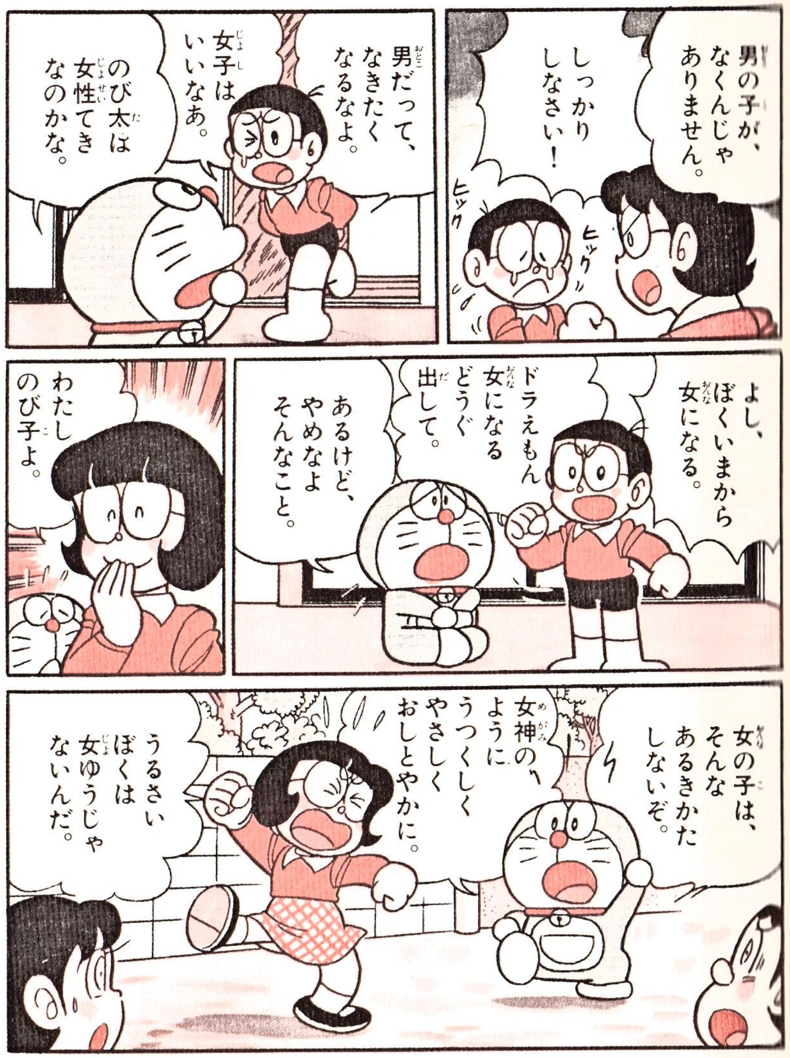
◆おねえさんは　**女学生**です。

なりたち

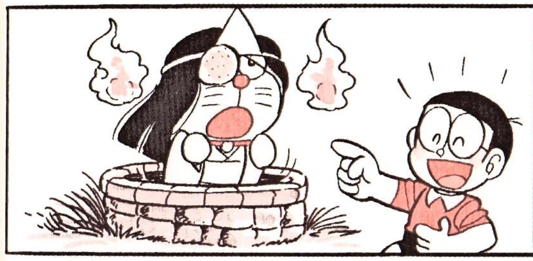


↓女

おんなの　人が、ひざに　手を　あてて、すわって　いる　ようすを　あらわした　字。



（とくべつな　よみかた）「海女」（あま）は　海に　もぐって、あわび、貝などを　とる　女の　人の　こと。



出

おん

シュツ　出火・出発・外出

スイ　出納

くん

で(る)　出口・出入り・人出

だ(す)　出し入れ・さし出す

かきじゅん　5かく

丨　屮　屮　出　出

いみと　ことば

1 でる。だす。(出口)↔入

出発　出かける　こと。

外出　そとへ　出かける　こと。

2 でむく。

出席　学校や　あつまりに　出る　こと。

3 あらわれる。おこる。

出現　あらわれ　出る　こと。

出火　火じを　出す　こと。

4 そこの　うまれ。

出身　その　土地や　学校など　の　出で　ある　こと。

つかいかた

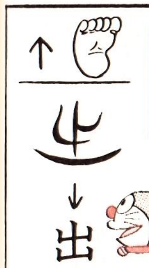
◆出し入れしやすい　かばん。

◆日の出を　おがみます。

◆どうろに　とび出すと　きけん。

◆右がわの　ドアが　出口です。

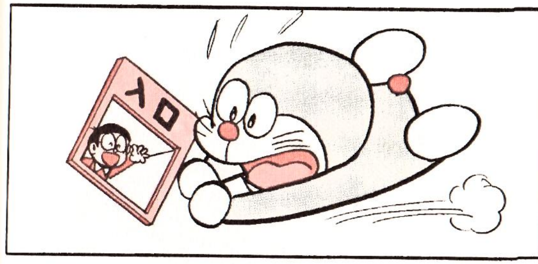
なりたち



足が　せんの　そとに　出る　ようすを　あらわした　字だよ。



(おぼえて　おこう)「出す」の　ある　ことば。かけ出す・とび出す・にげ出す・とり出す・なげ出す　など。



入

おん
ニュウ　入学・入場・入会

くん
い(る)　入り口・出入り
い(れる)　入れもの・出し入れ
はい(る)　出入り

かきじゅん　2かく
ノ　入

いみと　ことば
1 はいる。いれる。(入社・入院)
入り口　はいりぐち。戸口。
入学　べんきょうする　ために学校に　はいる　こと。
入社　会社に　はいり、そのしゃいんに　なる　こと。
入場　かいじょうなどに　はいる　こと。
2 いる。ひつようで　ある。
入用　ようじの　ために、ひつような　こと。

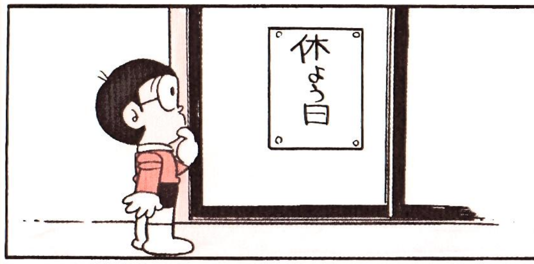
つかいかた
◆出入り口が　こんで　いる。
◆プールに　入る。
◆小学校に　入学する。
◆大きな　入れものを　つかう。
◆せん手が　そろって　入場する。

なりたち

中に　はいって　いく　ことを　あらわした　字。



(おぼえて　おこう)　学校と　かんけい　ある　ことば。
入学式・入学しけん・しん入生　など。



休

おん

キュウ　休日・休けい・休校

くん

やす（む）　夏休み・昼休み

やす（まる）　気が休まる

やす（める）　気休め

かきじゅん　6かく

ノ　亻　仁　什　休　休

いみと ことば

1 やすむ。しごとを やめて、こころや からだを やすめる。（休み時間・一休み・昼休み・夏休み・冬休み）

休けい　休んで からだを らくに する こと。

休日　休みの 日。

連休　休みの 日が つづく こと。

つかいかた

◆日よう日は、休日です。

◆夏休みに いなかに いく。

◆つかれたので、一休みする。

◆びょう気で 学校を 休む。

なりたち

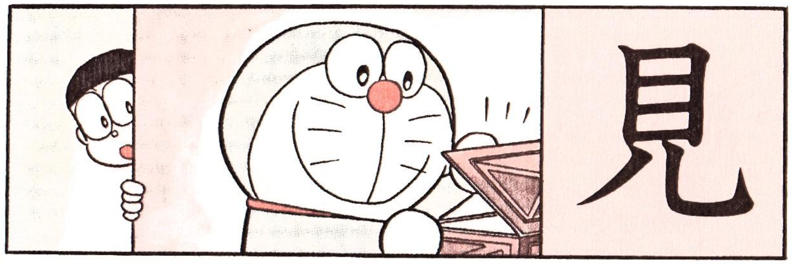


人が 木の かげで やすむ ようすを あらわした。





〔おもしろ 早おぼえ〕「人（亻）が、木の よこで 休みます。」 亻＋木＝休



おん
ケン　見学・はっ見・意見

くん
み（る）　見本・見出し・花見
み（える）　見えかくれする
み（せる）　見せもの・見せ場

かきじゅん　7かく

丨　冂　冃　月　目　目丿　見

いみと　ことば

1 みる。（見はり・月見）
花見　さくらの　花を　見て、たのしむ　こと。
見学　じっさいの　ようすを　見て、べんきょう　する　こと。

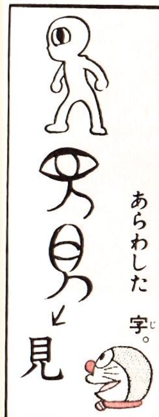
2 あらわれる。
発見　まだ、しられて　いない　ものごとを　はじめて　見つける　こと。

3 ものの　みかた。かんがえかた。（意見）

つかいかた

◆自動車工場を　見学しました。
◆見はりばんの　おじさん。
◆意見は　はっきり　いいます。

なりたち

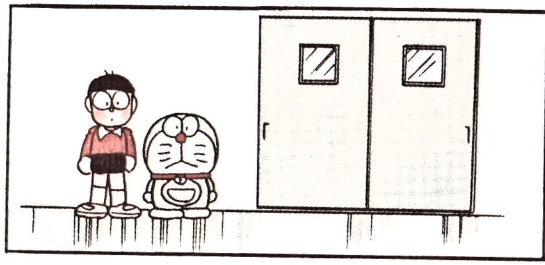


人が　目で　見ることを　あらわした　字。





（おぼえて　おこう）「見る」どうさの　いろいろ。見まわす・見まもる・見わける・見おろす・見つめる　など。



立

おん

リツ　立食・起立・直立

リュウ　建立

くん

た(つ)　立ち合い・立ち話

た(てる)　立てふだ・二本立て

かきじゅん　5かく



いみと　ことば

1 たつ。たてる。(立ち木・立てふだ・本立て・立食)

立ち話　みちなどで　立ったまま、はなしを　する　こと。

起立　立つ　こと。立ち上がる　こと。

2 つくりだす。つくる。(国立・県立・市立・区立)

組み立て　くみあわせて　つくる　こと。

3 じきが　くる。はじまる。

立春　こよみで　はるに　なる　はじめの　日。

4 よく　できる。(立派)

つかいかた

◆立って　あいさつを　する。

◆本だなを　組み立てる。

なりたち



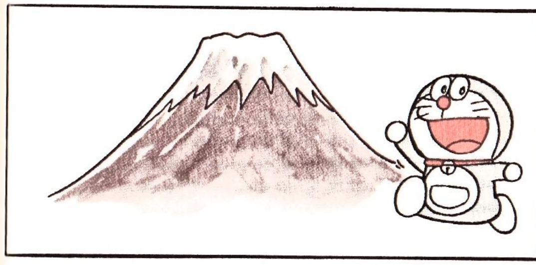
りょう足を　じめんに　つけて　人が　立っている　ようすを　あらわした　字。





〔おぼえて　おこう〕「立てる」を　つかう　いろいろ。ゆげを立てる・はらを立てる・うわさを立てる。

山



おん　サン　山上・火山・高山

くん　やま　山男・山国・山小屋

かきじゅん　3かく

｜　山　山

いみと ことば

1 やま。(山のぼり・富士山)

山山　たくさんの山。かさなって みえる 山。

山おく　山の おくの ほう。

山びこ　山の 中などで、大きな こえや 音を 出すと、それが はねかえって くる こと。"こだま"とも いう。

登山　山に のぼる こと。

2 やまの ような。(山もり・ひと山)

3 ものごとの たいせつな ところ。(山場)

4 てら。

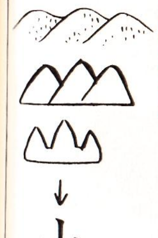
山門　てらの 本堂の まえの もん。

つかいかた

◆山ちょうの 山小屋に とまる。

◆山おくの 山里に すむ。

なりたち



三つの みねの ある やまの かたちを あらわした 字だ。

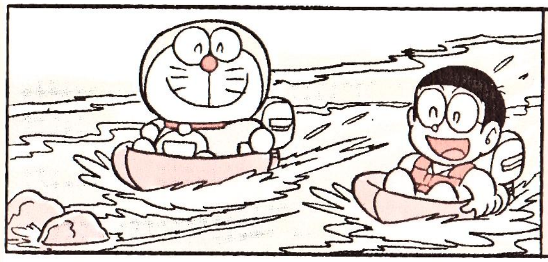


※ちょう上…てっぺん。いちばん上。

※山ちょう…山の てっぺん。



(しらべて みよう)「山」の つく みょう字は おおい。山下・山本・山口・山田・山川・高山・小山・山中・山上・青山・大山



川

おん セン　河川

くん かわ　川上・川岸・川口

かきじゅん 3かく

ノ	川	川

いみと ことば

1 かわ。みずの ながれ。（川すじ・川風・川べり・大川）

小川　はばの せまい 小さく て あさい 川。

川岸　川の ほとり。

谷川　山と 山に はさまれた 谷の 中を ながれる 川。

川上　川の ながれて くる ほう。↔川下

川下　川の ながれて いく ほう。↔川上

川口　川が うみや みずうみ に ながれこむ ところ。

つかいかた

◆川口で さかなを つる。

◆川上から ももが ながれて きた。

◆つめたい 谷川の 水を のむ。

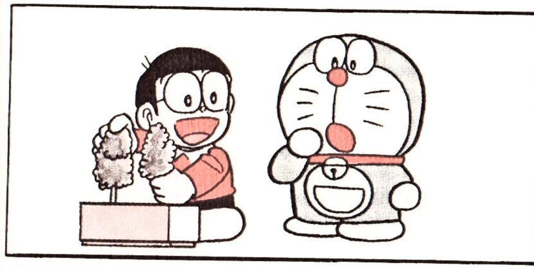
なりたち



りょうがわの きしの あいだに 水が ながれてい る ようす を あらわ した 字。



（おぼえて おこう）川の ながれる 音の ことば。ちょろちょろ・さらさら・ごうごう・ざあざあ など。



林

おん リン　林道・山林・森林

くん はやし　まつ林・ぞう木林

かきじゅん 8かく

一　十　才　木　木一　木十　材　林

いみと ことば

1 はやし。木が たくさん はえている ところ。

まつ林　まつの 林。

山林　山に ある 林。

林間　林の 中。

森林　大きな 木が いっぱい はえている ひろい ところ。

2 ものが たくさん あつまっている ところ。

林立　林の 木のように たくさん ならんで 立っている ようす。

つかいかた

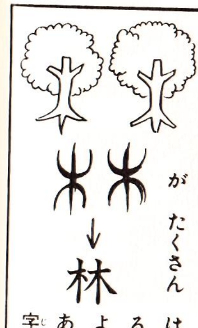
◆白かば林を さんぽした。

◆林間学校に さんかします。

◆林立する テレビの アンテナ。

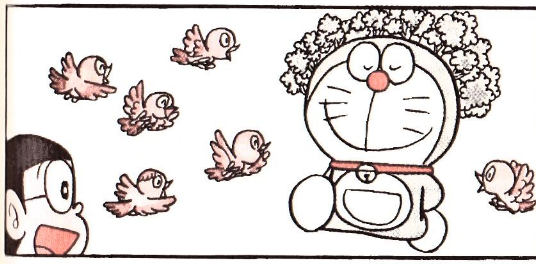
なりたち

木を 二つ ならべて、木が たくさん はえている 林の ようすを あらわした 字。





（おぼえて おこう）　いろいろな 林。ぼう雪林・ぼう風林・竹林・山林・みつ林・げんし林 など。

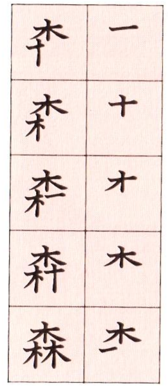


森

おん　シン　森林

くん　もり　森の小人・森の中

かきじゅん　12かく



いみと ことば

❶もり。たくさんの　木が　こんもりと　しげって　いる　ところ。

森林　大きな　木が　いっぱい　はえて　いる　ひろい　ところ。

森林公園　森林を　きりひらいて　つくった　公園。

森林鉄道　森林で　きりたおした　木ざいを　はこぶために　森林の　中に　とおした　鉄道。

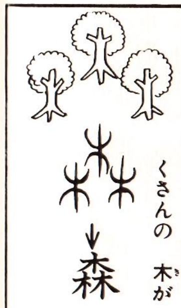
つかいかた

◆森の　中を　さんぽする。

◆森林公園で　おもいっきり　あそびまわる。

◆大森林が　ひろがる。

なりたち



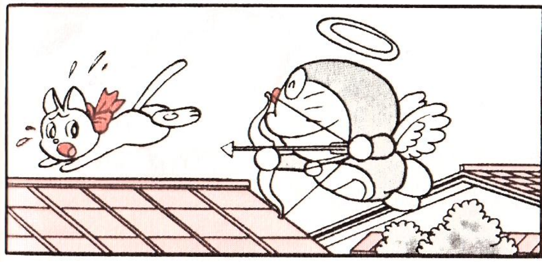
木を　三つ　あわせて、たくさんの　木が　ある　ことを　あらわした　字。





〔おぼえて　おこう〕「木」は、木が　一つ。「林」は、木が　二つ。「森」は、木が　三つ。

天



おん テン　天気・天こう・雨天

くん あめ　あま　天の川

かきじゅん 4かく

一　二　チ　天

いみと ことば

1 そら。おおぞら。(天気よほう・雨天・晴天)

天気　その日の　空もよう。

雨天　雨の　ふる　天気。

天の川　川の　ながれの　ような　かたちに　見える　ほしの　あつまり。

2 そらに　いる　かみさま。

天国　天に　あると　おもわれて　いる　かみさまの　国。

3 うまれつき。

天才　生まれつき、とても　すぐれた　人。

4 しぜん。しぜんの　ちから。

天災　じしんや　大雨などに　よる　ひがい。

つかいかた

◆天気の　よい日が　つづく。

◆日曜日の　歩行者天国。

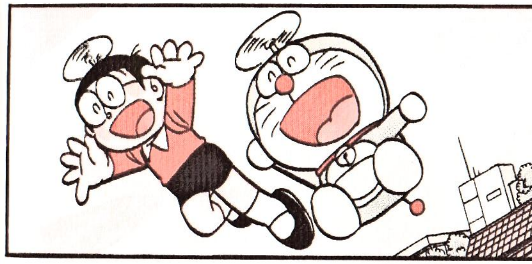
なりたち



人が　立って いる　上に　一本の　せんを　つけて、とても　たかい　ところを　あらわした。



(きを　つけよう)「天」は、一と大を　あわせた　字。うえの一は　ながく、したの一は　みじかい。

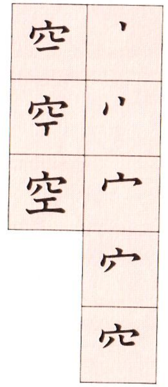


空

おん
クウ　空気・空中・上空

くん
そら　空色・夜空・夕やけ空
あ(く)　空き家・空き地
あ(ける)　体を空ける
から　空っぽ・空ぶり

かきじゅん　8かく



いみと ことば

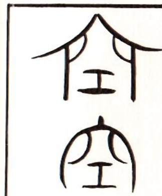
1 そら。(青空・星空・夜空)
青空　はれた　青い　空。
空中　じめんを　はなれた　たかい　ところ。空。

2 なにも　ない。からっぽ。
空車　からっぽの　車。
空き地　たてものが　なく、人の　つかって　いない　土ち。

つかいかた

◆雨上がりの　空に　にじが　かかって　いる。
◆道に　空きかんを　すてない。
◆空ぶりで　三しんした。

なりたち



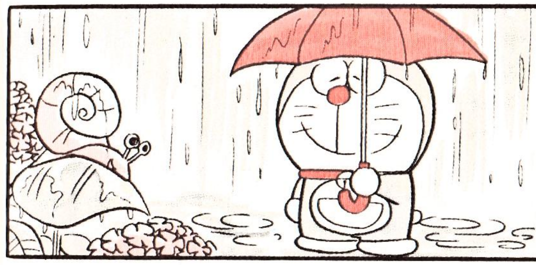
→空

あなが　つきぬけて　中に　なにも　ない　こと。空を　あらわす。



※た人の空似…た人　なのに　かお　などが　よく　にて　いる　こと。

(おぼえて　おこう)「空」は、ひこうきに　かんけいの　ある　ことに　つかう。空港・空軍・空中ショウ。



雨

おん
ウ　雨天・雨りょう・風雨

くん
あめ　雨風・雨ふり・大雨
あま　雨水・雨雲・雨やどり

かきじゅん　8かく

一　丆　冂　帀　币　雨　雨　雨

いみと ことば

❶あめ。あめふり。
雨雲　雨を　ふらせる　雲。
雨戸　しょうじや　ガラス戸の　そとがわに　しめる　戸。
雨やどり　いえの　のき下など　で、雨の　やむのを　まつ　こと。
にわか雨　きゅうに　ふって　くる　雨。
雨天　雨の　ふる　天気。

つかいかた

◆にわか雨に　あって　雨やどり。
◆夜は　雨戸を　しめて　ねる。
◆しゃ生会は　雨天中止です。
◆雨具を　用いして　出かける。

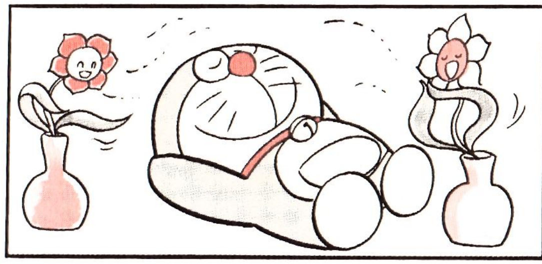
なりたち



くもから　雨が　ふる　ようすを　あらわした　字だよ。



〔きを　つけよう〕　雨（あま）と　よむ　とき。雨ぐつ・雨がさ・雨もり・雨がっぱ・雨だれ・雨水　など。

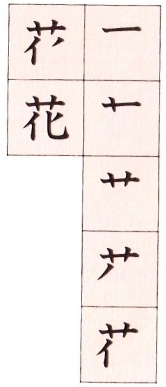


花

おん
カ　花だん・花びん・花ふん

くん
はな　花見・花たば・花びら

かきじゅん　7かく



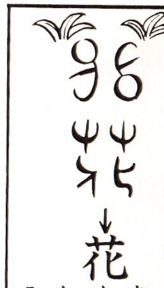
いみと　ことば

❶くさや、木の　はな。（花びら・花びん・花見・草花）
花だん　にわなどで、しきって　草花を　うえた　ところ。
花たば　いく本かの　花を　たばに　した　もの。
花ざかり　花が　いっぱいに　さく　こと。
❷うつくしい　こと。はなやかな　こと。（花火・花よめ）

つかいかた

◆学校の　さくらが　花ざかり。
◆花びんに　花を　さす。
◆こうえんで　お花見を　する。
◆花たばを　もって、友だちの　おみまいに　いく。

なりたち

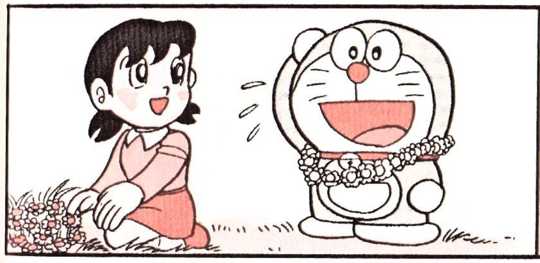


艹（くさ）と　化（人の　さかさまの　ようす）を　あわせた　字。くさの　すがた　かわる　こと。





（おぼえて　おこう）　花のように　はなやかと　いう　いみの　ことば。花火・花よめ・花むこ・花形スター。



草

おん
ソウ　草木・野草・月見草

くん
くさ　草花・草かり・七草

かきじゅん　9かく

一	十	艹	艹	芇	苩	苜	荁	草

いみと ことば

❶くさ。（草色・草木・草とり・草ぶえ・草むら・野草）

草花　①草に さく 花。②花の さく 草。

草原　草の はえた のはら。

草原　ひろい くさはら。

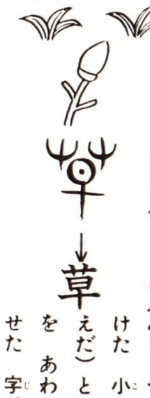
海草　コンブ・ワカメ など、うみの 中に はえる 草に にて いる もの。

ざっ草　しぜんに はえて いる 草。

つかいかた

- ◆にわの ざっ草とりを する。
- ◆草原で やきゅうを した。
- ◆草むらから バッタが とんだ。
- ◆花だんの 草花を せわする。

なりたち

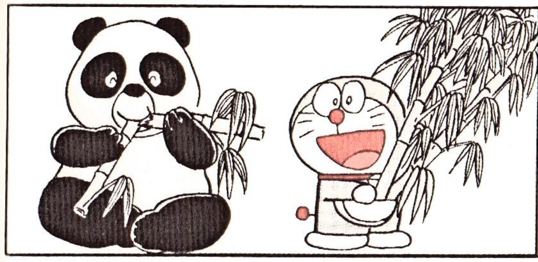


艹（くさの はえて いる かたち）と 早（みを つけた 小えだ）とを あわせた 字。



※薬草…くすりに なる 草。

〔おもしろ 草おぼえ〕「サっと 早く 草とりしごと」
艹＋早＝草　艹＋日＋十＝草



竹

おん　チク　竹林・松竹梅

くん　たけ　竹馬・竹やぶ・竹ざお

かきじゅん　6かく

ノ　𠂉　ケ　ケノ　ケ𠂉　竹

いみと ことば

1 たけ。（竹ざお・竹づつ）

竹やぶ　竹が　たくさん　はえて　いる　ところ。

竹の子　おや竹の　ねから　出た　竹の　め。かわで　うろこのように　つつまれて　いる。

竹細工　竹で　つくった　かざりや　どうぐ。

青竹　みきの　青い　なまの　竹。

竹林　竹やぶ。竹ばやし。

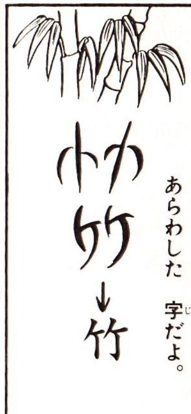
つかいかた

◆竹の　ものほしざお。

◆青竹で　かきねを　つくる。

◆竹の子ごはんは　おいしいな。

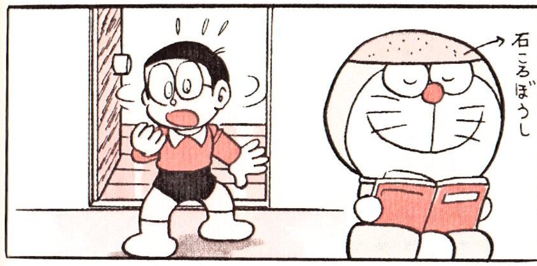
なりたち



竹の　えだの　かたちを　あらわした　字だよ。



（おぼえて　おこう）　竹で　つくった　あそび　どうぐ。竹馬・竹でっぽう・竹ぶえ・竹とんぼ　など。



石

おん
セキ　化石・岩石・ほう石
シャク　じ石
コク　千石船・百万石

くん
いし　石ころ・石がき・小石

かきじゅん　5かく

一　丆　不　石　石

いみと　ことば

1 いし。いわ。（石けり・石ころ）

石だん　たいらな　石を　つみかさねて　つくった　かいだん。

石がき　石を　つみあげて　つくった　かきね。

小石　小さな　石。

ほう石　とても　うつくしくて　めずらしい　たからの　石。

2 かたいもの。

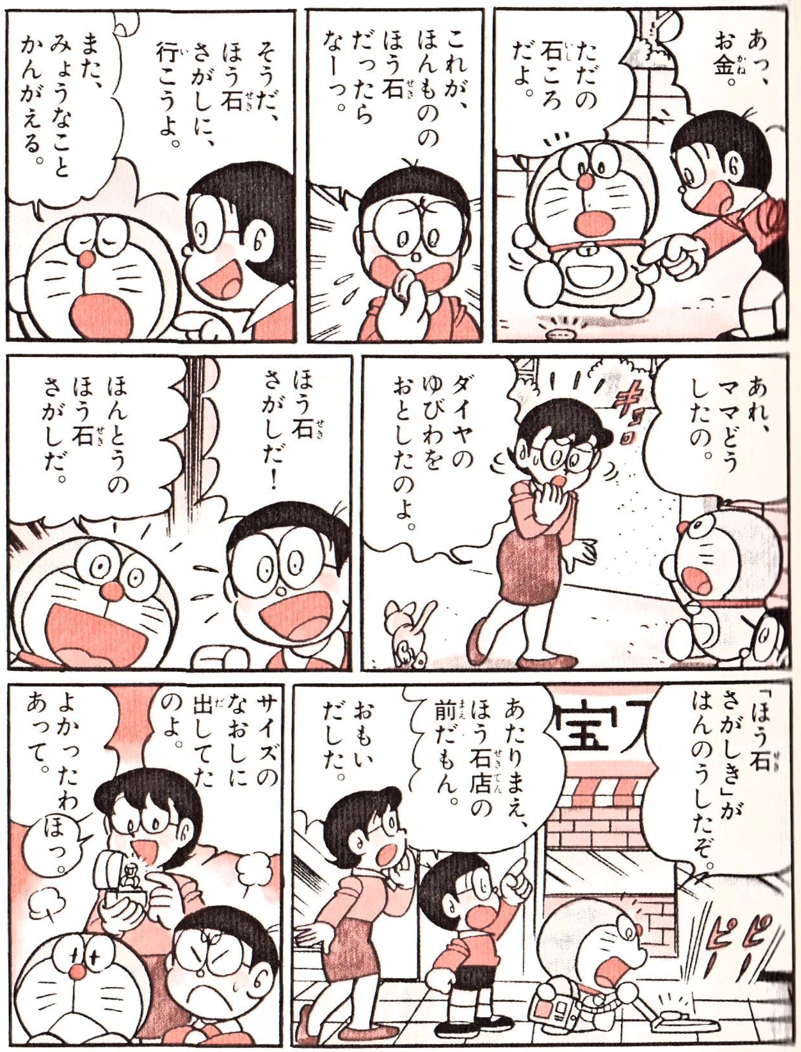
石頭　石のように　かたい　頭。ものわかりが　わるく　がんこな　人。

つかいかた

◆みんなで　石けりで　あそぶ。
◆しろの　石がきを　みあげる。
◆石頭の　おじいちゃん。

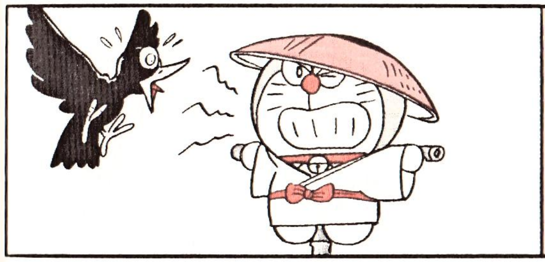
なりたち







（きを　つけよう）「ノ」を　つきだすと「右」に　なって　しまう。「石」と「右」は　にて　いるよ。

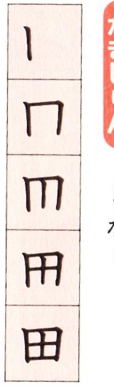


田

おん デン　田地・水田・新田

くん た　田うえ・田はた・青田

かきじゅん 5かく



いみと ことば

1 たんぼ。いねを そだてる ところ。

田うえ いねの なえを 田に うえる こと。

田はた 田と はたけ。

青田 いねが あおあおとして いる 田。

田地 田に なっている 土ち。田んぼの こと。

水田 水を いれて、いねを つくる 田。

2 いなか。

田園 田や はたけ。みどりの おおい いなか。

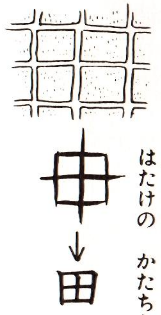
つかいかた

◆田はたを たがやす。

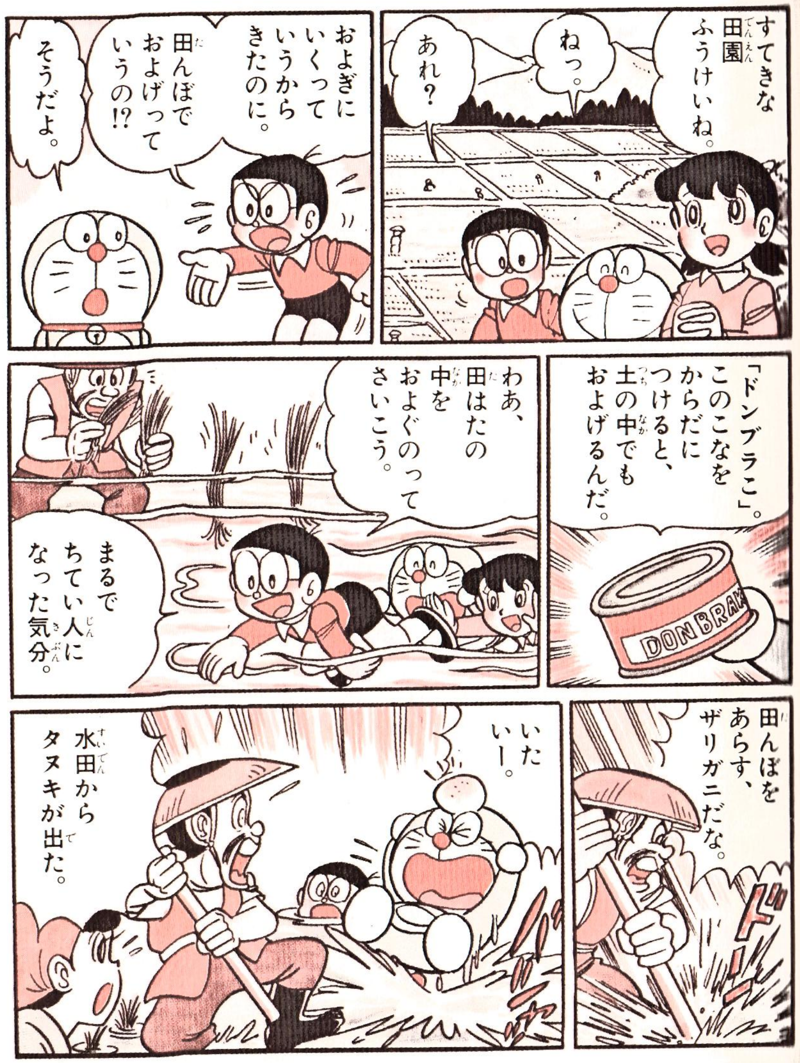
◆水田に なえを うえる。

◆田うえが はじまる。

なりたち

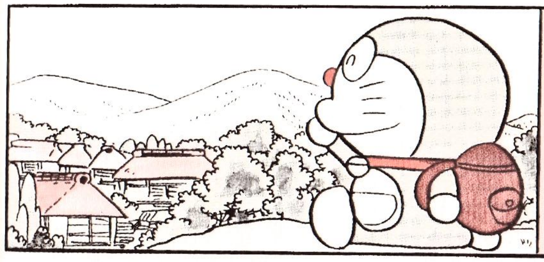


四かくに くぎった 田や はたけの かたちを あらわした 字だよ。





(しって おこう) 田(田んぼ)=いね(米)を つくる ところ。はたけ=やさいなどを つくる ところ。



村

おん ソン　村長・村民・山村

くん むら　村里・村まつり

かきじゅん 7かく

一　十　才　木　木一　村　村

いみと ことば

❶むら。いなか。

村里　いなかで　いえが　あつまって　いる　ところ。

村はずれ　村の　はしの　ほう。

村人　村に　すむ　人たち。

農村　おもに　のうぎょうを　して　くらして　いる　村。

漁村　海で　はたらく　りょうしが　たくさん　すんで　いる　村。

山村　山の　中の　村。

村長　村の　人びとから　えらばれて　村を　おさめる　人。

つかいかた

◆たのしい　村まつり。

◆村やくばを　見学する。

◆村はずれの　一けん家。

なりたち


寸

↓

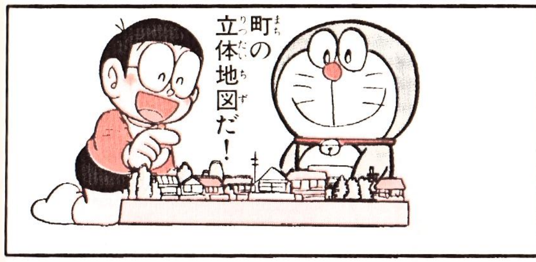
村


林の　かげに　人が　こしを　すえて　すんで　いる　ところ。




（きを　つけよう）「木」へんに、寸は「村」、木は「林」、交は「校」。村・林・校は　にて　いるよ。

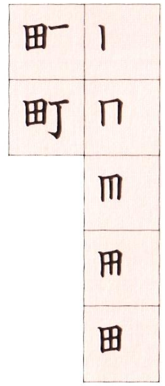
町



おん　チョウ　町長・町会・市町村

くん　まち　町かど・町工場・下町

かきじゅん　7かく



いみと ことば

❶まち。
町かど　①町の みちの かど。
②町の 中。
町はずれ　町の まん中から とおざかった はしの ほう。
町会　町に すむ 人たちが そうだんして つくった あつまり。
町長　町の 人たちから えらばれて 町の いろいろな しごとを する だいひょうの 人。

つかいかた

◆町かどに ある こうばん。
◆町はずれの ふるい お寺。
◆町会の もちつき大会。

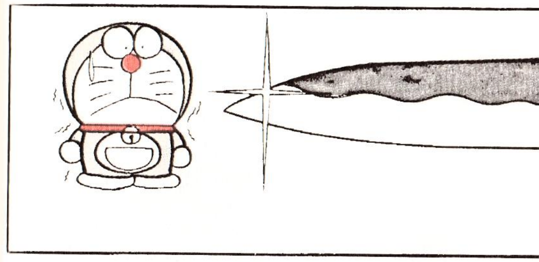
なりたち







（しって おこう）　いろいろな 町。下町・みなと町・りょうし町・門前町・やしき町・城下町 など。



先

おん　セン
先頭・先方・先日

くん　さき
先行き・先回り

かきじゅん　6かく



いみと　ことば

❶さき。はじめ。（先ごろ・手先）
つま先　足の　ゆびの　先。
先頭　いちばん　先。
先ちゃく　先に　つく　こと。

❷いまより　まえ。（先週）
先月　まえの　月。
先日　このあいだ。いまより　まえの　日。
先祖　その　家の　はじめの　人。いまの　時代より　まえの　人びと。

つかいかた

◆先ほど　でんわが　あった。
◆先日は　お手紙　ありがとう。
◆先祖の　はかを　おまいり　する。

なりたち

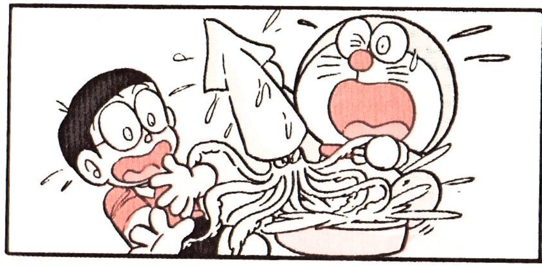


からだの　いちばん　さきの　つまさきの　こと。



※先手ひっしょう…あいてより　さきに　こうげき　すれば　かならず　かてる。

〔おぼえて　おこう〕　まとめて　おぼえよう。先月→今月→来月　先週→今週→来週。



生

おん

セイ　生物・生活・人生

ショウ　一生・たん生日

くん

い（きる）　生きもの・長生き

い（かす）　わざを　生かす

い（ける）　生けどり

う（まれる）　生まれつき

う（む）　生みの親・生み出す

お（う）　生いしげる

かきじゅん　5かく

ノ　𠂉　⺧　牛　生

いみと　ことば

①うむ。うまれる。（たん生日）

②いきる。（生きもの・長生き）

生けどり　生きたまま　つかまえる　こと。

一生　生まれて　から　しぬまで。

生活　くらして　いく　こと。

③にんげん。（生徒・学生）

つかいかた

◆先生と　生徒が　なわとびを　する。

◆母は　生け花の　先生です。

◆友だちの　たん生会に　いく。

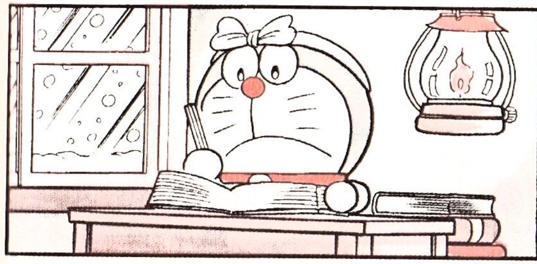
なりたち



草や　木のめが　土を　おしのけて　出てきた　ようすを　あらわした　字。



（しって　おこう）「生」のほかの　よみかた。「草が　生える」「花を　生ける」「生たまご」「生糸」など。



学

おん
ガク　学生・学力・学年

くん
まな(ぶ)　学びの　にわ

かきじゅん　8かく

いみと ことば

1 べんきょう する。ならう。
学習　べんきょう する こと。
学用品　ノートや えんぴつ、けしゴムなど、べんきょうで つかう どうぐ。
見学　みて 学ぶ こと。

2 がっこう。
通学　学校に かよう こと。(大学・小学校)

3 がくもん。ちしき。けんきゅう。(学者・文学)

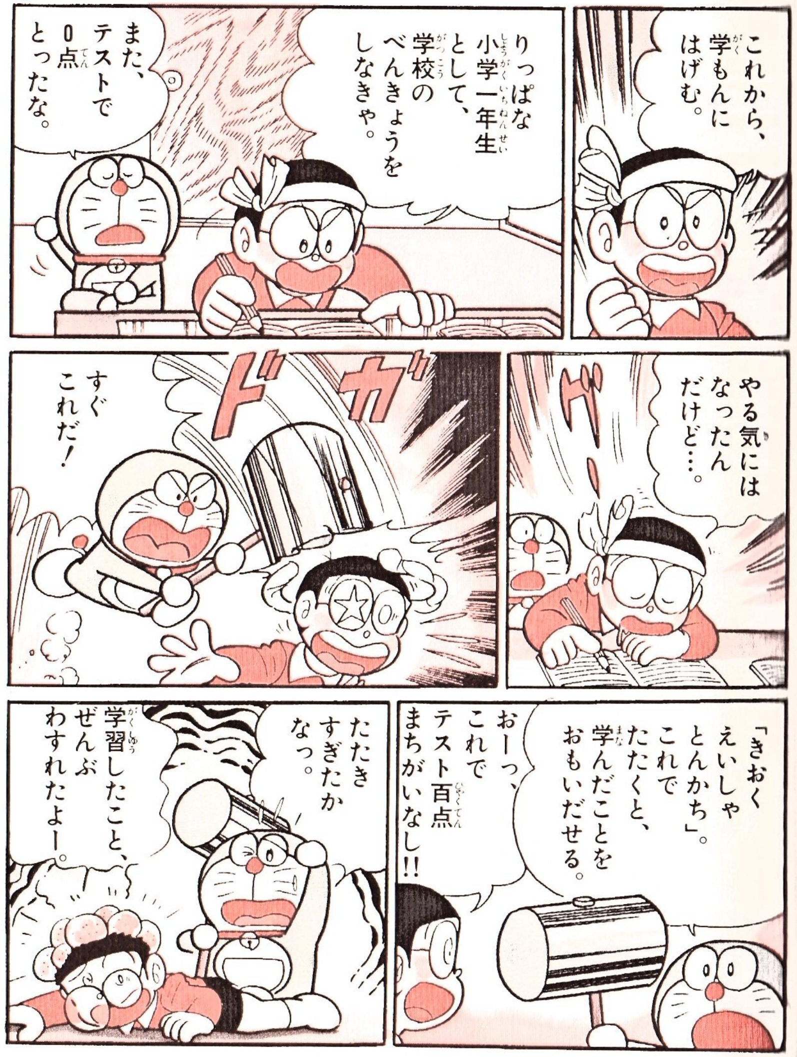
つかいかた

◆よく 学べ、よく あそべ。
◆学習じゅくで べんきょうを する。
◆うちゅうけんきゅうの 科学者。
◆学芸会で げきに 出た。

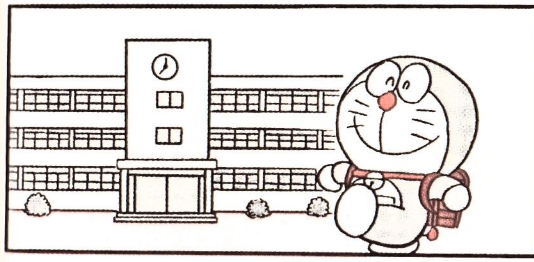
なりたち



先生と 子どもが まじわって、ちえの やりとりを する いえの こと。



(おぼえて おこう)　いろいろな 学校。小学校・中学校・高とう学校・大学・りん海学校・林間学校 など。



校

おん

コウ　校しゃ・校長・登校・校歌・転校・本校

かきじゅん　10かく

一　十　才　木　木'　杧　杧　杧　杪　校

いみと　ことば

❶がっこう。（校しゃ・校門）

校しゃ　学校の　たてもの。

校庭　学校の　にわ、うんどうじょう　など。

登校　学校に　いく　こと。

下校　学校から　かえる　こと。

校医　学校の　生徒の　からだを　しらべたり、びょう気を　なおしたり　する　いしゃ。

つかいかた

◆校しゃ内は　しずかに　あるこう。

◆朝、八時に　登校する。

◆げん気よく　校歌を　うたう。

◆全校えん足で　山のぼり。

◆やさしい　校長先生、校医さん。

なりたち



おしえる　ことと、ならう　ことが　まじわって　おこなわれる　こと。





（おぼえて　おこう）「校」の　つく　ことば。校舎・校庭・校門・校歌・校旗・校章・校長　など。



本

おん　ホン　手本・絵本・本名

くん　もと　大本

かきじゅん　5かく

一　十　才　木　本

いみと　ことば

1 ほん。（本立て・本屋）

絵本　おもに　えが　かいて　ある　子どもの　本。

2 ちゅうしん。おもな。（本社・本店・本土・本部・本場）

3 ほんとうの。せいしきの。

本気　ふざけて　いない、ほんとうに　まじめな　気もち。

4 よい　ものと　して　みならう　もの。

手本　それを　みならうように　する　えや　字。

5 ほそながい　ものを　かぞえる　ことば。（えんぴつ五本）

つかいかた

◆本ばこの　本を　せいり　する。

◆手本に　ならって　かく。

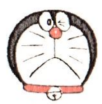
◆本日、本店で　大やすうり　する。

なりたち

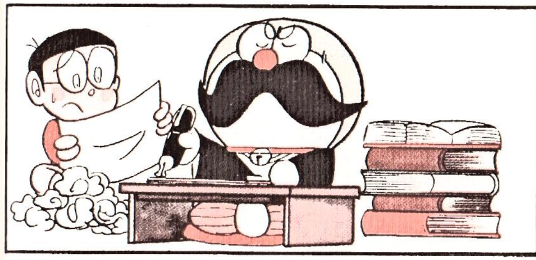


木の　ねもとに　しるしを　つけて　ふとい　ねもとを　あらわした　字だよ。





（きを　つけよう）「本」の　よみかたが　ちがって　いる。
一本・二本・三本・四本・五本・六本・七本・八本　など。



文

おん

ブン　作文(さくぶん)・文集(ぶんしゅう)・文書(ぶんしょ)

くん

ふみ　文(ふみ)（手紙(てがみ)・本(ほん)）を　よむ。

かきじゅん

丶　亠　ナ　文　4かく

いみと　ことば

❶もじ。（文字(もじ)・文字(もんじ)）

古文(こぶん)　むかしの　人(ひと)が　かいた　文(ぶん)しょう。

❷かいた　ことば。文(ぶん)しょう。

作文(さくぶん)　おもった　ことや、しらせたい　こと　などを　かいた　文(ぶん)しょう。

文集(ぶんしゅう)　作文(さくぶん)を　あつめて、本(ほん)に　した　もの。

文通(ぶんつう)　手紙(てがみ)の　やりとりを　する　こと。

❸ほん。（学級文庫(がっきゅうぶんこ)）

文庫(ぶんこ)　本(ほん)を　しまって　おく　くら。かきものを　いれて　おく　はこ。

つかいかた

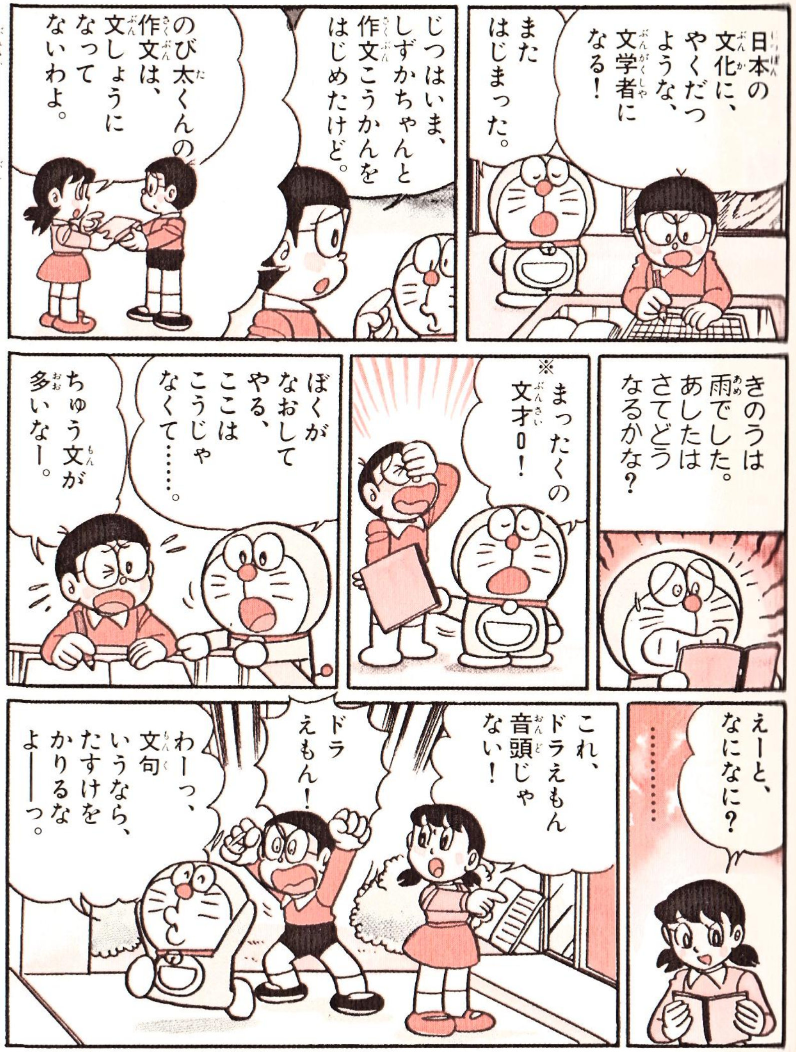
◆文字(もじ)を　きれいに　かく。

◆クラスの　文集(ぶんしゅう)づくりを　する。

なりたち

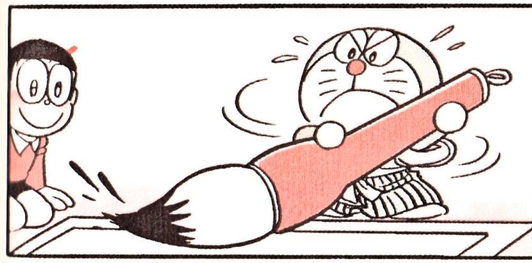


土(ど)きに　つけた　もようを　あらわした　字(じ)。



※文才(ぶんさい)…よい　文(ぶん)しょうを　かく　ことの　できる　さいのう。

（しって　おこう）「文(ぶん)ぼう具(ぐ)」の　いろいろ。ノート・えんぴつ・けしゴム・コンパス・じょうぎ・下(した)じき　など。



字

おん

ジ　字引き・字形・字典・文字

くん

あざ　○○村字○○

かきじゅん

6かく

丶　丷　宀　字

いみと　ことば

❶もじ。

字形　かいた　字の　かたち、かっこう。

漢字　むかし、中国で　つくられた　字。

習字　文字の　かきかたを　ならう　こと。

数字　1、2、3（一、二、三）など、かずを　あらわす　字。

つかいかた

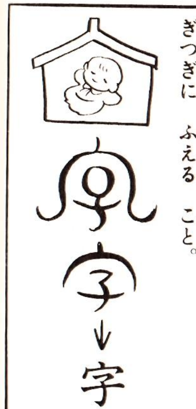
◆漢字や　数字を　かく。

◆文字の　れんしゅうを　する。

◆漢字の　字引きで　しらべる。

◆習字の　けいこを　する。

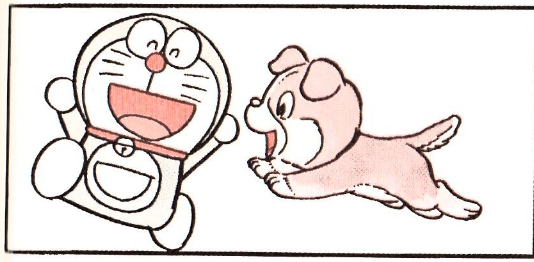
なりたち



宀（やね）と　子を　あわせた　字で、子どものように、文字が、つぎつぎに　ふえる　こと。



（しって　おこう）　文字の　いろいろ。ひらがな・かたかな・かん字・すう字・かんすう字・ローマ字　など。



犬

おん　ケン　番犬・野犬・愛犬

くん　いぬ　犬小屋・子犬・のら犬

かきじゅん　一　ナ　大　犬　4かく

いみと ことば

① いぬ。

犬小屋　犬が すむ 小さな たてもの。

番犬　いえや、ひつじ などの 見はりを する 犬。

愛犬　かわいがって いる 犬。

野犬　かいぬしが いなくて、あちこち うろうろして いる 犬。のら犬。

りょう犬　とりや けものを とるのを 手つだう 犬。

② くだらない。むだな こと。

犬じに　しんでも、なんの やくにも たたない こと。むだじに。

つかいかた

◆**番犬**が どろぼうに ほえる。

◆ぼくの **愛犬**は しば犬だ。

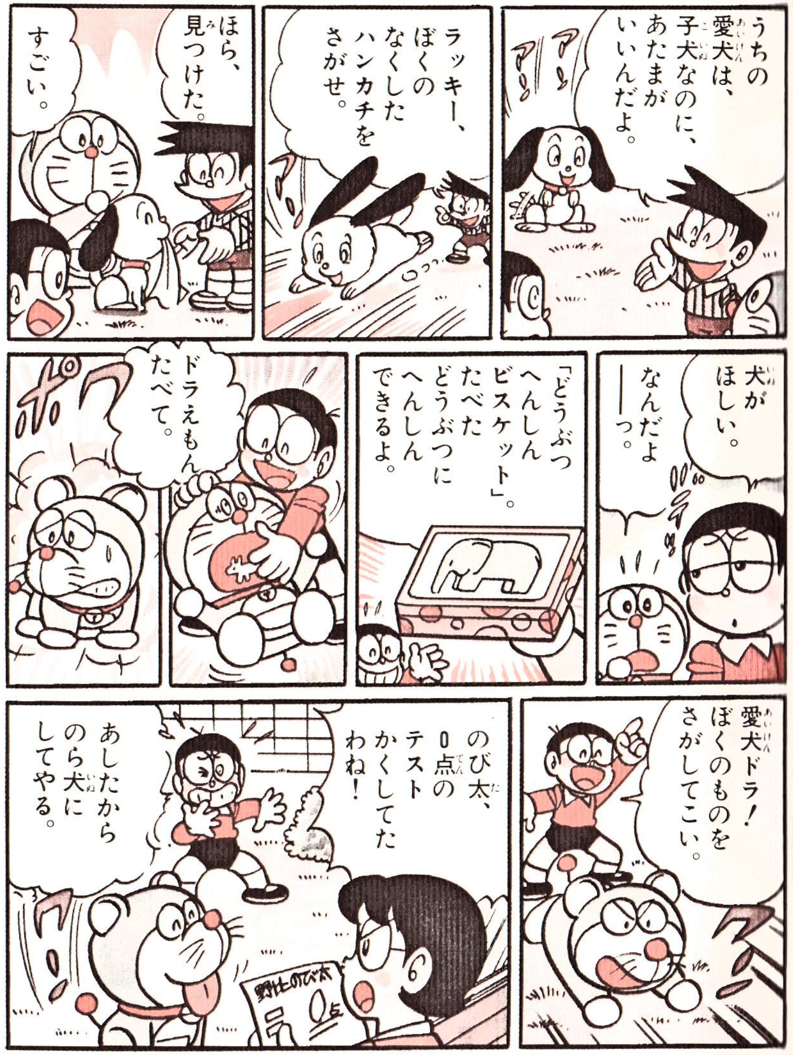
◆**子犬**が 三びき 生まれた。

なりたち

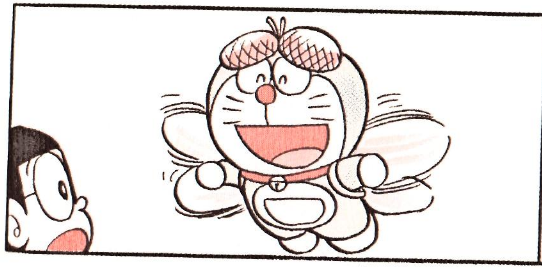


犬の かたちから できた 字。

「ケン」は、犬の なきごえ



〔きを　つけよう〕「こいぬ」の　ちがい。「子犬」は 子ども　いぬ。「小犬」は　小さい　犬の　こと。



虫

おん　チュウ　よう虫・こん虫

くん　むし　虫ば・毛虫・なき虫

かきじゅん　6かく

ヽ	ロ	口	中	虫	虫

いみと ことば

1 むし。こんちゅう。

こん虫　からだが あたま・むね・はらに わかれ、あたまには 目・しょっかく、むねには 四まいの はねと、六本の 足が ある 虫。チョウなど。

害虫　人や さくもつに 害を あたえる 虫。カ・ダニ・ゴキブリなど。

虫めがね　ものを 大きくして 見る ときに つかう レンズ。

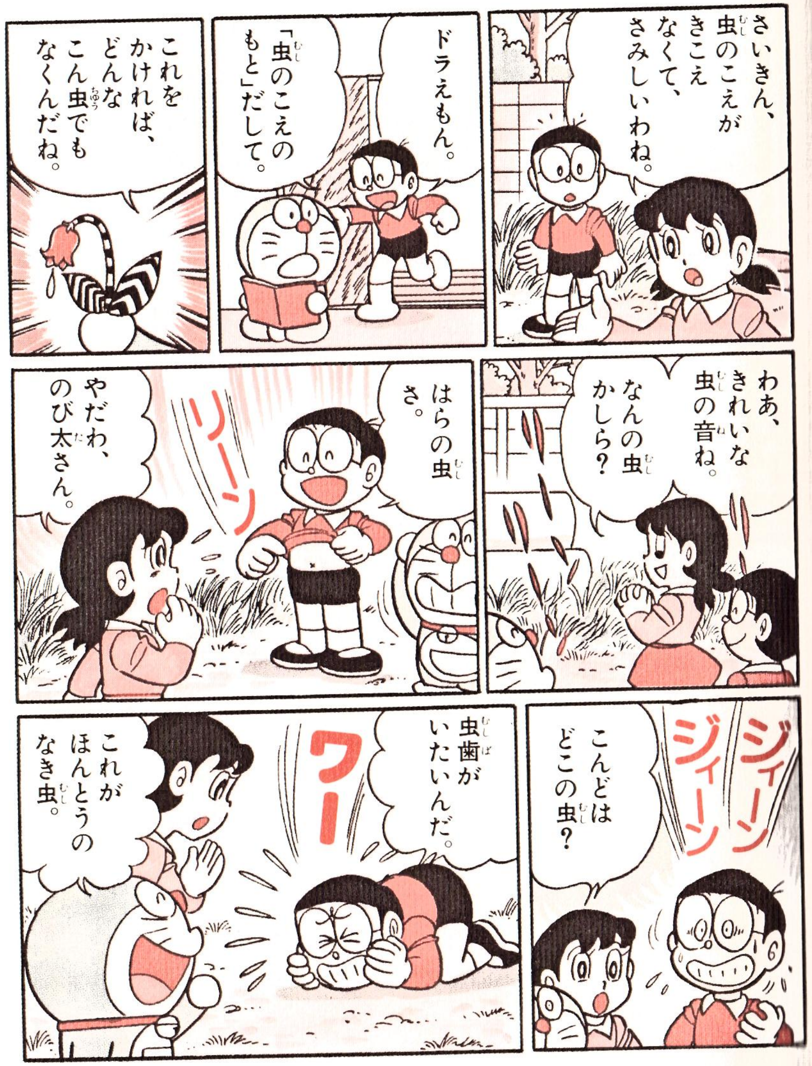
つかいかた

◆アリを 虫めがねで 見る。
◆青虫から チョウが 生まれる。
◆虫かごで カブト虫を かう。
◆こん虫ずかんを かりる。

なりたち



まむしと いう へびの かたちから できた 字。いまは、ふつうの 「むし」の こと。





（しって おこう）　人を わるく いう 虫。なき虫・よわ虫・てんとり虫・虫けらのような 男 など。



貝

くん
かい　貝がら・貝づか・貝柱

かきじゅん　7かく

丨　冂　冂　月　目　貝　貝

いみと　ことば

1 かい。

貝がら　貝の　そとがわの　かたい　から。

貝ざいく　貝で　かざりもの　など、こまかな　ものを　つくる　こと。つくった　もの。

貝柱　二まい貝が　貝がらを　とじたり　ひらいたり　する　きんにく。

二まい貝　二まいの　貝がらを　もって　いる　貝。

つかいかた

◆さくら貝を　ひろう。

◆貝がらを　つかった　貝ざいく。

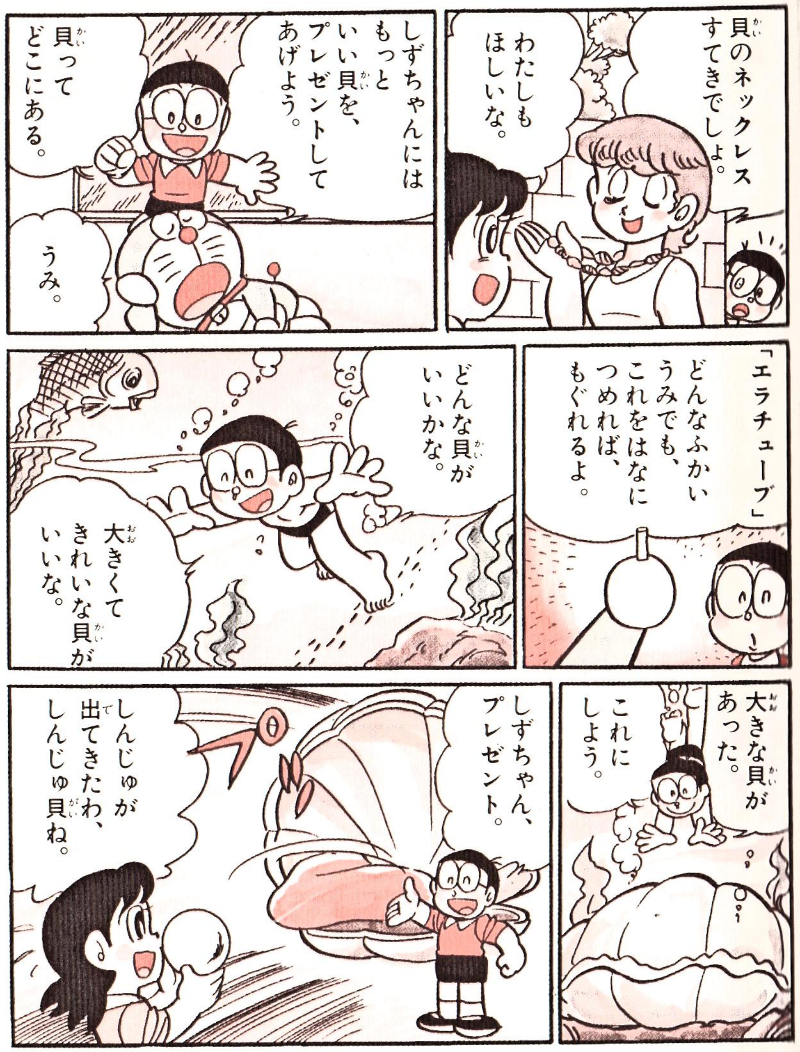
◆あさりや　はまぐりは　二まい貝で、さざえは　まき貝と　いう。

◆貝づかを　見学する。

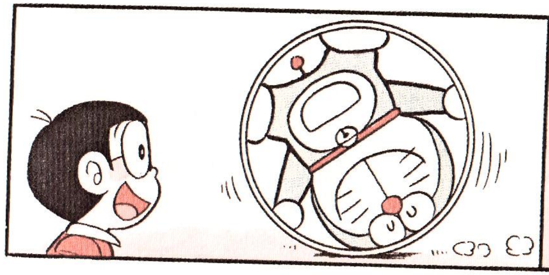
なりたち



こやす貝（二まい貝）の　かたちを　あらわした　字。



（しって　おこう）　いろいろな　貝。ほたて貝・はまぐり・あさり・しんじゅ貝・ほら貝・さざえなど。



円

おん エン　円形・円ばん・一円玉

くん まる(い)　円いわ・円い月

かきじゅん 4かく

丨　冂　円　円

いみと ことば

❶まる。まるい。

円形　まるい かたち。えん。

円ばん　まるくて ひらべったい かたちの もの。スポーツの 円ばん なげで つかう もの。

半円　まるの はんぶん。

一円　その まわり ぜんぶ。

❷お金の たんい。(一円・十円・百円・千円・一万円)

❸おだやか。なごやか。

円満　人がらが おだやかな こと。

つかいかた

- 円形の プールで およぐ。
- 半円の 月を 半月と いう。
- おこづかいは 五百円。
- 関東一円に じしんが あった。

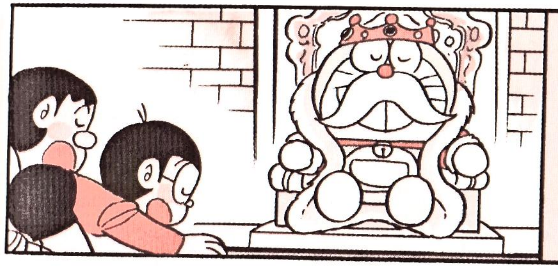
なりたち

口(かこい)と 員(口の 円く あいた 入れもの)を あわせた 字。

員 → 円



(しって おこう) 円い かたちの もの。お金(コイン)・円ばん・おぼん・せんべい・レンズ など。



王

おん

オウ　王子・国王・発明王

かきじゅん　4かく

一　丅　干　王

いみと　ことば

① おうさま。ひとつの　くにの　かしら。（王様・国王）

王子　王さまの　むすこ。

王女　王さまの　むすめ。

国王　くにを　おさめる　王さま。

女王　おんなの　王さま。

② ものごとに　いちばん　すぐれて　いる　もの。（ホームラン王・百じゅうの王）

王者　くにの　王で　ある　人。すぐれた　人。

発明王　いろいろ　くふう　して　あたらしい　ものを　たくさん　かんがえ出す　人。

つかいかた

◆『はだかの　王さま』を　よむ。

◆どうぶつの　王者　ライオン。

◆エジソンは　発明王　だった。

◆ホームラン王は　だれかな。

◆イギリスの　女王さま。

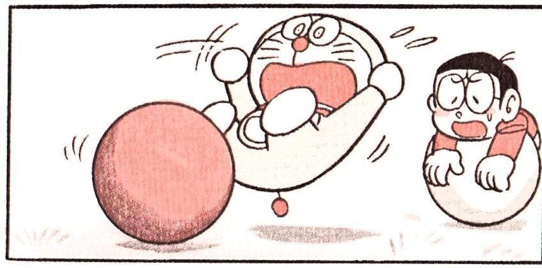
なりたち



むかし、大きな　おのは　王さまの　いみを　あらわした。



（しって　おこう）　いろいろな　王。国王・女王・ホームラン王・ま王・発明王・えんま大王　など。



玉

おん　ギョク　玉ざ・玉石・ほう玉

くん　たま　水玉・玉手箱・お年玉

かきじゅん　5かく

一 丅 干 王 玉

いみと　ことば

❶まるい　かたち。（シャボン玉・目玉やき）

お手玉　あずき　などを　ぬの　の　ふくろに　入れた　もの。なげ　上げて　あそぶ、女の　子の　おもちゃ。

水玉　水の　しずくが　玉の　ように　まるく　なって　いる　もの。

❷うつくしい　もの。ほうせき。

ほう玉　たからもので、うつくしく　まるい　石。

つかいかた

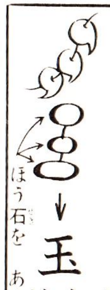
◆水玉もようの　ネクタイ。

◆目玉やきを　つくる。

◆王さまの　かんむりは　ほう玉が　たくさん　ついて　いた。

◆うんどう会で　玉入れ　きょうそうを　した。

なりたち

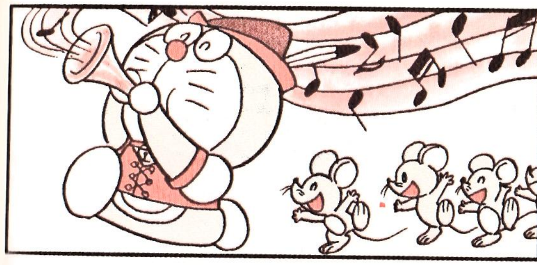


ひもで　たまを　三つ　つないだ　かたちを　あらわした　字だよ。



（しって　おこう）　玉を　つかった　あそび。玉入れ・お手玉・ビー玉・けん玉・しゃぼん玉・大玉はこび　など。

音



おん
- オン　音楽・発音・音声
- イン　母音・子音

くん
- おと　足音・雨音・もの音
- ね　音色・虫の音・弱音

かきじゅん　9かく

丶　亠　亠　亣　立　产　音　音　音

いみと　ことば

❶おと。ひびき。（音楽）
- 足音　あるいたり、はしったり　した　ときの　足の　音。
- ざつ音　さわがしく　耳ざわりな　音。
- 音色　その　音だけに　かんじられる　音の　かんじ。

❷こえ。
- 音読　声を　出して　よむこと。
- 発音　声を　出す　こと。

❸かん字の　よみかた。（音読み）

つかいかた
- ◆うつくしい　ふえの　音色。
- ◆音楽会で　ピアノを　ひく。

なりたち

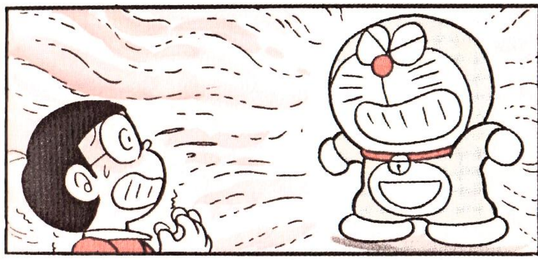


↓音

口の　中に　ものを　入れて、もぐもぐ　いって　出てくる　いみの　わからない　こえ。



（きを　つけよう）　かん字には　音よみと　訓よみのある　字が　多い。　れい　「林」音よみ（リン）　訓よみ（はやし）



気

おん

キ　空気・気分・ふんい気

ケ　水気・火の気・気はい

かきじゅん　6かく

ノ　𠂉　𠂉　气　気　気

いみと　ことば

❶くうき。ゆげ。（空気・気体）

気温　空気中の　おんど。

❷しぜんの　ようす。

気こう　気温の　たかさ　ひくさ、はれたり　雨が　ふったり　する　ようす。

しめり気　空気　などに　ふくまれて　いる　水気。

❸こころもち。かんじ。（気分）

勇気　なにごとも　おそれない　いさましい　気もち。

つかいかた

◆気分が　わるく　なった。

◆みんなで　元気　よく　あそぶ。

◆とても　よい　天気だ。

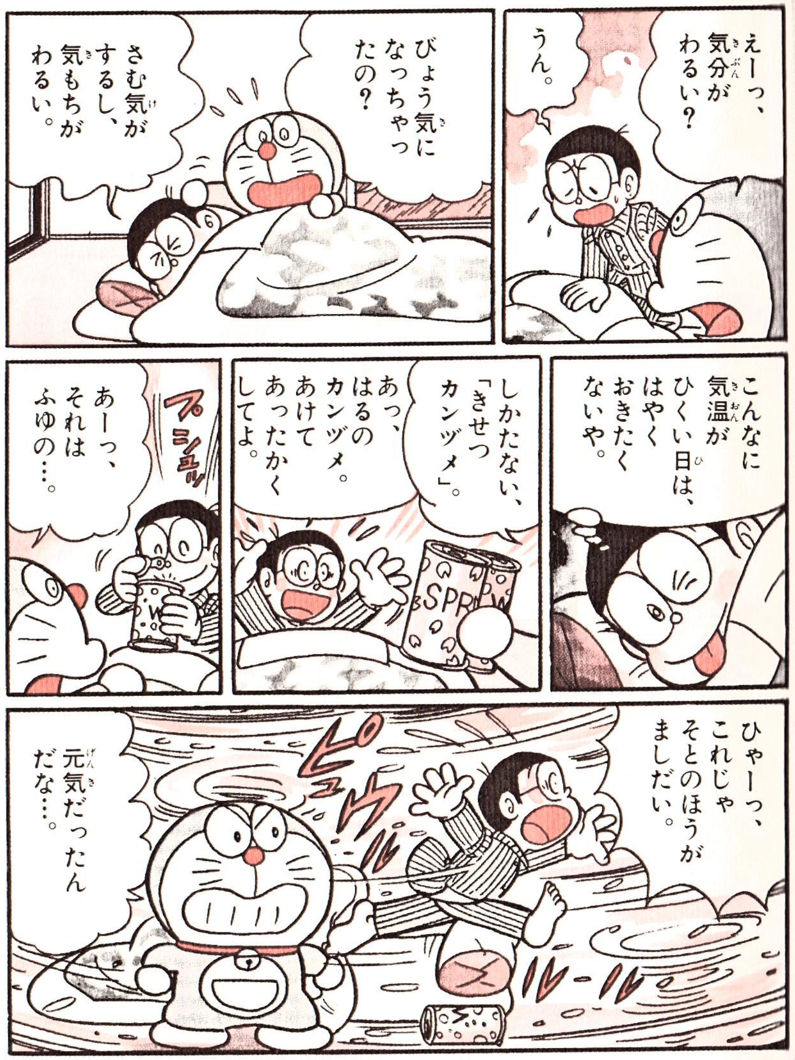
◆雨の　日は　しめり気が　多い。

◆弟は　とても　気が　よわい。

なりたち



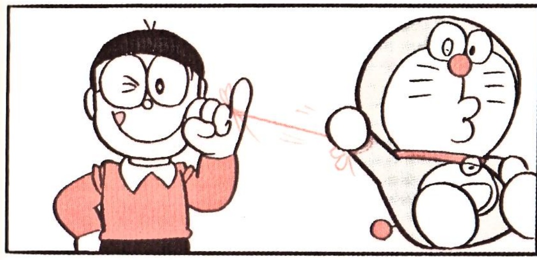
米を　たくとき　出る　「ゆげ」を　あらわして　いる。





〔おぼえて　おこう〕　気を　つかった　ことば。気が　みじかい・気が　ながい・気が　つよい・気が　大きい。

糸



おん シ　金糸・ばっ糸・せい糸

くん いと　糸車・糸口・糸まき

かきじゅん 6かく

く	幺	幺	糸	糸	糸

いみと ことば

1 いと。（たこ糸・もめん糸）

糸まき　糸を まきつけて おく もの。

毛糸　ひつじ などの 毛で つくった 糸。

きぬ糸　かいこの まゆ から とった 糸。

糸車　むかし、つかって いた どうぐで、かいこの まゆや わた から 糸を とって、まきつける もの。

2 糸の ように ほそい もの。（糸のこぎり・くもの 糸）

つかいかた

◆毛糸で マフラーを あむ。

◆糸でんわを つくる。

◆ミシンに 糸まきを つける。

なりたち



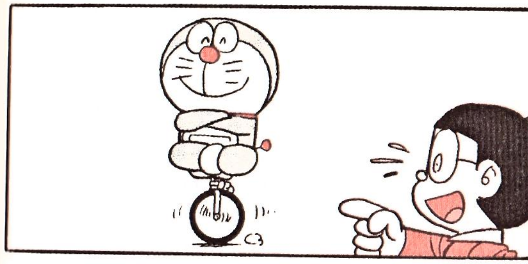
かいこの 出す 糸を たばねた かたちを あらわした 字。





〔しって おこう〕「糸」を つかった あそび。糸でんわ・糸まき車・ボタンまわし・あやとり など。

車



おん シャ　車りん・車道・電車

くん くるま　車いす・風車・に車

かきじゅん 7かく

一　丆　𠀀　戸　百　亘　車

いみと ことば

1 くるま。（車いす・うば車）

風車　かみ などで つくった 風が あたると まわる おもちゃ。

水車（すいしゃ）　水の 力で まわる 車。

車りん　車の わ。

2 くるまの ついた のりもの。（汽車・電車・自動車・消防自動車・自転車・馬車・三りん車）

車道　自動車 などの のりもの が とおる みち。↕歩道

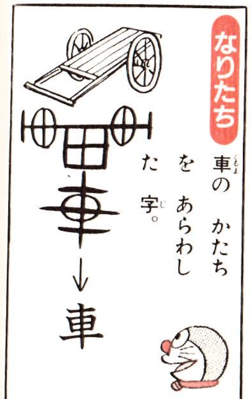
つかいかた

◆うば車に のった 赤ちゃん。

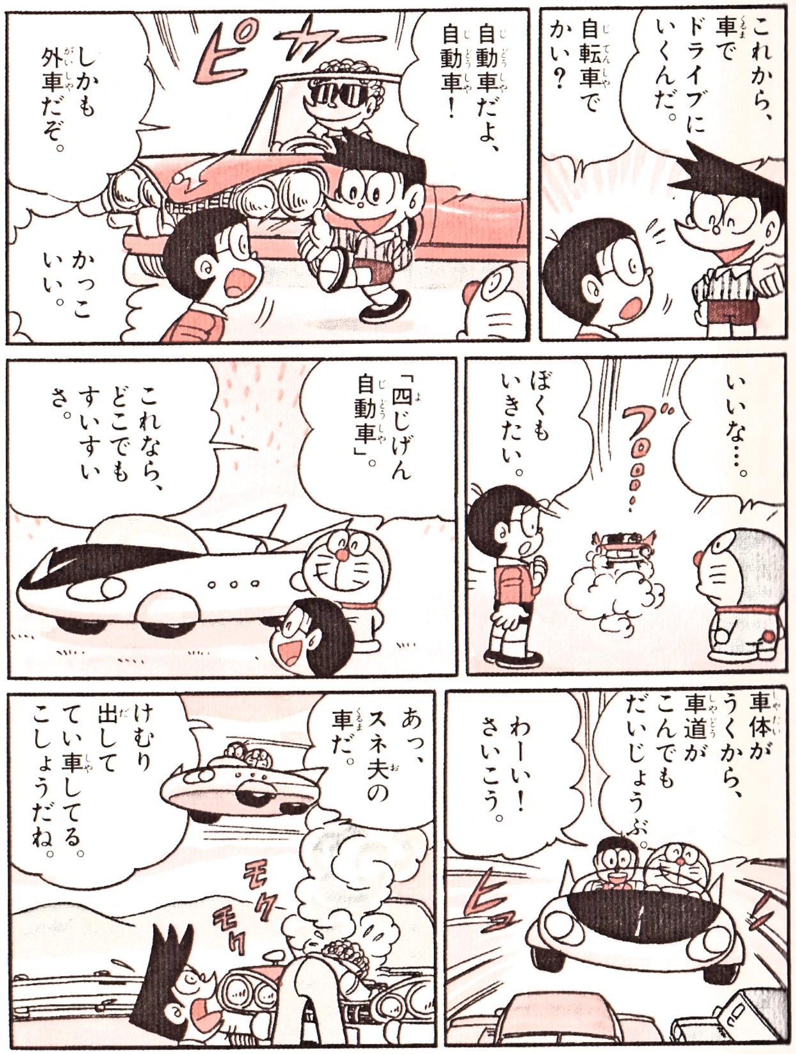
◆自転車で おつかいに いく。

◆発車の ベルが なる。

なりたち



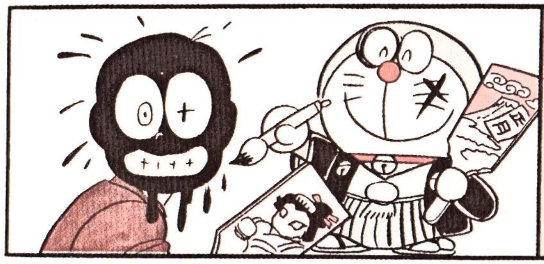
車の かたちを あらわした 字。





（きを つけよう）「車」と「東」は かたちのよく にて いる 字。 れい ・車が とおる。・東の 空が あかるい。

正



おん
セイ　正かく・正門・正方形
ショウ　正体・正じき・正月

くん
ただ(しい)　正しい行い
ただ(す)　しせいを正す
まさ　正ゆめ

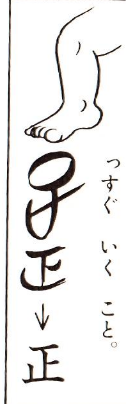
かきじゅん　5かく
一　丅　下　[illegible]　正

いみと　ことば

1 ただしい。
正かく　正しくて　まちがいの　ない　こと。
正じき　まっすぐで　うそや　ごまかしの　ない　こと。
正門　まえの　門。おもての　門。

2 きちんと　した。ちょうど。
正方形　四へんの　ながさが　みな　おなじで、四つの　かども　みな　ちょっかくの　四かくけい。

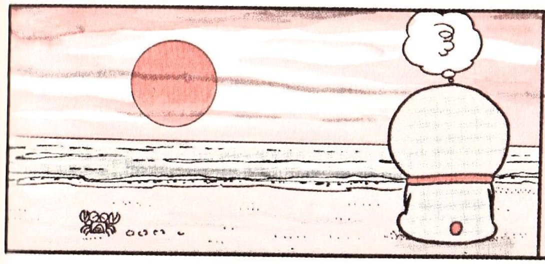
つかいかた
正面　まっすぐまえ。おもて。
◆しせいを　正しく　しましょう。
◆正午に　サイレンが　なる。

なりたち

一(もくてき)と　止(足)を　あわせた　字。もくてきに　むかって、まっすぐ　いく　こと。



※正正どうどう…たいどが　正しく　りっぱな　ようす。ひきょうな　てを　つかわない　こと。

(しって　おこう)「正」は、五かく　なので、数を　かぞえるのに　つかう。丅(2)、下(3)、[illegible](4)、正(5)を　あらわす。



夕

おん　セキ　一朝一夕・朝夕

くん　ゆう　夕日・夕食・夕刊

かきじゅん　ノ　ク　夕　3かく

いみと　ことば

❶ゆうがた。ひぐれどき。

夕やけ　日が　しずむ　とき、にしの　空が　赤く　見える　こと。

夕日　夕がたの　お日さま。

夕すずみ　なつの　夕がた、そとに　出て　すずむ　こと。

夕立　なつの　夕がた　などに、きゅうに　ふって　くる　雨。

夕ぐれ　日が　くれる　とき。

夕げ　夕ごはん。夕はん。

つかいかた

◆夕食の　おかずは　おでんだ。

◆にわで　夕すずみを　する。

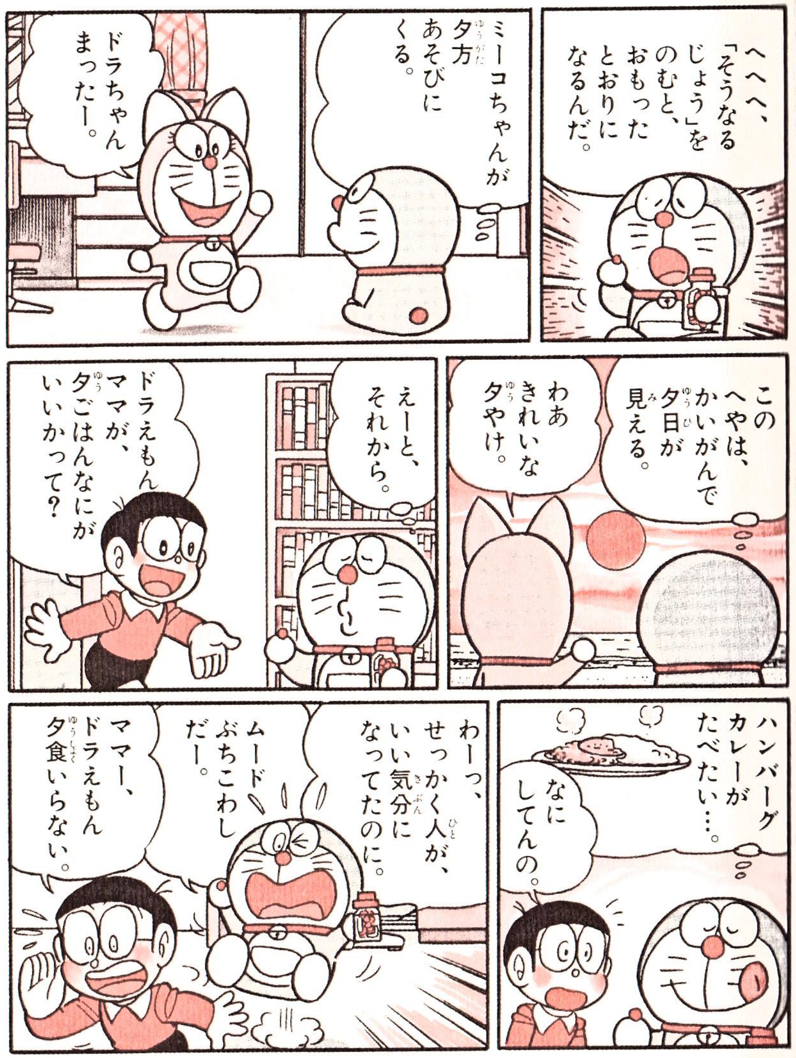
◆夕立に　あって　びしょぬれだ。

◆夕刊を　よみながら　夕食を　とる　おとうさん。

なりたち

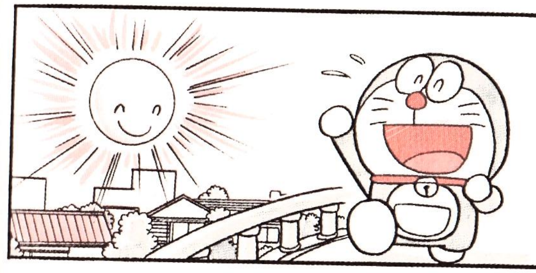


三日月の　かたちを　えがいた　字。夕がたを　あらわしている。





（おぼえて　おこう）　まとめて　おぼえよう。「朝ごはん・昼ごはん・夕ごはん」「朝食・昼食・夕食・夜食」



早

おん
ソウ　早朝・早春・早々
サッ　早速

くん
はや（い）　早口・早引け・足早
はや（まる）　一日早まる
はや（める）　一時間早める

かきじゅん　6かく

丨	冂	日	日	旦	早

いみと　ことば

❶はやい。ある　ときより　まえ。（早足・早ね・早朝）

早おき　あさ、早く　おきる　こと。
早口　ものの　いいかたが　早い　こと。
早生まれ　一月一日　から　四月一日　までに　生まれる　こと。その　間に　生まれた　人。
早朝　朝、早く。

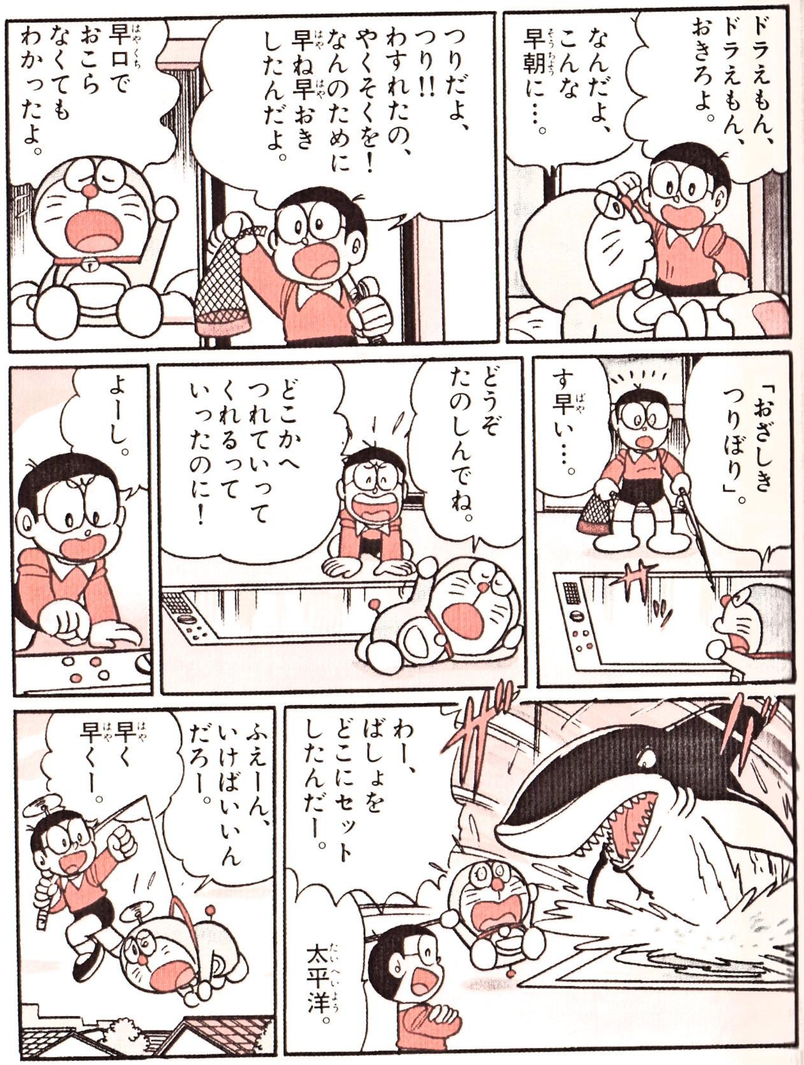
つかいかた

◆早ね早おきを　する。
◆はらいたで　早引け　する。
◆早朝マラソンで　きたえる。

なりたち



日の　のぼりはじめ。朝、早いという　いみ。



（きを　つけよう）「はしるのが　はやい」「でん車のはやさ」は、「早」でなく、「速い・速さ」が正しい。

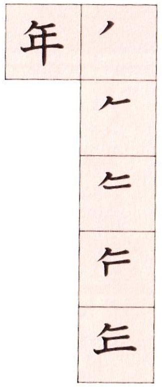


年

おん ネン　年長・年始・新年

くん とし　年上・年下・年より

かきじゅん 6かく



いみと ことば

❶とし。いちねん。

年月　としつき。なん年かの あいだ。

新年　あたらしく むかえた 年。

半年　一年の 半分。六か月。

毎年　その 年も、つぎの 年も。まいねん。

❷ねんれい。「なんさい」と いう 年。（年少・年長）

年上　その 人 より 年が おおい こと。

年より　年を とった 人。

つかいかた

◆二さい 年下の いもうと。

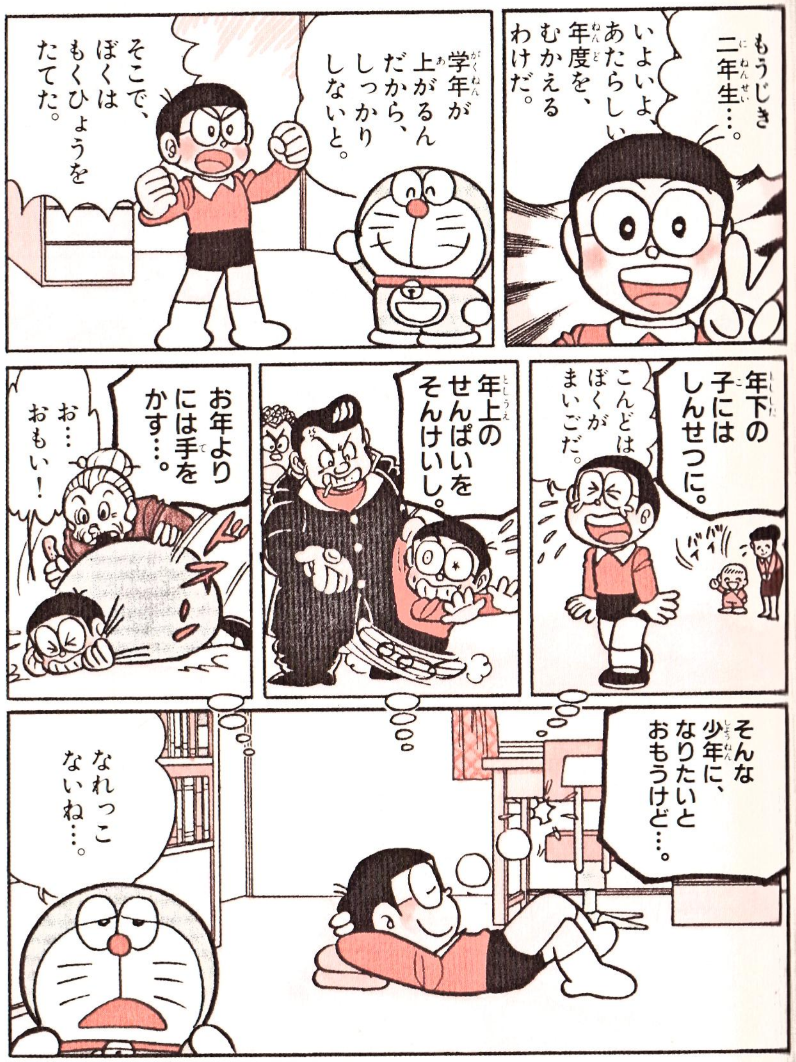
◆年がじょうを かく。

◆「少年まんが」を かって よむ。

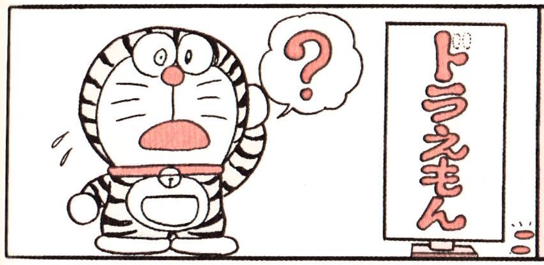
なりたち



いねが 一年に 一回 みのる ことから 「年」を あらわす。



（とくべつな　よみかた）　今年（ことし）「先おととし→おととし→きょ年→今年→らい年→さらい年」



おん

メイ　名ぼ・名人・名作

ミョウ　名字・本名・功名

くん

な　名前・名ふだ・名づけ親

かきじゅん　6かく

ノ　ク　タ　タ　名　名

いみと ことば

1 なまえ。な。（名前・名ふだ・名字・あて名・町名）

人名　人の 名前。

名字　その いえを あらわす 名前。

地名　土ちの 名前。

2 ひょうばん。

有名　名前が よく しられて いる こと。

3 りっぱな。すぐれて いる。

名案　とても いい かんがえ。

名人　とくに りっぱな うでまえの 人。

つかいかた

◆ぼくの 名字は 大川です。

◆名作どうわを よむ。

なりたち

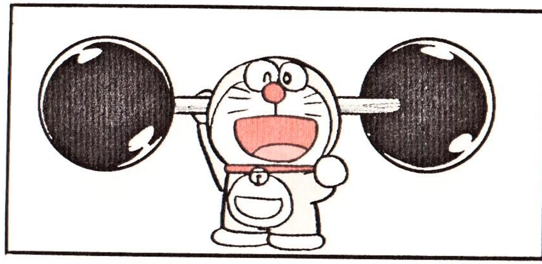


くらくて 見えない とき 大ごえで 名前を よびあう こと。





（しって　おこう）「名」は　人ずうを　かぞえる　ことば。
五名（めい）　四十名（めい）のクラス。



力

おん

リョク　火力・体力・努力

リキ　力士・馬力・力作

くん

ちから　力くらべ・力もち

かきじゅん

2かく

フ　力

いみと　ことば

1 ちから。いきおい。

学力　べんきょう　する　力。

体力　うんどう　したり、しごと　を　したりする　力。

全力　ありったけの　力。

力しごと　力の　いる　しごと。

きょう力　みんなで　力を　あわせる　こと。

2 ちからを　だして　はげむ。

努力　力の　かぎり　つくす　こと。

力投　力いっぱい　なげる　こと。

つかいかた

◆力もちの　力士（すもうとり）。

◆火力の　つよい　ガスこんろ。

◆力いっぱい　ひいた　つなひき。

◆ピッチャーが　力投する。

なりたち



うでに　力を　入れた　とき　に　出る　きんにくの　すじの　かたち。





（おぼえて　おこう）「力」を　つかった　ことば。力しごと・力こぶ・力いっぱい・力だめし・力まかせ　など。

二年生でならうかん字

かん字もくじ

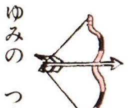
引……166
羽雲園……167
遠何科……168
夏家歌……169
画回会……170
海絵外……171
角楽活……172
間丸岩……173
顔汽記……174
帰弓牛……175
魚京強……176
教近兄……177
形計元……178
言原戸……179
古午後……180
語工公……181
広交光……182
考行高……183
黄合谷……184
国黒今……185
才細作……186
算止市……187
矢姉思……188
紙寺自……189
時室社……190
弱首秋……191
週春書……192
少場色……193
食心新……194
親図数……195
西声星……196
晴切雪……197
船線前……198
組走多……199
太体台……200
地池知……201
茶昼長……202
鳥朝直……203
通弟店……204
点電刀……205
冬当東……206
答頭同……207
道読内……208
南肉馬……209
売買麦……210
半番父……211
風分聞……212
米歩母……213
方北毎……214
妹万明……215
鳴毛門……216
夜野友……217
用曜来……218
里理話……219

引

おん　イン

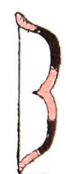
くん　ひ(く)　ひ(ける)

㇕ コ 弓 引



●はんたい語—おす

ゆみの つるを いっぱいに ひく こと。



ゆみの かたち。

いみと ことば

①ひっぱる。つな引き

②みちびく。引率

③しりぞく。身を引く

ちゅうい　「ピアノを ひく」を 「ピアノを 引く」と 書くのは、間ちがい。

羽

おん　ウ

くん　は・はね

丁 习 习 羽 羽



とりの はねの ようすを あらわした字。

いみと ことば

①鳥やとぶ虫のはね。つばさ。羽毛・羽ばたき・羽音・羽衣

②鳥をかぞえることば。一羽・二羽・三羽

さんこう　「羽」は、鳥をかぞえることば。一羽(わ)三羽(ば)十羽(ぱ)などによみわける。

雲

おん　ウン

くん　くも

一 币 帀 雨 雲



雨を ふらす くもの いみ。

いみと ことば

①そらのくも。雲間・雲行き・雲がくれ・雨雲・入道雲・白雲・夕立雲・夕やけ雲・ひこうき雲

ちゅうい　「そらが 雲る」と書くのは間ちがい。正しくは「そらが曇る」。小学校ではならわない。

園

おん　エン

くん　その

冂 冃 周 園 園



かきねで かこんだ やさいばたけの こと。

いみと ことば

①にわ。公園・庭園

②野菜、草、木などをうえてあるところ。果樹園・りんご園・花園

ちゅうい　囗(くにがまえ)のにている字に気をつけよう。園・図・国・囲など。

遠

おん　エン・オン

くん　とお(い)



●はんたい語—近

土　吉　声　声　遠

いみと ことば

①はなれる。とおい。遠足・遠海・遠方・永遠・遠回り

②とおざかる。敬遠・そ遠

ちゅうい　かなづかいに気をつけよう。

遠い　○とおい・×とうい

何

おん　カ

くん　なに・なん



人が にもつを せおっている ようす。

亻　仁　仃　何　何

いみと ことば

①はっきりとわからないこと。何事・何者・何人・何様

②たずねることば。何ですか。何分

③まったく。すこしも。

さんこう　「何」をつかったことば。

「何気なくふりむく」「何くわぬ顔をする」など。

科

おん　カ

くん　—



さくもつを はかって しらべ、わけること。

ニ　禾　禾　禾　科

いみと ことば

①くべつをあらわすことば。科学・科目・教科・内科・社会科

②つみ。おきて。前科・罪科

さんこう　「カ」とよむ字はたくさんある。下・火・花・何・家・歌・夏・科・化・加・果・貨・可・価・河など。

夏

おん　カ・ゲ

くん　なつ



かめんを かぶって おどっている 人の ようす。

●はんたい語—冬

一　丆　百　夏　夏

いみと ことば

①なつ。なつのきせつ。夏草・夏祭り・夏季・夏期・初夏・春夏秋冬・夏至・夏休み・夏負け・夏物・夏場

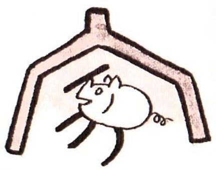
さんこう　「夏」のつくことば

夏場所・夏山・夏ふく・夏休み・夏草・夏鳥

家

おん　カ・ケ

くん　いえ・や



ぶた(たいせつなもの)を やねで おおった 場しょ。

人のすむ いえに なった。

宀　宀　宁　家　家

いみと ことば

①いえ。たてもの。家屋・農家・家庭・家来・家主

②せんもんの人。作家・画家・音楽家・大家

ちゅうい　「家」を正しく。

○家　×家　×家　×家

歌

おん　カ

くん　うた・うた(う)



口を 大きく あけた かたち。

可(カ)ーと こえを のばす かたち。

一　可　可　哥　歌

いみと ことば

①うた。うたう。歌声・歌曲・歌手・歌集・唱歌・短歌・歌劇・和歌・国歌・校歌・わらべ歌

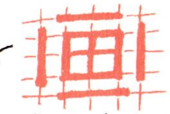
ちゅうい　「欠」を正しく。

×夂　×又　×攵　×文　○歌（哥）

画

おん ガ・カク

くん —



田んぼの まわりを かこって くぎりを つけた かたち。

画



いみと ことば

①え。はん画・図画 ②くぎり。区画 ③はかりごと。計画 ④かん字をくみたてる点や線。画数・字画・五画

ちしき いろいろな「絵画」
日本画・洋画・水さい画・版画・南画・へき画・まん画

回

おん カイ・エ

くん まわ(る)
まわ(す)



円を くるくる まわる ようす。

回



いみと ことば

①まわる。めぐる。回り持ち・回り道・右回り・回転・回想
②かぞえることば。回数・今回・次回・初回

さんこう 「回る」どうさ。歩き回る・かけ回る・はね回る

会

おん カイ・エ

くん あ(う)



会うこと



いみと ことば

①であう。会談・面会・会話
②あつまり。総会・司会・音楽会・展覧会・発表会・朝会

ちゅうい

(つかいかた)

会う — 先生に会う。友だちに会う。

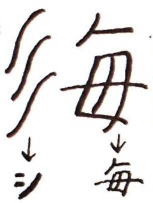
合う — 気が合う。話し合う。

海

おん カイ

くん うみ

●はんたい語─陸



うみの水は、ふかく くらい。



いみと ことば

①うみ。あら海・海がめ・海員・海国・海水・海水浴・海中・海底・海面・航海・大海・海外・内海・海岸・海外旅行

ちしき 日本の国のまわりの海。
太平洋・日本海・東シナ海・オホーツク海

絵

おん カイ・エ

くん —



いろの ついた 糸を よせあわせた もようのこと。



いみと ことば

①え。絵画・絵グラフ・絵地図・絵本・絵巻物・油絵・絵図・絵葉書・絵の具・絵日記・絵かき

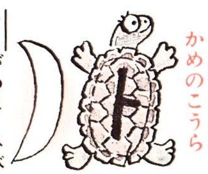
ちしき いろいろな「絵」
はり絵・きり絵・ぬり絵・すな絵・かげ絵

外

おん ガイ・ゲ

くん そと・ほか
はず(す)
はず(れる)

●はんたい語─内



そとがわに ひびわれが できる こうらと そとに 出て いる 月の いみ。



いみと ことば

①そと。そとがわ。外面・外観
②よそ。はずれる。外出・心外

さんこう ガタゴト 外で、おもしろ早おぼえ おとがする。

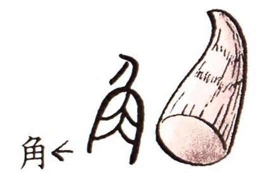


角

おん　カク

くん　かど　つの

うしや　ひつじなどの　つのの　かたち。



ノ　⺈　⺈　角　角

いみと　ことば

①つの。角ぶえ　②かど。角度・四つ角　③しかく。角材・角柱　④くらべる。互角

ちゅうい

「ク」を「マ」にしない。

○角　×角　×角

楽

おん　ガク・ラク

くん　たの（しい）　たの（しむ）

●はんたい語—苦

糸と　木と　白を　あわせた　字。

もとは、「くぬぎ」の　木の　こと。のち、音楽の「楽」に　つかわれた。



白　伯　泊　泶　楽

いみと　ことば

①おんがく。楽器・楽隊・楽団　②たのしい。安楽・極楽　③たやすい。楽観・楽勝

ちしき

うつ楽器→打楽器
ふく楽器→管楽器
ひく楽器→げん楽器



活

おん　カツ

くん　—

水が　いきおい　よく　うごく　いみ。



氵　氵　汇　汗　活

いみと　ことば

①いきる。いかす。活力・活用　②よみがえる。復活　③くらし。生活　④いきいき動く。活動

ちゅうい

にている字

活（さんずい）　話（ごんべん）

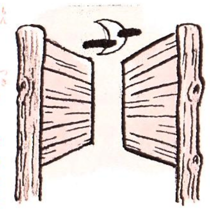
間

おん　カン・ケン

くん　あいだ・ま

門の　あいだから　月が　みえる　ようす。

門と　月を　あわせた　字。



丨　门　门　門　間

いみと　ことば

①あいだ。間食・中間・夜間・一週間・昼間　②いえの　へや。間口・土間・広間・洋間

さんこう

「間」の　つくことば

間もなく・間近・間ぎわ・間に合う・間びき・間ちがい

丸

おん　ガン

くん　まる・まる（い）・まる（める）

人が　からだを　まるめて　しゃがむ　ようす。



ノ　九　丸

いみと　ことば

①まるい。丸薬・丸太　②ぜんたい。丸出し　③頭の毛をそる。丸めこむ　④いいくるめる。⑤日本で船の名まえにつける。日章丸・かんりん丸

ちゅうい

「丸」の「丶」をわすれると……「九」になってしまう。

岩

おん　ガン

くん　いわ

山に　ある　おおきな　岩の　こと。



丨　山　山　岩　岩

いみと　ことば

①いわ。石の大きいもの。岩かげ・岩山・岩場・岩屋・岩石・岩塩・岩くつ・石かい岩・よう岩

ちゅうい

「岩」と「岸」のつかいわけ。

（○岩石　×岸石）（×海岩　○海岸）

顔

おん ガン

くん かお



亠 亣 立 彦 顔

いみと ことば

①かお。かおだち。顔色・顔つき・顔面・温顔・童顔・洗顔

②人としてのめんぼく。顔役



ちしき いろいろな「顔」

笑顔・すまし顔・なき顔・おこり顔・知らん顔・笑い顔

汽

おん キ

くん ―



丶 冫 氵 汽 汽

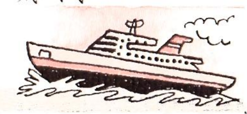
いみと ことば

①すいじょうき。ゆげ。汽車・汽船・汽てき

ちゅうい

汽 （○汽車・汽船 ×気車・気船）

気 （×汽こう・天汽 ○気こう・天気）



記

おん キ

くん しる（す）



丶 亠 言 訁 記

いみと ことば

①しるす。記事・記録・記入

②おぼえる。記おく

③書いたもの。日記・伝記

ちしき いろいろな「日記」

絵日記・旅行記・読書日記・見学日記・学級日記・かんさつ日記・テレビ日記

帰

おん キ

くん かえ（る） かえ（す）



●はんたい語 ― 行

刂 刂ヨ 刂ヨ冖 帰 帰

いみと ことば

①もとにもどる。里帰り・帰り道・帰京・帰郷・帰校・帰港・帰国・帰省・帰たく・帰路

さんこう 「帰」と「返」のつかいわけ。

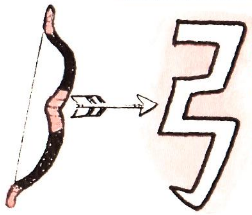
（○家に帰る。×家に返る。）

（×本を帰す。○本を返す。）

弓

おん キュウ

くん ゆみ



ゆみの かたち。

㇆ コ 弓

いみと ことば

①矢をいるぶき。それをつかいこなすぎじゅつ。弓矢・弓道

②ゆみのようにまがったかたち。弓がた・弓なり



ちしき 弓と矢は、むかしのぶき。

牛

おん ギュウ

くん うし



うしの つのと あたまの かたち。

ノ 𠂉 ⺧ 牛

いみと ことば

①うし。子牛・牛小屋・牛馬・牛にゅう・水牛・にゅう牛・野牛・とう牛・牛車・牛肉

ちゅうい にている字

牛 牛にゅう

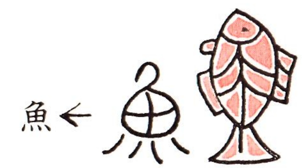
午 午前

手 手紙

魚

おん ギョ

くん うお　さかな



さかなの　かたち。

いみと ことば

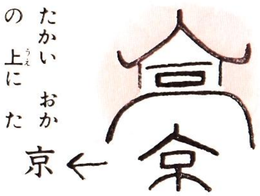
①うお。さかな。魚屋・川魚・魚市場・白魚・魚類・魚群・魚肉・金魚

ちしき「金魚」のだいひょう
わきん・でめきん・りゅうきん
・しゅぶんきん

京

おん キョウ・ケイ

くん ―



たかい　おかの　上に　たって　いる　たてもの。

いみと ことば

①みやこ。天皇のすむところ。帰京・上京・入京
②京都のこと。京女・京人形・京阪神

ちしき（京）は、むかしの都「京都」のこと。今は東の京「東京」が都。

強

おん キョウ・ゴウ

くん つよ（い）・つよ（まる）　つよ（める）・し（いる）

●はんたい語―弱



ゆみと　かぶと虫。
つよさを　あらわす。

いみと ことば

①つよい。強力・強大　②つよめる。強化　③むりをおす。強行・強制・むり強い・強情

さんこう「強さ」のいろいろ
風が強い・力が強い・気が強い
・火が強い・けいさんに強い

教

おん キョウ

くん おし（える）　おそ（わる）



ぼうを　もつ　手。

まじわること。

おとなが　おしえ、子どもが　まねを　する　こと。

いみと ことば

①おしえる。おしえ。教え・教育・教会・教師・教室・教材・宗教・仏教・文教

ちゅうい おくりがな
・教える→先生、教わる→子ども
・おくりがな　○教わる　×教そわる

近

おん キン

くん ちか（い）



おので　ものを　切るように　すぐ　ちかくに　すすむこと。

十字路と　足　すすむこと

いみと ことば

①ちかい。ちかづく。近所・近海・接近・付近・最近・身近・間近
②したしい。近親・親近・側近

さんこう 日やじかんが近いことをあらわすときも「近」をつかう。
近ごろ・近日・間近

兄

おん ケイ　キョウ

くん あに



口と儿　大きな　あたまの　人を　えがいた　字。

兄弟の　うちの　大きいほうを　あらわす。

いみと ことば

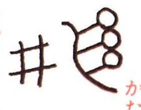
①あに。にいさん。兄弟・父兄
②友だちをうやまっていうことば。大兄・学兄

さんこう とくべつなよみかた
まとめておぼえよう。兄さん（にいさん）・姉さん（ねえさん）

形

おん　ケイ・ギョウ

くん　かた・かたち



もののかたちのこと。

二　チ　开　开´　形

いみと ことば

①かたち。大形・三角形・四角形・円形・外形・図形・形態・人形・ひし形

②ありさま。形勢・地形・形相

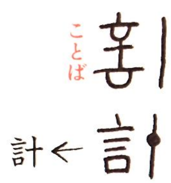
さんこう　いろいろな「図形」
正方形・長方形・三角形・円形・台形・ひし形・五角形・六角形

計

おん　ケイ

くん　はか(る)
はか(らう)

ものを　ひとつに　あつめて　かぞえること。



丶　ニ　亖　言　計

いみと ことば

①かぞえる。計算・計量

②はかりごと。計画・計略

③そうだんする。計る

さんこう　とくべつなよみかた
時計(とけい)

元

おん　ゲン
ガン

くん　もと



あたまは　からだの　一番上に　ある。だから　はじめと　いう　いみ。

一　二　テ　元

いみと ことば

①もと。根元・元金・元気　②はじめ。元祖・元旦・元首　③かしら。④とし。年号。紀元

ちゅうい　にている字に気をつけよう。
元　先　光

言

おん　ゲン・ゴン

くん　い(う)・こと



丶　亠　亖　言　言

いみと ことば

①ことば。言語・格言・伝言・失言

②いう。言行・言動・他言・小言・独り言・発言

さんこう「言う」と合わさったことば。言い聞かせる・言いつける・言いふらす・言い直す、など。

原

おん　ゲン

くん　はら



水の　わきでる　ところ、つまり「もと」の　ところ。

一　厂　历　盾　原

いみと ことば

①もと。はじめ。原始・原料・原因・原形・原産

②はらっぱ。野原・高原・平原・原野・原っぱ

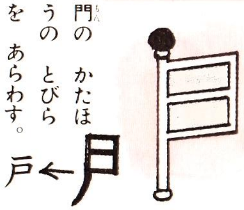
ちゅうい　厂(がんだれ)を、广(まだれ)にしないこと。

○原　×原

戸

おん　コ

くん　と



門の　かたほうの　とびらを　あらわす。

一　ㄱ　戸

いみと ことば

①と。とぐち。戸じまり・雨戸・戸だな・戸外

②いえ。戸せき

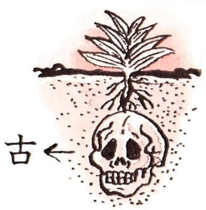
③いえをかぞえることば。一戸

ちしき「戸」のいろいろ
ガラス戸・板戸・雨戸・あみ戸・くぐり戸・ひらき戸など。

古

おん　コ

くん　ふる（い）　ふる（す）



そせんの　ずがいこつ。ひからびて　ふるく　なったこと。

●はんたい語—新

一　十　𠂇　古　古

いみと　ことば

①ふるい。古本・古新聞・古着・古風・中古車・使い古す・古顔・

②むかし。古代・古都・古典

さんこう

「古い」ようすをあらわすことば。古くさい・古ぼける・古びる・古きず・つかい古し

午

おん　ゴ

くん　—



もちを　つく　きねの　かたち。上と　下とが　まじわる。つまり、一日の　まん中。

ノ　𠂉　𠂉　午

いみと　ことば

①まひる。正午・午前・午後・午すい

②ま南。子午線

ちしき

「午」は十二支の「うま」という字。

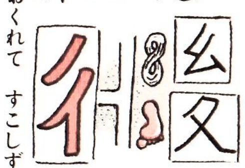
子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

後

おん　ゴ・コウ

くん　のち・うし（ろ）・あと・おく（れる）

（彳と幺と夂）



おくれて　すこしずつ　あるく　いみ。

●はんたい語—前

彳　彳　彳　後　後

いみと　ことば

①あと。うしろ。後日・今後・食後・後列・後方・後半・後先

②おくれる。後進

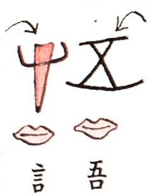
さんこう

「後」をつかったことば。後かたづけ・後ずさり・後おし・後まわし・後もどり

語

おん　ゴ

くん　かた（る）　かた（らう）



まじわって　はなす。はぎれよく　はなす。

ことばを　かわしあうこと。

言　言　訂　語　語

いみと　ことば

①かたる。話をする。語り手・語気・語調・私語・物語

②ことば。語句・語学・国語

ちゅうい にている字

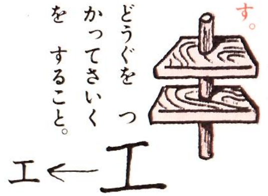
語 物語・国語

話 童話・昔話

工

おん　コウ・ク

くん　—



いたに　あなを　あけて、下まで　とおす。

どうぐを　つかって　さいくを　すること。

一　T　工

いみと　ことば

①しごと。さいく。工作・工事・工場・図工・細工・工夫

②ものをつくる人。工員・大工・工夫

ちゅうい

「工夫」（くふう）「工夫」（こうふ）とよむくべつ。

公

おん　コウ

くん　おおやけ



ひらく　かこむ

かくしている　ものを　ひらいて　みせること。

●はんたい語—私

ノ　八　公　公

いみと　ことば

①おおやけ。国・役所にかんけいしたこと。公園・公開・公用

②かたよらない。公正・公平

③身分の高い人。源頼朝公

ちゅうい

にている字に気をつけよう。

公　台　会　合　分

広

おん　コウ

くん　ひろ(い)・ひろ(まる)・ひろ(める)・ひろ(がる)・ひろ(げる)



ひろくて　大きい　やねの　下が　がらんとして　なにも　ない　ようす。

丶　亠　广　広　広

いみと　ことば
①ひろい。広場・広間・広大・広原・広野
②ひろげる。広告・広報・広言

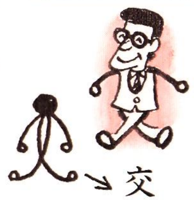
ちゅうい　广(まだれ)を正しく。
○広　×広　×広

交

おん　コウ

くん　まじ(わる)・ま(じる)・か(う)・か(わす)

人が　足を　×に　くんで　いる　かたち。



丶　亠　六　六　交

いみと　ことば
①まじわる。交しょう・交差
②つきあう。交友・外交・社交
③いれかわる。交かん・交代

ちゅうい　おくりがなを正しく。
(○交じる。×交る。)
(○交わる。×交じわる。)

光

おん　コウ

くん　ひか(る)　ひかり

人が　あたまの　上に　火を　のせている。

まわりに　ひろがる　あかるい　ひかりを　あらわす。



丨　丬　业　业　光

いみと　ことば
①ひかる。夜光・日光・電光
②ひかり。光線・光栄
③めいよ。光
④すぐれている。光る

ちゅうい　おくりがな
(○ほしの光　×ほしの光り)
(×ほしが光　○ほしが光る)

考

おん　コウ

くん　かんが(える)

年寄りの　ようす。

つつかえて　まがること。

とまって　ふかく　かんがえる　こと。



一　十　土　耂　考

いみと　ことば
①かんがえる。考え方・考案・思考
②しらべる。考究・考査・参考・書

さんこう　「考え」をつかったことば。考えこむ・考え深い・考えつく・考え合う

行

おん　コウ・ギョウ・アン

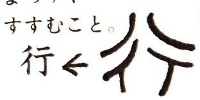
くん　い(く)・ゆ(く)　おこな(う)

●はんたい語―帰

十字路の　かたち



まっすぐ　すすむこと。



丿　彳　彳　行　行

いみと　ことば
①いく。行進・歩行・同行・行列・旅行・急行
②おこなう。行い・行動・行事

ちゅうい　「ゆき」「いき」とよむ。
(○行きどまり　○行きどまり)
(○行きすぎ　○行きすぎ)

高

おん　コウ

くん　たか(い)・たか・たか(まる)　たか(める)

●はんたい語―低

見はらしの　よい　たかい　いえの　かたちを　あらわした　字。



亠　亩　宀　高　高

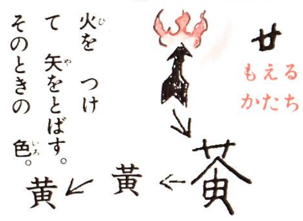
いみと　ことば
①たかい。高台・高値・高原・高地・高圧・高温・高山
②上のくらい。高等の・高級

ちしき　高山植物(高い山にだけ育つ植物)―シャクナゲ・クロユリ・ハイマツなど。

黄

おん　コウ・オウ

くん　き・こ



廿　芇　芾　黄　黄

いみとことば

①きいろ。き。黄色・黄金・黄土色・黄色人種・黄熱病・黄銅・黄葉・黄身

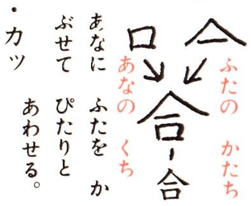
ちしき

「黄色」はよく目立つ。黄色いちゅうい信号・黄色いはた・黄色いハンカチ・黄色いぼうし・黄色いランドセル

合

おん　ゴウ・ガッ・カッ

くん　あ(う)・あ(わす)・あ(わせる)



ノ　人　亼　亽　合

いみとことば

①あう。あわせる。合計・合唱・合戦・集合

②かさや登山路などのたんい。一合・五合目

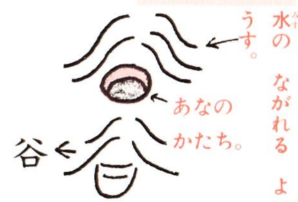
ちゅういにている字に気をつけよう。

合　会　今　谷

谷

おん　コク

くん　たに



ノ　八　仌　仌　谷

いみとことば

①たに。たにあい。谷あい・谷風・谷川・谷底・谷間・谷わたり・けい谷・きょう谷

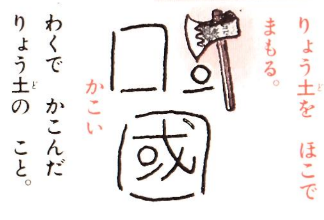
ちしき

「人名・地名」のとき、谷（や）とよむことが多い。保谷・四谷・谷中・日比谷・大谷・渋谷など。

国

おん　コク

くん　くに



丨　冂　冂　国　国

いみとことば

①くに。島国・国家・国語・国民・国産・建国・国土

②ふるさと。お国じまん・国なまり・故国

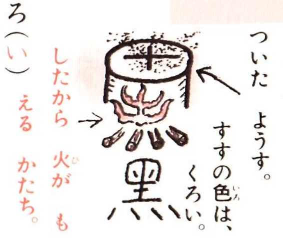
ちゅうい

国　○口（くにがまえ）と玉　×口（くにがまえ）と王

黒

おん　コク

くん　くろ・くろ(い)



●はんたい語—白
えんとつに　すすが　ついた　ようす。

口　日　甲　里　黒

いみとことば

①くろ。くろい。黒かみ・黒まめ・黒雲・黒板・黒点

②くらい。暗黒

③わるい心。黒まく・腹黒い

ちしき

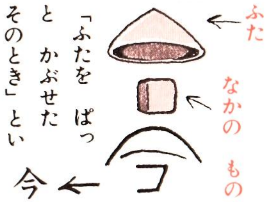
・黒星（まけ）←→白星

（かち）・黒字（金があまる）←→赤字（金がたりない）

今

おん　コン・キン

くん　いま



●はんたい語—昔

ノ　人　亼　今

いみとことば

①いま。このごろ。今日・現今

②このたび。今週・今月・今回

③きょう。今日・今晩・今夜

さんこうとくべつなよみかた

今日（きょう）・今朝（けさ）・今年（ことし）

才

おん サイ
くん ―



くさや木が じめんから めを 出した かたち。 ものの 力が 出てくる こと。

一 十 才

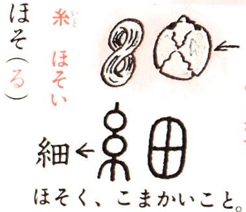
いみと ことば

①生まれつきのちえ、はたらき。才気・才子・才女・しゅう才・天才・文才・才能

ちゅうい 小学校では、年齢を「七才・十才」などと書いてもよい。「歳」をならったら「七歳・十歳」などと書くようにする。

細

おん サイ
くん ほそ(い)・ほそ(る) こま(か)・こま(かい)



子どもの 頭の ほねの 小さな すきまを あらわす。 ほそく、こまかいこと。

幺 幺 糸 紅 細

いみと ことば

①ほそい。細糸 ②こまかい。細工・細きん ③くわしい。明細 ④たよりない。心細い

ちゅうい おくりがなを正しく。（○細い ×細そい）（○細かい ×細い）

作

おん サク サ
くん つく(る)



おので 木などに 切れ目を 入れること。 人が 手を くわえて ものを作ること。

亻 亻 化 作 作 作

いみと ことば

①つくる。作文・工作 ②はたらき。作用 ③人のふるまい。動作 ④つくったもの。作品

ちしき 「作る」のいろいろ はこを作る・やさいを作る・おはなしを作る・きまりを作る

算

おん サン
くん ―



竹の ぼうを そろえて、さし出し かぞえた いみ。

𠂉 竹 笪 算 算

いみと ことば

①かぞえる。算数・計算・あん算・たし算・ひき算・かけ算・わり算・通算・ひっ算・予算 ②みとおし。公算・成算

ちしき 計算のしかた あん算・ひっ算・そろばん・計算器

止

おん シ
くん と(まる) と(める)



足の かたちを あらわす。 足で 立ち、じっと 立ちどまる いみ。

丨 ト 止

いみと ことば

①とまる。とめる。止血・休止・きん止・中止・停止・はい止・せい止・止まり木・行き止まり

ちゅうい にている字 止まる める 正しい

市

おん シ
くん いち



よこせんで とめる。 草や 木が さかんに のびる ようす。 人が 集まって さかんな こと。

丶 亠 亣 市

いみと ことば

①大きな町。都市・市民 ②いちば。魚市場・市場・朝市 ③うりかい。市価 ④地方自治体の一つ。京都市

ちしき 「市」のいろいろ 朝市・あさがお市・はごいた市・ほうずき市・年の市

矢

おん シ

くん や



やじりと はねの ついた 「矢」を あらわす。

く 𠂉 ⺧ 矢 矢

いみと ことば

①弓のげんにかけてはなつもの。矢面・矢先・弓矢・毒矢

②矢の形をしたもの。矢印

③矢のように、はやいこと。・矢つぎ早

ちしき 「矢」と「弓」は、なかよしことば。「弓矢」

姉

おん シ

くん あね

●はんたい語―妹



ぼうに 植物のつるが まきついた ようす。

はじめに 生まれた 女（あね）の いみ。

く 女 女 女' 姉

いみと ことば

①あね。おなじ親からさきに生まれた女の人。姉上・姉むこ・姉様人形・姉妹・姉弟・長姉

さんこう おもしろ早おぼえ
女で市子（いちこ）はお姉さん・女で未子（みーこ）は妹さん。

思

おん シ

くん おも（う）

田（のうみその かたち）

心（しんぞうの かたち）



あたまと こころで おもうこと。

口 巾 田 田 思

いみと ことば

①おもう。かんがえる。思い出・思いつき・思案・思考・思想

②おもいやり。親思い

ちゅうい 「おもしろい」を「思しろい」と書かないこと。



紙

おん シ

くん かみ

糸と 氏（うすい ひらたい さじ）



木の かわを ひらたく のばし、かみを つくった。

纟 糸 糹 紅 紙

いみと ことば

①かみ。紙しばい・紙入れ・型紙・油紙・から紙・手紙・紙上・紙質・半紙・白紙・和紙・洋紙・製紙・印紙

ちしき 学校でつかういろいろな「紙」。わら半紙・もぞう紙・画用紙・色紙・ボール紙など。

寺

おん ジ

くん てら

土（足）と 寸（手）を あわせた 字。



おてらは むかし、手足を うごかして はたらく やくしょだった。

一 十 土 寺 寺

いみと ことば

①てら。寺子屋・寺参り・古寺・山寺・寺院・寺社・国分寺

②寺の名につける。東大寺・清水寺・寛永寺・法隆寺

さんこう おもしろ早おぼえ
土寸とお寺のかねがなる。

自

おん ジ・シ

くん みずか（ら）

●はんたい語―他

はなの かたち



じぶんの はなを さして、「わたし」と いうことを あらわした。

ノ 亻 白 白 自

いみと ことば

①じぶん。自分・自身・独自

②じぶんから。自活・自習・自信

③ひとりでに。自然・自動式・自由

ちしき 「自」のつくきかい。自転車・自動車・自動ドア

時

おん ジ
くん とき



お日さまが だんだん うごくこと。

冂 日 旪 畤 時

いみと ことば
①とき。時間・時刻・時報
②そのころ。時期・当時
③じこくをかぞえる語。十時

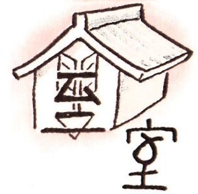
さんこう とくべつなよみかた
・時計（とけい）

ちしき むかしの時計
日時計・水時計・すな時計

室

おん シツ
くん むろ

いえの いちばん おくの ゆきどまりの へやの いみ。



宀 宀 宎 室 室

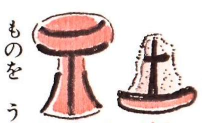
いみと ことば
①へや。室内・暗室・温室・教室・地下室・事務室・研究室
②かぞく。王室
③いわや。岩室

ちしき 学校のへや。校長室、職員室・図書室・音楽室・図工室・理科室・保健室・教室など。

社

おん シャ
くん やしろ

ものを うみだす 土地を まつる ところ。



ラ ネ ネ 社 社

いみと ことば
①おみや。社・社前・神社・大社
②よのなか。社会・社交
③会社。社員・社長・社用

ちゅうい 社 ←しめすへん
ネは間ちがい

弱

おん ジャク
くん よわ(い)・よわ(る)・よわ(まる)・よわ(める)

●はんたい語―強

やわらかくて よわいもの。



コ 弓 弓 弱 弱

いみと ことば
①よわい。弱虫・弱小
②よわみ。弱点
③わかい。弱年・弱はい
④きりあげ。弱

さんこう 「弱さ」のいろいろ
弱い声・弱い体・弱い風・弱い火・弱いチーム・算数に弱い子

首

おん シュ
くん くび



けの はえている 人の あたま。

丷 䒑 𦣻 首 首

いみと ことば
①くび。あたま。首級・首かざり・首筋・手首
②かしら。首位・首相・首席・元首・党首

ちしき 「首」のいろいろ

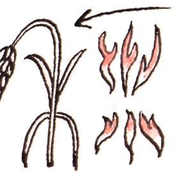


秋

おん シュウ
くん あき

●はんたい語―春

いねを とり入れる 「あき」。



二 千 禾 禾 秋

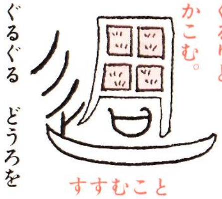
いみと ことば
①あき。あきのきせつ。秋空・秋晴れ・秋祭り・秋風・秋草・秋季・秋分・立秋
②としつき。千秋・千秋楽

ちしき きもちのよい「秋」
食よくの秋・スポーツの秋・みのりの秋・読書の秋

週

おん シュウ

くん —



ぐるぐる どうろを あるくこと。

丿 冂 円 周 週

いみと ことば

①日曜日から土曜日までの七日間。週間・週末・週休・週番・週刊・先週・今週・来週・次週・毎週

さんこう 今週のまえとあと 先先週—先週—今週—来週—再来週

春

おん シュン

くん はる

●はんたい語—秋



あたたかい 日の ひかりに あたって めが はえ出る きせつ。

二 三 𡗗 夫 春

いみと ことば

①はる。はるのきせつ。春雨・春一番・春季・春光・春分・早春・立春

②年のはじめ。新春

ちしき 「春の七草」せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ

書

おん ショ

くん か(く)



㇇ 彐 ⺺ 聿 書

いみと ことば

①書いたもの。本。書物・図書

②文しょう。書類・文書・願書

③書く。しるす。横書き・書き初め・書体・清書

ちしき 「本」のことを「書」ともいう。教科書・参考書・学習書・辞書・図書・聖書

少

おん ショウ

くん すく(ない) すこ(し)

●はんたい語—多



小(ちいさいもの)をそぎとること。けずってすこしにする いみ。とても すくない こと。

亅 小 小 少

いみと ことば

①すくない。すこし。少数・少量

②わかい。幼少・少年

③すくなくなる。減少

ちゅうい おくりがなを正しく。

(○少ない ×少い)

(×少こし ○少し)

場

おん ジョウ

くん ば



たかく 土を もり上げた ところ。

土 坦 坦 場 場

いみと ことば

①ばしょ。場所・現場・仕事場・市場・場外・会場・げき場・戦場

②とき。ばあい。場合・場面

ちしき 「場(しょ)」のいろいろ 運動場・ちゅう車場・工場・ひこう場・広場・市場・げき場

色

おん ショク シキ

くん いろ



かおいろや そとに あらわれた ようすのこと。

ノ ⺈ 𠂊 刍 色

いみと ことば

①いろ。色紙・色さい・天然色

②しゅるい。十人十色・七色

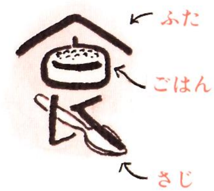
③ひょうじょう。顔色・音色

ちしき しょくぶつの名のある「色」。くさ色・もも色・だいだい色・もえぎ色・さくら色など。

食

おん ショク・ジキ

くん く(う)・く(らう)・た(べる)



ものを たべること。

𠆢 今 今 食 食

いみと ことば
①たべる。たべもの。食事・食品・食料・給食・主食・食堂・食器・食物
②かける。月食

ちゅうい
○食 ×食 ×食 ×食
「良」のかたち正しく。

心

おん シン

くん こころ



しんぞうの かたち。

丶 心 心

いみと ことば
①しんぞう。心ぞう・心室・心音
②こころ。まごころ・本心・良心
③まんなか。かく心・中心

さんこう いろいろな心のようす。安心・感心・苦心・決心・熱心・用心・細心・向上心・良心など。

新

おん シン

くん あたら(しい)・あら(た)・にい



立っている木

●はんたい語―古・旧

きったばかりの なまなましい 木。

亠 立 亲 新 新

いみと ことば
①あたらしい。新年・新式・新制・新入生・新任・新米・最新・一新

ちゅうい 新 親 にている字 おなじ「しん」とよむ。

親

おん シン

くん おや・した(しい)・した(しむ)



みること。

木を 切ること

●はんたい語―子

いたみを かんじる ほど ちかくで 人を みていること。

立 亲 新 親 親

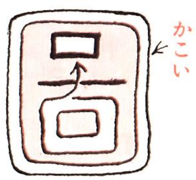
いみと ことば
①おや。父と母。親子・両親
②みうち。親せき・親類
③心からなかよくする。親友

さんこう おもしろ早おぼえ 立って木を見る親子づれ

図

おん ズ・ト

くん はか(る)



米ぐらの ある 村の 土地。

土地の くぎりを かいた ちずのこと。

丨 冂 冂 図 図

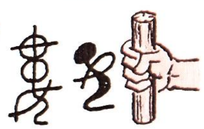
いみと ことば
①えがく。図工・図形・図表
②本。図書
③考えてくふうする。意図

ちゅうい
○図 ×図 ×図 ×図
「㐅」を正しく。

数

おん スウ・ス

くん かず・かぞ(える)



女が じゅずつなぎに なっている。

手に ぼうを もっている ようす。

ものを かぞえる という いみ。

米 米 娄 娄 数

いみと ことば
①かず。かぞえる。人数・数学・点数・日数・数え歌
②いくつかの。数日・数人

ちゅうい 数 教 よくにた字がある。教―おし(える)・きょう

西

おん　セイ　サイ

くん　にし

●はんたい語―東



ざるや　かごの　かたち。水を入れると　ながれて　しまうように　日が　しずみ　なくなる　ほうがく。

一　丆　襾　丙　西

いみと　ことば

①にし。日のしずむほうこう。西日・西部・西方・西洋・関西

②ヨーロッパのりゃく。西欧・西洋

ちゅうい　西○　西×　酉×

声

おん　セイ　ショウ

くん　こえ・こわ

もとの　字は　聲。



耳に　きこえる　音や　こえのこと。

（石の　いた）（ぼうで　たたく）

一　士　韦　声　声

いみと　ことば

①こえ。歌声・鳴き声・声色・声楽・大音声　②ひょうばん。名声　③ことばにだす。声明

ちしき　いろいろな「声」　わらい声・なき声・さけび声・うた声・話し声・はな声

星

おん　セイ　ショウ

くん　ほし

日が三つ（ひかるほし）。



生（すがすがしい　くさの　め）　すがすがしく　ひかる　ほし。

日　尸　旦　早　星

いみと　ことば

①ほし。星空・星座・星図・火星・人工えい星・わく星・明星

②ときのながれ。月日。星そう

さんこう　日から生まれた　おもしろ早おぼえ　お星さま

晴

おん　セイ

くん　は(れる)　は(らす)

●はんたい語―雨



すんだ　青い水　お日さま

すみきった　お日さまの　ようす。

日　日十　日丰　晴　晴

いみと　ことば

①はれ。はれる。秋晴れ・日本晴れ・晴天・快晴・晴れ間　②おもてむき。晴れ着

ちしき　いろいろな「晴れ」　五月晴れ・日本晴れ・秋晴れ（少しも雲のない晴れた空）

切

おん　セツ・サイ

くん　き(る)・き(れる)



はの　そった　かたな　ぼうを　きった　かたち

はもので　ものを　きること。

一　七　切　切　切

いみと　ことば

①きる。切開・切だん・切り口

②さしせまる、切ぱく

③しきりに。切実・切望

④たしか。適切

さんこう　「なくなる」といういみでも「切る」をつかう。時間切れ・品切れ

雪

おん　セツ

くん　ゆき



空から　ふってきた　ものが　あたりを　きれいに　すること。

一　𠃍　雨　雪　雪

いみと　ことば

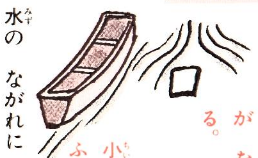
①ゆき。雪国・雪空・雪景色・雪女・根雪・雪原・雪上車・新雪・風雪　②白い色のたとえ。雪のようなはだ

ちしき　いろいろな「雪」　こな雪・わた雪・あわ雪・ぼたん雪・かた雪・みぞれ

船

おん　セン

くん　ふね　ふな



くぼみに そって 水が ながれる。

小さい ふね

水の ながれに そって すすむ ふね。

丿 ⺆ 月 舟 舡 船

いみと ことば

①ふね。船旅・船出・船乗り・船員・船室・汽船・船長・客船・漁船・船体

ちゅうい

舟を舟にしない。

○船　×船

舟 6かく

線

おん　セン

くん　—



泉（こまかい ことをあらわす）

いと

糸のように ほそいこと。

く 幺 糸 紵 線

いみと ことば

①すじ。せん。直線・点線

②ほそ長いもの。電線

③てつどう。線路

④さかいめ。境界線

さんこう

おもしろ早おぼえ

糸のような　白い水の線

前

おん　ゼン

くん　まえ

●はんたい語—後

もとの 字は 止舟



足と ふねを あわせた字。

どちらも まえへ すすむ いみ。

丷 䒑 䒑 前 前

いみと ことば

①まえ。前進・前方・前面・目前・前足・前むき

②いまのものの一つまえ。前回・前期・前日・前代・前夜

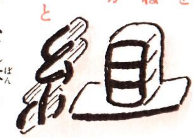
さんこう

「あるときよりまえ」といういみで前をつかう。前回・前日・前半・前夜・午前

組

おん　ソ

くん　く（む）　くみ



ものを かさね たか たち。

いと

いとを なん本も あんだ「くみひも」のこと。

く 幺 糸 糸 紀 組

いみと ことば

①くみたてる。組合・組曲・組み立て・組分け・番組・組しき

②かぞえることば。一組

ちゅうい

おくりがな

（○組み立て・組立て　×組立）

（×赤組み　○赤組）

走

おん　ソウ

くん　はし（る）

●はんたい語—歩



人の すがた

足の かたち

人が せかせかと まえへ いく ようす。

十 土 キ キ 走

いみと ことば

①はしる。小走り・走者・かっ走・助走・競走・力走・走路

②にげる。とう走・敗走

さんこう

「走らない」きょうそうは「きょう走」と書かない。

・まとあてきょうそう

・書き取りきょうそう

争

多

おん　タ

くん　おお（い）

●はんたい語—少



にくを たっぷり かさねた ようす。

「おおい」「たくさん」と いう いみ。

ノ ク タ 多 多 多

いみと ことば

①おおい。たくさん。多雨・多額・多作・多少・多事・多数・多勢・多年・多量・多方面・多数派・多分・ざつ多

ちゅうい

「多い」を「大い」と書かないように。「大ぜい」を「多ぜい」と書かないように。

太

おん タイ・タ

くん ふと(い)　ふと(る)

●はんたい語―細

もとの 字は 泰。



大と りょう手で水を すくう ようす。 たっぷりと していること。

一 ナ 大 太

いみと ことば

①ひじょうに大きい。太平洋

②ふとい。太うで・太っ腹

③たいへんな。太古・太平

ちゅうい にている字

太　大　犬　天

体

おん タイ　テイ

くん からだ

もとの 字は 體。



かたちの よく ととのった からだを あらわす。

亻 仁 什 休 体

いみと ことば

①からだ。体育・体格・体力

②したこと。体けん ③かたち。体系・体さい ④死体や仏像をかぞえる語。一体

ちゅうい にている字（○体そう ×休そう）（×夏体み ○夏休み）

台

おん ダイ　タイ

くん ―



たかい たてものに とどくこと。「見はらしだい」を あらわす。

ム ム 厶 台

いみと ことば

①ものをのせるもの。ふみ台

②高くてたいらな土地。台地

③もとになるもの。土台

さんこう 「台」は、車やきかいをかぞえることばにつかう。

・じどう車五台・きかい三台

地

おん チ　ジ

くん ―

●はんたい語―天



たいらに のびた 土地の こと。

一 十 土 圠 地

いみと ことば

①じめん。地形・大地 ②ばしょ。地方・地たい ③たちば。地位 ④生まれつき。地声

ちしき 地めんの上と下

㊤地上・地上六かい

㊦地下・地下道・地下鉄

池

おん チ

くん いけ



よこに ながく のびた ためいけの こと。

丶 冫 氵 汋 池

いみと ことば

①いけ。みずたまり。ため池・古池・貯水池・用水池

ちゅうい にている字

「池」と「地」を間ちがえない。

ちしき 「電池」＝電気をためた池のようなもの。かん電池・ちく電池・太陽電池

知

おん チ

くん し(る)



矢が とんで あたるように わかること。

ノ 𠂉 午 矢 知

いみと ことば

①しる。知しき・通知

②しりあい。知人・知り合い

③かんがえるはたらき。知え・えい知

さんこう 「知る」をつかったことば。もの知り・知ったかぶり・知らんぷり・知り合い

茶

おん　チャ
サ

くん



こころを　ひらいて
ゆったりさせる　し
よくぶつ。



いみと ことば
①ちゃの木。おちゃ。茶つみ・茶店・茶柱・茶室・茶の間・茶わん・きっ茶店　②ちゃ色。

ちしき　いろいろな「お茶」
番茶・ほうじ茶・せん茶・りょく茶・こう茶・新茶

昼

●はんたい語―夜

おん　チュウ

くん　ひる



日の　てる　じかん
を　ふでで　くぎる
ようす。



いみと ことば
①ひるま。昼日中・昼間・昼ね・昼休み・昼夜・白昼
②正午。昼下がり・昼過ぎ・昼飯・真昼・昼食

ちゅうい　尺のかたち
○昼　×昼　×昼

長

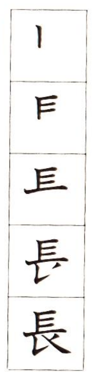
●はんたい語―短

おん　チョウ

くん　なが(い)



「ながい」「年上」の
こと



いみと ことば
①ながい。身長　②すぐれる。長所　③かしら。社長・校長・会長　④年上。長女・長男　⑤そだつ。成長

ちしき　いろいろな「長(かしら)」
院長・駅長・園長・会長・校長・市長・社長・船長・町長

鳥

おん　チョウ

くん　とり





いみと ことば
①とり。鳥かご・鳥小屋・小鳥・水鳥・山鳥・わたり鳥・鳥類・愛鳥・白鳥・野鳥

ちしき　「愛鳥週間」＝野鳥をかわいがる気もちを大切にするもよおしを行う。五月十日から一週間。(バードウィーク)

朝

●はんたい語―夕

おん　チョウ

くん　あさ



はたが　あがり、日
が　出て、ふねが
いく　あさ。



いみと ことば
①あさ。朝日・朝夕・朝もや・朝やけ・朝食・朝礼・早朝
②くに。帰朝・来朝

さんこう　とくべつなよみかた
今朝（けさ）
・おもしろ早おぼえ　十日十月朝がきた。

直

●はんたい語―曲

おん　チョク・ジキ

くん　ただ(ちに)・なお(す)・なお(る)



かくした　ものを
目で　まっすぐ
みること。



いみと ことば
①まっすぐ。直線　②すなお。正しい。正直　③すぐに。じかに。直前・直接　④ことに当たる。日直・宿直　⑤なおす。

ちゅうい　にている字「真」
(○正直　×正真)　(×写直　○写真)　(○直角　×真角)

通

おん ツウ・ツ

くん とお(る)・とお(す)・かよ(う)



人が 足で いたを ふみとおす。すすむこと

ものが つきとおる いきいきすること。

マ　乃　甬　甬　通

いみと ことば

①とおる。通行・開通

②いききする。交通・通学

③しらす。通知・通信

④くわしい。音楽通

さんこう 「手がみ」をかぞえることばに「通」をつかう。一通（つう）・五通（つう）

弟

おん テイ・ダイ・デ

くん おとうと

●はんたい語―兄



ひもが 下に たれた ようす。ぼうの くい

ひくい 下の ほうを あらわす。

丷　丷　当　肖　弟

いみと ことば

①おとうと。弟妹・兄弟

②でし。高弟・師弟・弟子

ちしき 家ぞくのよび名 おじいさん・おばあさん・お父さん・お母さん・兄さん・姉さん・弟・妹……ぼく・わたし

店

おん テン

くん みせ

やねと 占（うらない）場しょを きめること。



きまった 場しょで しょうばいを する いえ。

丶　亠　广　庁　店

いみと ことば

①しなものをうるところ。みせ。店先・茶店・夜店・店員・店主・店頭・本店・書店・商店・開店・百貨店

ちしき 「百貨店」デパートのこと。いろいろなしなものをたくさん(百貨)用意してうる(店)。

点

おん テン

くん ―



きまった ところを あらわす。

きまった ところに つけた くろい しるし。

丨　ト　⺊　占　点

いみと ことば

①小さいしるし。点線・句点・読点 ②成績の評価。点数・採点

③ともす。点火・点とう ④場しょ。地点・交差点・出発点

ちしき 句読点（くとうてん）

「。」句点＝文のおわりにつける。

「、」読点＝文のきれ目につける。

電

おん デン

くん ―



いなびかり

いなずまの こと。

一　币　雨　雫　電

いみと ことば

①いなずま。電光

②でんき。電線・電気

③電信・電報のりゃく。電文

④電車のりゃく。市電・都電

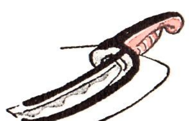
ちゅうい にている字

電　雲　雷　雪

刀

おん トウ

くん かたな



かたなの かたち

フ　刀

いみと ことば

①かたな。はもの。刀かじ・刀きず・小刀・刀工・刀身・太刀・日本刀・短刀

ちしき 小刀（こがたな）ざつようにつかう小さなはもの。小刀（しょうとう）はみじかい刀。

冬

おん トウ

くん ふゆ

●はんたい語—夏



ものが こおる とき、つまり ふゆ。

ノ ク 夂 冬 冬

いみと ことば

①ふゆ。冬ごし・冬ごもり・冬山・真冬・冬季・冬期・冬至・冬みん・立冬・初冬

ちゅうい

夂のばしょ

夂が上 冬

夂が下 夏

当

おん トウ

くん あ(たる) あ(てる)



もとの 字は 當。二つの 田んぼの かたちが ぴったり おなじこと。

丨 丨丨 ⺌ 当 当

いみと ことば

①あたる。わりあてる。当番・日当たり・手当て・大当たり

②その。こちらの。当日・当地・当時・当分

ちゅうい

ヨを ヨ にしない。⺌を ⺍ にしない。

東

おん トウ

くん ひがし

●はんたい語—西



りょうはしを しばって、まん中に ふくろ(とう)を あらわした 字。

日が 地平線を つきぬけて 出てくる ほう。

一 厂 冂 申 東

いみと ことば

①ひがし。東風・東向き・東西・南北・東南・東北・東洋・関東

②東京のりゃく。東都・東大

ちゅうい

にている字 東 車

よみがな ○ひがし ×しがし

答

おん トウ

くん こた(える)・こた(え)

●はんたい語—問



きかれたことに あわせて こたえる。

⺈ ⺈⺈ ⺮ 笑 答

いみと ことば

①こたえる。こたえ。答え合わせ・答案・答礼・応答・回答・明答・返答・問答・名答

ちゅうい

算数の「答え」を書くときは「答」でよい。

```
  35
+13
  48
答 48円
```

頭

おん トウ・ズ

くん あたま・かしら



からだの 上に まっすぐ 立っている あたま。

一 ロ 豆 頭 頭

いみと ことば

①あたま。頭部・頭きん ②はじめ。年頭 ③かしら。頭領 ④あたり。路頭 ⑤大きな動物をかぞえることば。一頭・五頭

ちゅうい

にている字

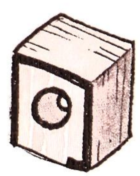
頭 豆頁 顔 彦頁 とおぼえる。

同

おん ドウ

くん おな(じ)

●はんたい語—異



あなを とおして むこうと いっしょ に なる かたち。

丨 冂 冂 同 同

いみと ことば

①おなじ。同一・同期・同業・同時・同点・同様・同級生 ②なかま。一同・同士・同感 ③おなじきもちになる。

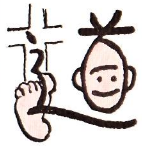
ちゅうい

にている字 同 回 司

道

おん　ドウ・トウ

くん　みち



人の　あたま　すすむこと

人が　すすんで　いく　みちのこと。

丷	䒑	䒑	首	道

いみと ことば

①みち。道路・鉄道・歩道　②人のまもるべきこと。道理・人道　③やりかた。道具

ちしき　いろいろな「道」

あぜ道・坂道・夜道・参道・帰り道・じゃり道・山道・横道・車道・歩道・林道

読

おん　ドク・トク・トウ

くん　よ(む)



つぎつぎと　ながれていく。ことば

ことばを　つぎつぎ　つないで　よんでいく。

丶	亖	言	訁	読

いみと ことば

①よむ。読み手・読後・読書・読者・読本・愛読・音読・朗読・読点　②おしはかる。心を読む

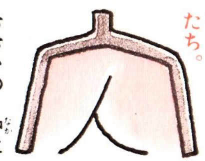
さんこう　いろいろな読みかた

読みとる・読みふける・読みかえす・読みとおす・読みこなす

内

おん　ナイ・ダイ

くん　うち



家の　入り口の　たち。

おおいの　中に　入れること。うち、なかの　ようす。

●はんたい語―外

丨	冂	内	内

いみと ことば

①うち。内がわ・内部・内容・市内・校内　②ごてん。宮中。内裏　③こっそり。内心・内意　④家庭。主婦。家内

ちしき　いろいろな「場しょ」の内

校内・場内・国内・町内・車内・室内・庭内など。

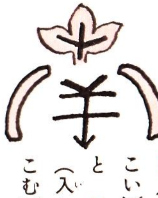
南

おん　ナン・ナ

くん　みなみ

●はんたい語―北

十(くさのめ)と　冂(かこい)と　羊(入れこむ)。



かこいの　中で　めを　そだてる　ようす。

十	十	冂	冂	南

いみと ことば

①みなみ。南風・南十字星・南向き・南側・南きょく・南国・南方・南氷洋

ちゅうい　羊のぶぶんを正しく書くこと。

○南　×南　×南　×南

肉

おん　ニク

くん　―



きりはなした　にくと　その　すじめの　ようす。

やわらかい　にくの　こと。

丨	冂	内	内	肉

いみと ことば

①動物のにく。肉食・肉屋・牛肉　②人のからだ。肉体　③親やきょうだい。肉親　④太さ。厚み。肉太

さんこう　おもしろ早おぼえ

冂で人人、肉たべる。

馬

おん　バ

くん　うま・ま



うまの　かたちを　あらわした　字。

丨	厂	冂	耳	馬

いみと ことば

①うま。馬市・馬方・馬のり・親馬・竹馬・馬車・馬術・馬力・乗馬・木馬・競馬・馬子

ちしき　しごとをする「馬」

けい馬の馬・じょう馬の馬・サーカスの馬・馬車の馬・馬そりの馬・すきをひく馬

売

おん　バイ

くん　う(る)・う(れる)



●はんたい語―買

もとの　字は　賣。

ものを　うりに　出して、もうけること。

一 十 士 声 売

いみと　ことば

①うる。売り出し・売り場・売り物・前売り・売価・売店・商売・特売・発売・売買

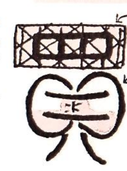
さんこう

「売る」をつかったことば。売り出す・売りこむ・売りつける・なげ売り・やす売り・おし売り

買

おん　バイ

くん　か(う)



●はんたい語―売

あみで　すくいとるように、お金を　はらって　ものを　手に　入れること。

冂 罒 罒 罒 買

いみと　ことば

①かう。買いしめ・買い出し・買い物・買い主・買い食い・売り買い・買価・買収

ちゅうい

「買」と「売」に気をつけること。罒を四にしない。

(○商売　×商買)
(○売買　×買売)

麦

おん　バク

くん　むぎ



とおい　ところから　きた　たべものの　いみ。

十 丰 主 夫 麦

いみと　ことば

①むぎ。麦うち・麦ぶえ・麦ふみ・麦畑・麦飯・麦わら・麦湯・麦茶・小麦粉・麦秋・麦芽

ちしき

大麦＝米といっしょにたく。みそ・ビールなどをつくる。小麦＝こなにして、パンやおかし、うどんなどをつくる。

半

おん　ハン

くん　なか(ば)



二つに　きって　わけること。

丶 丷 䒑 兰 半

いみと　ことば

①はんぶん。半円・半分・半年・半数・前半　②とちゅう。半ば　③かんぜんでない。半ぱ物

さんこう

「半ば」のいみ

・半分、中ごろ＝八月の半ば。

・とちゅう＝はなしの半ばで、電話が切れてしまった。

番

おん　バン

くん　―



手を　ひらいて　たねを　まく。その　どうさを　かぞえる　ことば。

丿 ⺈ 平 采 番

いみと　ことば

①みはる。番犬・番人・門番・留守番　②きめられたじゅん。じゅんじょ。番号・四番打者・番組・当番

ちしき

学校のいろいろな当番。日直・そうじ・給食・日誌・飼育・花だんの当番

父

おん　フ

くん　ちち



●はんたい語―母

おのをもって　はたらく男。つまり「おとうさん」。

丿 八 𠂊 父

いみと　ことば

①ちちおや。おとこの親。父上・父君・父子・父親・父兄・実父・祖父・父母・老父

ちしき

「父の日」

六月のだい三日よう日。

さんこう

とくべつなよみかた

お父さん　お(とう)さん

風

おん　フウ・フ

くん　かぜ・かざ



ノ　几　凡　凨　風

いみと　ことば
①かぜ。北風・大風・風上・風雨　②すがた。和風　③ならわし。風習・風俗　④けしき。風景・風光

ちしき　いろいろな「風」
そよ風・すず風・大風・台風・からっ風・つむじ風

分

おん　ブン・フン・ブ

くん　わ(ける)・わ(かれる)・わ(かる)・わ(かつ)



ノ　八　分　分

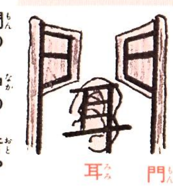
いみと　ことば
①わける。分かつ・分店・等分・手分け　②くばる。分たん　③みぶん。身分　④時間や温度のたんい。五分・三十八度五分

ちゅうい　八を　ヘにしない。はなして書く。
○分　×分

聞

おん　ブン・モン

くん　き(く)・き(こえる)



「　門　門　聞　聞

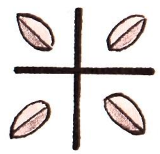
いみと　ことば
①きく。きこえる。聞き手・見聞・伝聞・前代未聞・立ち聞き　②ひょうばん。風聞・新聞

さんこう　「聞」をつかったことば。聞きおとさない・聞きもらす・聞き入れる・聞きなれる・聞きかえす・聞きづらい

米

おん　ベイ・マイ

くん　こめ



丶　丷　䒑　半　米

いみと　ことば
①こめ。米ぐら・米びつ・米屋・米作・米食・げん米・白米・新米・精米　②アメリカのりゃく。米国・おう米・日米

ちゅうい　ソや八のかたちに気をつける。
米　米　米

歩

おん　ホ・ブ・フ

くん　ある(く)・あゆ(む)

●はんたい語―走



丨　ト　止　歨　歩

いみと　ことば
①あるく。歩行・歩調・散歩　②すすむ。進歩　③わりあいをあらわす。歩合

ちゅうい　「歩」と「走」をまぜこぜにしないように。
歩(とまって　すこし)　走　歩

母

おん　ボ

くん　はは

●はんたい語―父



く　ロ　毋　母

いみと　ことば
①ははおや。おんなの親。母子・母親・母方・生母・祖母　②生まれ育った所。母校・母国

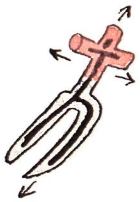
ちしき「母の日」
五月のだい二日よう日。

さんこう　とくべつのよみかた
お母さん　お(かあ)さん

方

おん　ホウ

くん　かた



えが　左右、上下に　のびていることから　ほうがくを　あらわす。



いみと ことば

①ほうこう。方角・方面・先方　②正しい。品行方正　③四かく。正方形　④やり方。方法

さんこう　ていねいなことばで人のことを「方・方」という。

・つぎの方、どうぞ。

・先生方がいらっしゃる。

北

おん　ホク

くん　きた

●はんたい語—南



せなかを　むける　さむい　ほう。



いみと ことば

①きた。北風・北国・北極・北上・北方・東北・南北　②まけてにげる。敗北

ちゅうい　かたちや、ふでづかいに気をつける。

○北　×北　×比　×北

毎

おん　マイ

くん　—



つぎつぎに　子どもを　うむ　ように　ふえること。



いみと ことば

①そのたびごとに。そのつど。毎朝・毎日・毎月・毎号・毎時・毎週・毎年・毎度・毎夜

さんこう　「いつも」ということをつよくいうとき、くりかえす。

・毎日毎日よく雨がふりますね。

・毎朝毎朝・毎年毎年など。

妹

おん　マイ

くん　いもうと

●はんたい語—姉



きょうだいの　うち　小さい　ほうの　女の子。



いみと ことば

①いもうと。妹思い・妹分・義妹・姉妹・弟妹・令妹

ちゅうい　「未」を「末」にしないこと。

○妹　×妹

さんこう　きょうだいをまとめていうと——兄弟姉妹

万

おん　マン・バン

くん　—



もとの　字は　「萬」（万）　さそりの　こと。

もとの　字には　かんけいなく、マンと　いう　音を　とって、ながく　つづく　かずを　あらわした。



いみと ことば

①かずの多いこと。たくさん。万人・万国旗・万事・万能・万病　②一万のこと。十万・百万

ちしき　数のたんい

一・十・百・千・万・十万・百万・千万・一億・十億・百億・千億・一兆……。

明

おん　メイ・ミョウ

くん　あ（かり）・あか（るい）・あき（らか）・あ（ける）

●はんたい語—暗



まどから　月の　ひかりが　さしこんで　ものが　みえる　ようす。



いみと ことば

①あかるい。明暗・光明・月明かり　②はっきり。明白　③夜があける。明日　④あきらかにする。説明・発明・証明

さんこう　とくべつなよみかた

明日（あす）「あした」とはよまない。

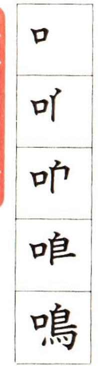
鳴

おん　メイ

くん　な(く)・な(る)・な(らす)



とりが　口で　なく　こと。



いみと　ことば
①なく。なきごえ。鳴き声・悲鳴　②なる。なるおと。海鳴り・地鳴り・鳴動・共鳴・雷鳴

ちゅうい
・鳥や虫、動物……鳴く。
・人がなくときは……泣く。
※「泣」は四年生でならう。

毛

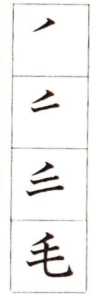
おん　モウ

くん　け



けものの　しっぽの　けの　かたち。

ほそい　けを　あらわした　字。



いみと　ことば
①人や動物のけ。毛糸・毛皮・毛布・毛筆・羽毛・羊毛・綿毛　②さくもつのうえつけ。二毛作

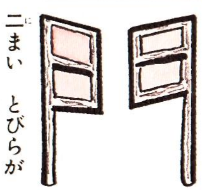
ちゅうい
にている字　毛　手

さんこう
・かなは「毛」から生まれた。
毛→モ・も

門

おん　モン

くん　かど



二まい　とびらが　ついた　門の　かたち。



いみと　ことば
①家の外にある出入り口。門口・門出・校門・門番　②家がら。名門　③なかま。門人・門弟

ちしき
学校の「門」いろいろ
校門・正門・うら門・通用門

さんこう
門(もんがまえ)のある字
門・聞・間・関・開・閉

夜

おん　ヤ

くん　よ・よる



●はんたい語―昼

ひるを　はさんで　その　りょうわきに　ある　月の　出る　よる。



いみと　ことば
①よる。夜明け・夜通し・夜長・夜なべ・夜中・月夜・夜会・夜学・夜間・夜具・夜景・夜食

ちゅうい
多い　間ちがい字を書く人が
○夜　×夜　×夜　×夜

野

おん　ヤ

くん　の



まるい　わを　ずらして　のびる。

のびのび　ひろがった　土地。



いみと　ことば
①のはら。野原・野外・原野・山野　②ありのまま。野犬・野生　③ひらけていない。野ばん

ちしき
「野生」のもの
野鳥・野牛・野じゅう・野ぎつね・野ばと・野草・野いちごなど。

友

おん　ユウ

くん　とも



りょう手の　かたち

なかよく　かばいあう　ともだち。



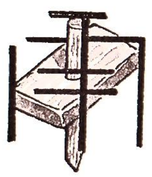
いみと　ことば
①ともだち。友愛・友情・友人・悪友・学友・旧友・交友・級友・親友・知友

ちしき
いろいろな「友だち」
おさな友だち・学校友だち・けんか友だち・つり友だち・茶のみ友だち

用

おん　ヨウ

くん　もち(いる)



いたに ぼうを つきとおした ようす。

人の 力や どうぐ を つかう いみ。

丿　冂　月　月　用

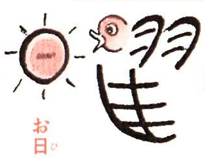
いみと ことば　①はたらき。用紙・用心・悪用・応用・作用・利用　②ようじ。用件・用事　③つかう。任用

ちしき　学用品（ノート・えんぴつ・じょうぎ・コンパスなど）・日用品（タオル・せっけん・茶わん・歯ブラシなど）

曜

おん　ヨウ

くん　ー



ひかりが たかく かがやくこと。

日　𣊠　㬪　曜　曜

いみと ことば　①一週間の日をよぶときにつけることば。七曜表・日曜日　②かがやく。黒曜石

ちしき　曜日の名は、星の名。日(たいよう)・月(つき)・火星・水星・木星・金星・土星

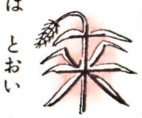
ちゅうい　隹の書きじゅん

来

おん　ライ

くん　く(る)・きた(る)・きた(す)

●はんたい語・行



むぎの ほが たれ さがる ようす。

むぎは とおい ところから きた たべもの。つまり「くる」こと。

一　丷　亚　平　来

いみと ことば　①くる。来客・来航・来信・渡来　②このつぎ。来春・来年・未来　③もともと。元来・本来

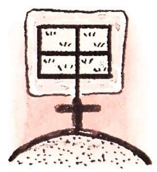
さんこう　まとめておぼえよう。

- 先月→今月→来月→再来月
- 先週→今週→来週→再来週
- 去年→今年→来年→再来年

里

おん　リ

くん　さと



田と 土を あわせた 字。

きちんと すじめを つけて せいりした 人が すめる ところ。

丨　冂　日　甲　里

いみと ことば　①むらざと。村里・山里　②ふるさと。里帰り・里心・郷里　③子どもをあずけた家。里親

ちしき　「うた」

♪春が来た　春が来た　どこに来た
山に来た　里に来た
野にも来た♪

理

おん　リ

くん　ー



田んぼと 土。すじめを つけたところ。

玉の さけ目や すじもよう。すじみちと いう いみ。

一　丅　玎　玾　理

いみと ことば　①大もとのきまり。理想・理論・原理・道理　②りくつ。理くつ　③ととのえる。理はつ・調理・修理・整理

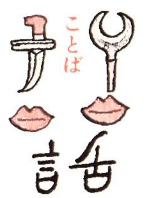
ちゅうい　にている字

理　り　　埋　う(める)

話

おん　ワ

くん　はな(す)・はなし



ことばを かわして はなしあう。

言　言　訁　訐　話

いみと ことば　①はなす。話術・会話・対話・談話・通話　②はなし。世間話・話題・神話・童話・民話

ちゅうい　「話」と「話した」

- 先生がお話しした。
- 上手に話した。

音訓さくいん

＊カタカナは　おんよみ、ひらがなは　くんよみです。
＊くんよみの　あかい　字は、おくりがなです。
＊あかい　すう字は、その　かん字を　ならう　学ねんです。
＊学ねんの　下の　すう字は、せつ明の　ある　ページです。

あ

読み	漢字	学年	ページ
あいだ	間	②	173
あう	会	②	170
あう	合	②	184
あお	青	①	62
あおい	青	①	62
あか	赤	①	60
あかい	赤	①	60
あからむ	赤	①	60
あからめる	赤	①	60
あかり	明	②	215
あがる	上	①	44
あかるい	明	②	215
あき	秋	②	191
あきらか	明	②	215
あく	空	①	102
あける	空	①	102
あける	明	②	215
あげる	上	①	44
あさ	朝	②	203
あざ	字	①	132
あし	足	①	72
あたま	頭	②	207
あたらしい	新	②	194
あたる	当	②	206
あてる	当	②	206
あと	後	②	180
あに	兄	②	177
あね	姉	②	188
あま	天	①	100
あま	雨	①	104
あめ	天	①	100
あめ	雨	①	104
あゆむ	歩	②	213
あらた	新	②	194
あるく	歩	②	213
あわす	合	②	184
あわせる	合	②	184
アン	行	②	183

い

読み	漢字	学年	ページ
いう	言	②	179
いえ	家	②	169
いかす	生	①	122
いきる	生	①	122
いく	行	②	183
いけ	池	②	201
いける	生	①	122
いし	石	①	112
イチ	一	①	6
いち	市	②	187
イツ	一	①	6
いつ	五	①	14
いつつ	五	①	14
いと	糸	①	150
いぬ	犬	①	134
いま	今	②	185
いもうと	妹	②	215
いる	入	①	84
いれる	入	①	84
いろ	色	②	193
いわ	岩	②	173
イン	引	②	166
イン	音	①	146

う

読み	漢字	学年	ページ
ウ	右	①	50
ウ	羽	②	167
ウ	雨	①	104
うえ	上	①	44
うお	魚	②	176
うし	牛	②	175
うしろ	後	②	180
うた	歌	②	169
うたう	歌	②	169
うち	内	②	208
うま	馬	②	209
うまれる	生	①	122
うみ	海	②	171
うむ	生	①	122
うる	売	②	210
うれる	売	②	210
うわ	上	①	44
ウン	雲	②	167

え

読み	漢字	学年	ページ
エ	回	②	170
エ	会	②	170
エ	絵	②	171
エン	円	①	140
エン	遠	②	168
エン	園	②	167

お

読み	漢字	学年	ページ
お	小	①	56
オウ	王	①	142
オウ	黄	②	184
おう	生	①	122
おお	大	①	52
おおい	多	②	199
おおいに	大	①	52
おおきい	大	①	52
おおやけ	公	②	181
おくれる	後	②	180
おこなう	行	②	183
おしえる	教	②	177
おそわる	教	②	177
おと	音	①	146
おとうと	弟	②	204
おとこ	男	①	78
おなじ	同	②	207
おもう	思	②	188
おや	親	②	195
おりる	下	①	46
おろす	下	①	46
オン	音	①	146
オン	遠	②	168
おんな	女	①	80

か

読み	漢字	学年	ページ
カ	下	①	46
カ	火	①	34
カ	花	①	106
カ	何	②	168
カ	科	②	168
カ	夏	②	169
カ	家	②	169
カ	歌	②	169
か	日	①	30
ガ	画	②	170
カイ	回	②	170
カイ	会	②	170
カイ	海	②	171
カイ	絵	②	171
かい	貝	①	138
ガイ	外	②	171
かう	交	②	181
かう	買	②	210
かえす	帰	②	175
かえる	帰	②	175
かお	顔	②	174
カク	角	②	172
カク	画	②	170
かく	書	②	192
ガク	学	①	124
ガク	楽	②	172
かざ	風	②	212
かしら	頭	②	207
かず	数	②	195
かぜ	風	②	212
かぞえる	数	②	195
かた	方	②	214
かた	形	②	178
かたち	形	②	178
かたな	刀	②	205
かたらう	語	②	181
かたる	語	②	181
カツ	活	②	172
カッ	合	②	184
ガツ	月	①	32
ガッ	合	②	184
かど	角	②	172
かど	門	②	216
かな	金	①	40
かね	金	①	40
かみ	上	①	44
かみ	紙	②	189
かよう	通	②	204
から	空	①	102
からだ	体	②	200
かわ	川	①	94
かわす	交	②	182
カン	間	②	173
ガン	丸	②	173
ガン	元	②	178
ガン	岩	②	173
ガン	顔	②	174
かんがえる	考	②	183

き

読み	漢字	学年	ページ
キ	気	①	148
キ	汽	②	174
キ	記	②	174
キ	帰	②	175
き	木	①	38
き	黄	②	184
きく	聞	②	212
きこえる	聞	②	212
きた	北	②	214
きたす	来	②	218
きたる	来	②	218
キュウ	九	①	22
キュウ	弓	②	175
キュウ	休	①	86
ギュウ	牛	②	175
ギョ	魚	②	176
キョウ	兄	②	177
キョウ	京	②	176
キョウ	教	②	177
キョウ	強	②	176
ギョウ	行	②	183
ギョウ	形	②	178
ギョク	玉	①	144
きる	切	②	197
きれる	切	②	197
キン	今	②	185
キン	近	②	177
キン	金	①	40

く

読み	漢字	学年	ページ
ク	九	①	22
ク	口	①	68
ク	工	②	181
クウ	空	①	102
くう	食	②	194
くさ	草	①	108
くださる	下	①	46
くだす	下	①	46
くだる	下	①	46
くち	口	①	68
くに	国	②	185
くび	首	②	191
くみ	組	②	199
くむ	組	②	199
くも	雲	②	167
くらう	食	②	194
くる	来	②	218
くるま	車	①	152
くろ	黒	②	185
くろい	黒	②	185

け

読み	漢字	学年	ページ
ケ	気	①	148
ケ	家	②	169
け	毛	②	216
ゲ	下	①	46
ゲ	外	②	171
ゲ	夏	②	169
ケイ	兄	②	177
ケイ	形	②	178
ケイ	京	②	176
ケイ	計	②	178
ゲツ	月	①	32
ケン	犬	①	134
ケン	見	①	88
ケン	間	②	173

読み	漢字	学年	ページ
ゲン	元	②	178
ゲン	言	②	179
ゲン	原	②	179

こ

読み	漢字	学年	ページ
コ	戸	②	179
コ	古	②	180
こ	小	①	56
こ	子	①	76
こ	木	①	38
こ	黄	②	184
ゴ	五	①	14
ゴ	午	②	180
ゴ	後	②	180
ゴ	語	②	181
コウ	口	①	68
コウ	工	②	181
コウ	公	②	181
コウ	広	②	182
コウ	考	②	183
コウ	交	②	182
コウ	光	②	182
コウ	行	②	183
コウ	後	②	180
コウ	校	①	126
コウ	高	②	183
コウ	黄	②	184
ゴウ	合	②	184
ゴウ	強	②	176
こえ	声	②	196
コク	石	①	112
コク	谷	②	184
コク	国	②	185
コク	黒	②	185
ここの	九	①	22
ここのつ	九	①	22
こころ	心	②	194
こたえ	答	②	207
こたえる	答	②	207
こと	言	②	179
こまか	細	②	186
こまかい	細	②	186
こめ	米	②	213
こわ	声	②	196
コン	今	②	185
コン	金	①	40
ゴン	言	②	179

さ

読み	漢字	学年	ページ
サ	左	①	48
サ	作	②	186
サ	茶	②	202
サイ	才	②	186
サイ	切	②	197
サイ	西	②	196
サイ	細	②	186
さかな	魚	②	176
さがる	下	①	46
さき	先	①	120
サク	作	②	186
さげる	下	①	46
サッ	早	①	158
さと	里	②	219
サン	三	①	10
サン	山	①	92
サン	算	②	187

し

読み	漢字	学年	ページ
シ	子	①	76
シ	止	②	187
シ	四	①	12
シ	市	②	187
シ	矢	②	188
シ	糸	①	150
シ	自	②	189
シ	姉	②	188
シ	思	②	188
シ	紙	②	189
ジ	耳	①	66
ジ	字	①	132
ジ	寺	②	189
ジ	自	②	189
ジ	地	②	201
ジ	時	②	190
しいる	強	②	176
シキ	色	②	193
ジキ	直	②	203
ジキ	食	②	194
した	下	①	46
したしい	親	②	195
したしむ	親	②	195
シチ	七	①	18
シツ	室	②	190
ジツ	日	①	30
ジッ	十	①	24
しも	下	①	46
シャ	車	①	152
シャ	社	②	190
シャク	石	①	112
シャク	赤	①	60
ジャク	弱	②	191
シュ	手	①	70
シュ	首	②	191
シュウ	秋	②	191
シュウ	週	②	192
ジュウ	十	①	24
シュツ	出	①	82
シュン	春	②	192
ショ	書	②	192
ジョ	女	①	80
ショウ	上	①	44
ショウ	小	①	56
ショウ	少	②	193
ショウ	生	①	122
ショウ	正	①	154
ショウ	声	②	196
ショウ	青	①	62
ショウ	星	②	196
ジョウ	上	①	44
ジョウ	場	②	193
ショク	色	②	193
ショク	食	②	194
しら	白	①	58
しる	知	②	201
しるす	記	②	174
しろ	白	①	58
しろい	白	①	58
シン	心	②	194
シン	森	①	98
シン	新	②	194
シン	親	②	195
ジン	人	①	74

す

読み	漢字	学年	ページ
ス	子	①	76
ス	数	②	195
ズ	図	②	195
ズ	頭	②	207
スイ	水	①	36
スイ	出	①	82
スウ	数	②	195
すくない	少	②	193
すこし	少	②	193

せ

読み	漢字	学年	ページ
セイ	生	①	122
セイ	正	①	154
セイ	西	②	196
セイ	声	②	196
セイ	青	①	62
セイ	星	②	196
セイ	晴	②	197
セキ	夕	①	156
セキ	石	①	112
セキ	赤	①	60
セツ	切	②	197
セツ	雪	②	197
セン	川	①	94
セン	千	①	28
セン	先	①	120
セン	船	②	198
セン	線	②	198
ゼン	前	②	198

そ

読み	漢字	学年	ページ
ソ	組	②	199
ソウ	早	①	158
ソウ	走	②	199
ソウ	草	①	108
ソク	足	①	72
そと	外	②	171
その	園	②	167
そら	空	①	102
ソン	村	①	116

た

読み	漢字	学年	ページ
タ	太	②	200
タ	多	②	199
た	田	①	114
タイ	大	①	52
タイ	太	②	200
タイ	台	②	200
タイ	体	②	200
ダイ	大	①	52
ダイ	内	②	208
ダイ	台	②	200
ダイ	弟	②	204
たか	高	②	183
たかい	高	②	183
たかまる	高	②	183
たかめる	高	②	183
たけ	竹	①	110
たす	足	①	72
だす	出	①	82
ただしい	正	①	154
ただす	正	①	154
ただちに	直	②	203
たつ	立	①	90
たてる	立	①	90
たに	谷	②	184
たのしい	楽	②	172
たのしむ	楽	②	172
たべる	食	②	194
たま	玉	①	144
たりる	足	①	72
たる	足	①	72
ダン	男	①	78

ち

読み	漢字	学年	ページ
チ	池	②	201
チ	地	②	201
チ	知	②	201
ち	千	①	28
ちいさい	小	①	56
ちかい	近	②	177
ちから	力	①	164
チク	竹	①	110
ちち	父	②	211
チャ	茶	②	202
チュウ	中	①	54
チュウ	虫	①	136
チュウ	昼	②	202
チョウ	町	①	118
チョウ	長	②	202
チョウ	鳥	②	203
チョウ	朝	②	203
チョク	直	②	203

つ

読み	漢字	学年	ページ
ツ	通	②	204
ツウ	通	②	204
つき	月	①	32
つくる	作	②	186
つち	土	①	42
つの	角	②	172
つよい	強	②	176
つよまる	強	②	176
つよめる	強	②	176

て

読み	漢字	学年	ページ
て	手	①	70
デ	弟	②	204
テイ	体	②	200
テイ	弟	②	204
てら	寺	②	189
でる	出	①	82
テン	天	①	100
テン	店	②	204
テン	点	②	205
デン	田	①	114
デン	電	②	205

と

読み	漢字	学年	ページ
ト	土	①	42
ト	図	②	195
と	十	①	24
と	戸	②	179
ド	土	①	42
トウ	刀	②	205
トウ	冬	②	206
トウ	当	②	206
トウ	東	②	206
トウ	答	②	207
トウ	道	②	208
トウ	読	②	208
トウ	頭	②	207
ドウ	同	②	207
ドウ	道	②	208
とお	十	①	24
とおい	遠	②	168
とおす	通	②	204
とおる	通	②	204
とき	時	②	190
トク	読	②	208
ドク	読	②	208
とし	年	①	160
とまる	止	②	187
とめる	止	②	187
とも	友	②	217

とり	鳥	②	203

な

ナ	南	②	209
な	名	①	162
ナイ	内	②	208
なおす	直	②	203
なおる	直	②	203
なか	中	①	54
ながい	長	②	202
なかば	半	②	211
なく	鳴	②	216
なつ	夏	②	169
なな	七	①	18
ななつ	七	①	18
なに	何	②	168
なの	七	①	18
ならす	鳴	②	216
なる	鳴	②	216
ナン	男	①	78
ナン	南	②	209
なん	何	②	168

に

ニ	二	①	8
にい	新	②	194
ニク	肉	②	209
にし	西	②	196
ニチ	日	①	30
ニュウ	入	①	84
ニョ	女	①	80
ニョウ	女	①	80
ニン	人	①	74

ね

ね	音	①	146
ネン	年	①	160

の

の	野	②	217
のち	後	②	180
のぼす	上	①	44
のぼせる	上	①	44
のぼる	上	①	44

は

は	羽	②	167
バ	馬	②	209
ば	場	②	193
バイ	売	②	210
バイ	買	②	210
はいる	入	①	84
はからう	計	②	178
はかる	図	②	195
はかる	計	②	178
ハク	白	①	58
バク	麦	②	210
はしる	走	②	199
はずす	外	②	171
はずれる	外	②	171
ハチ	八	①	20
はな	花	①	106
はなし	話	②	219
はなす	話	②	219
はね	羽	②	167
はは	母	②	213
はやい	早	①	158
はやし	林	①	96
はやまる	早	①	158
はやめる	早	①	158
はら	原	②	179
はらす	晴	②	197
はる	春	②	192
はれる	晴	②	197
ハン	半	②	211
バン	万	②	215
バン	番	②	211

ひ

ひ	日	①	30
ひ	火	①	34
ひがし	東	②	206
ひかり	光	②	182
ひかる	光	②	182
ひく	引	②	166
ひける	引	②	166
ひだり	左	①	48
ひと	一	①	6
ひと	人	①	74
ひとつ	一	①	6
ヒャク	百	①	26
ビャク	白	①	58
ひる	昼	②	202
ひろい	広	②	182
ひろがる	広	②	182
ひろげる	広	②	182
ひろまる	広	②	182
ひろめる	広	②	182

ふ

フ	父	②	211
フ	歩	②	213
フ	風	②	212
ブ	分	②	212
ブ	歩	②	213
フウ	風	②	212
ふた	二	①	8
ふたつ	二	①	8
ふとい	太	②	200
ふとる	太	②	200
ふな	船	②	198
ふね	船	②	198
ふみ	文	①	130
ふゆ	冬	②	206
ふるい	古	②	180
ふるす	古	②	180
フン	分	②	212
ブン	文	①	130
ブン	分	②	212
ブン	聞	②	212

へ

ベイ	米	②	213

ほ

ホ	歩	②	213
ボ	母	②	213
ホウ	方	②	214
ほか	外	②	171
ホク	北	②	214
ボク	木	①	38
ボク	目	①	64
ほし	星	②	196
ほそい	細	②	186
ほそる	細	②	186
ホン	本	①	128

ま

ま	目	①	64
ま	馬	②	209
ま	間	②	173
マイ	米	②	213
マイ	毎	②	214
マイ	妹	②	215
まえ	前	②	198
まさ	正	①	154
まじる	交	②	182
まじわる	交	②	182
まち	町	①	118
まなぶ	学	①	124
まる	丸	②	173
まるい	丸	②	173
まるい	円	①	140
まるめる	丸	②	173
まわす	回	②	170
まわる	回	②	170
マン	万	②	215

み

み	三	①	10
みえる	見	①	88
みぎ	右	①	50
みず	水	①	36
みずから	自	②	189
みせ	店	②	204
みせる	見	①	88
みち	道	②	208
みつ	三	①	10
みっつ	三	①	10
みなみ	南	②	209
みみ	耳	①	66
ミョウ	名	①	162
ミョウ	明	②	215
みる	見	①	88

む

む	六	①	16
むい	六	①	16
むぎ	麦	②	210
むし	虫	①	136
むっつ	六	①	16
むら	村	①	116
むろ	室	②	190

め

め	女	①	80
め	目	①	64
メイ	名	①	162
メイ	明	②	215
メイ	鳴	②	216

も

モウ	毛	②	216
モク	木	①	38
モク	目	①	64
もちいる	用	②	218
もと	下	①	46
もと	元	②	178
もと	本	①	128
もり	森	①	98
モン	門	②	216
モン	聞	②	212

や

ヤ	夜	②	217
ヤ	野	②	217
や	八	①	20
や	矢	②	188
や	家	②	169
やしろ	社	②	190
やすまる	休	①	86
やすむ	休	①	86
やすめる	休	①	86
やつ	八	①	20
やっつ	八	①	20
やま	山	①	92

ゆ

ユウ	友	②	217
ユウ	右	①	50
ゆう	夕	①	156
ゆき	雪	②	197
ゆく	行	②	183
ゆみ	弓	②	175

よ

よ	四	①	12
よ	夜	②	217
ヨウ	用	②	218
ヨウ	曜	②	218
よう	八	①	20
よつ	四	①	12
よっつ	四	①	12
よむ	読	②	208
よる	夜	②	217
よわい	弱	②	191
よわまる	弱	②	191
よわめる	弱	②	191
よわる	弱	②	191
よん	四	①	12

ら

ライ	来	②	218
ラク	楽	②	172

り

リ	里	②	219
リ	理	②	219
リキ	力	①	164
リツ	立	①	90
リュウ	立	①	90
リョク	力	①	164
リン	林	①	96

ろ

ロク	六	①	16

わ

ワ	話	②	219
わかつ	分	②	212
わかる	分	②	212
わかれる	分	②	212
わける	分	②	212

■執筆／栗岩　英雄
■表紙デザイン／鶴岡　信治
■表紙・とびら絵／鈴木　伸一
■本文まんが／たかや　健二
■本文絵／一峰　大二
■キャラクター原作／藤子・F・不二雄
©藤子プロ

ドラえもんの学習シリーズ

ドラえもんのかん字じてん—ステップ1

1990年12月20日　初版第1刷発行
2015年1月20日　第52刷発行

発行者　伊藤　護
発行所　株式会社　小学館
東京都千代田区一ツ橋2－3－1　〒101-8001
電話・編集／東京03（3230）5685
販売／東京03（5281）3555

印刷所　図書印刷株式会社
製本所　株式会社難波製本

ISBN4-09-253101-X

9784092531017
ISBN4-09-253101-X
C8581 ¥760E
1928581007609
定価：本体760円＋税
小学館

ドラえもんの学習シリーズ

ドラえもんの

●国語おもしろ攻略●

かん字じてん ステップ1

